

在宅・福祉静岡ブロック

2024 年度は 1 月の浜松市行政区再編から始まり、4 月並びに 6 月での介護・障害福祉サービス・診療報酬の改定と施策的変容を課せられた 1 年間であった。また、我々が担う「地域」を鑑みると、その実情は日々刻々と変化を続けており、その内容も程度も地域により大きな差異が認められる。当ブロックに属する全事業所は、自らが対応すべき「地域」を今一度正確に把握し、今まさに発生している課題のみならず未来を見据えたニーズの変容を想定し、それぞれのニーズに合致するサービスが提供できるよう事業のベストサイジングを効果的に実践していく必要がある。さらに、社会福祉法人としてのソーシャルワーク実践を改めて我々の原点と捉え、サービス提供困難地域等への積極的な介入を推し進めていく必要性も等しく高いと考える。そのためには、質の高いサービスを提供し続ける専門職はもとより、事業を支えるマネジャーの育成もスピードを増し、変容する地域課題に対応し得る人材の育成に注力していく。併せて、有能な人材の発掘と育成に繋げ、静岡ブロックの管理体制がきめ細かいものとなるよう、エリア軸・職種軸・事業軸・世代軸の 4 軸へとマトリクスを発展させていく。これらの対策を計画的に実践することで、変化を続けていく地域課題にフレキシブルに対応できる組織としての体力を養うとともに、地域実情に応じ介護・福祉と医療との事業を超えた連携をはじめ、法人内外の連携にも積極的に取り組むことにより、地域におけるより強固なセーフティネットを構築していくことを目指す。

【在宅・福祉静岡ブロック理念】

「地域への感謝と貢献」

私たちは必要とされることを待つことなく、自ら出向き、共に生きる

【2025 年度目標】

「社会福祉法人としてのソーシャルワーク実践」

現在だけではなく未来を見据え、一手先の質の高い支援を実践する

【経営方針】

1. 現在だけでなく未来を見据えた地域課題を検証し、実現性のある計画を立案・実践する
2. 各事業の永続性を見極めた上で事業集約・分散等を図り、効果的な投資に繋げる
3. 専門職の働きやすさ、やりがいを追求したキャリア形成並びに業務革新を促進する

【事業計画】

1. 静岡ブロック管理・運営体制のアップデート
 - (ア) 事業連動等の展開に合致した 4 エリアへ再編する
 - (イ) エリア軸・職種軸・事業軸・世代軸の 4 次元的な管理・運営体制を構築する
 - (ウ) 部門会議の機能強化を図り、専門職やマネジャーとしての新たな役割・機能を創出する
 - (エ) 静岡ブロック運営管理室を再編し、事業の牽引・後方支援等の機能強化を図る
 - (オ) 就労支援への展開を視野に、請求業務における役割整理や業務集約を推し進める

2. 地域課題の抽出と実現可能な計画立案・実践

- (ア) 地域実情や事業継続性を予測し、事業の統合・分割等の再編成を推し進める
(通所介護・訪問介護・訪問看護・就労支援・地域密着型等の事業)
併せて、新たな地域ニーズに応じた新規事業の検討・提案を行う
- (イ) 中山間地域における福祉・医療提供体制を検討し、行政連動の上、モデル事業を始める
- (ウ) 老朽化した施設の大規模修繕等の具体的計画を立案する(もくせいの里・森町愛光園等)
- (エ) 新たな食事提供体制(直営化、クックフリーズ、配食他)の具体化を図る
- (オ) 「こども」という領域で障害の有無にかかわらず育ちを支援するスキームを策定する。
併せて、こども園の入園者減少を見越した空き教室の利活用を検討する
- (カ) 聖隷福祉総合相談センター和合の機能評価を適時実施するとともに、医療・保健等の他領域を踏まえた相談機能の強化を図る
- (キ) 身寄りのない方の支援策を新たな枠組みも視野に入れ検討・構築する
- (ク) 地域実情に応じ、法人内での事業を超えた連携を図る。また、法人外事業との連携も検討し、効果的な地域包括ケアシステムの構築を目指す

3. 専門職のキャリアプランの構築と働きやすさ・やりがいの追求

- (ア) ICT化、ロボット導入等に伴う新たな価値観の創造と利用者・職員への還元を促進する
- (イ) 意図的な人材の確保・登用の仕組みを構築する
- (ウ) 専門職としての矜持を保ち、地域における長期的なキャリアイメージが築けるように、各専門職のキャリアパスを形成する(職場体験・資格取得支援等)
- (エ) 「次世代マネジャー育成プログラム」を策定し、次世代のマネジャー候補を発掘・育成・擁立する(相談役研修・視察研修・海外研修等)
- (オ) 現任マネジャーの業務整理を図り、マネジャーが自施設・職場に注力しやすい環境を設定する。その上で、新任マネジャーへの伴走型支援を徹底する
- (カ) 質の高い専門職の確保ができるように新卒採用における新たなルートを確立する(大学・専門学校)。併せて、特定技能1号外国人等の新たな外国人材の雇用・活用を促進する

4. 多様な人材の有効活用とサービスの質向上

- (ア) ベテラン専門職やシニア世代、働く上で何らかの制限がある方等の多様な人材が活躍できる仕組みを検討の上、実践する
- (イ) 突発的な欠員等による負担感を軽減するための支援を「介護力機能向上部隊」が実践する。併せて、継続的かつ事業所横断的に展開できるような仕組みを検討する
- (ウ) 適切なサービス提供がなされているかのセルフチェックを徹底するとともに、外部視点によるサービス評価を実施しサービスの質向上を図る

5. 運営の安定化

- (ア) 各報酬内容を精査し、適切な対応を実施するとともに新たな加算算定に努める
- (イ) 事業を永続するための方針並びに投資計画を策定する
- (ウ) 人件費や物価高騰等による経営への影響度を適時検証し、柔軟かつ迅速な対応を図る

和合せいれいの里

特別養護老人ホーム和合愛光園 和合愛光園和合サテライト
障害者支援施設みとす 和合愛光園デイサービスセンター
聖隷チャレンジ工房和合 浜松市中障がい者相談支援センター 聖隷ヘルパーセンター
聖隷ケアプランセンター和 地域包括支援センター和合 訪問看護ステーション住吉
聖隷こども発達支援センター和合 相談支援事業所くすのき

2024 年度は、浜松市行政区再編に始まり、介護・障害・医療の報酬改定等に伴う大きな変化の年であった。変化に伴う混乱は各事業所の運営努力のもと最小限に抑えられ、取り組むべき課題の検証も随時行えた。その中で見えてきた課題としては、我々が担うべき「地域」の再検証と再認識を改めて行い、その「地域」が抱えている課題の未来を推測した上での事業のベストサイジングを図ることと捉える。あわせて、我々が社会福祉事業を担っている「目的」を今一度、施設理念と系統づけることで専門職である我々の思いの向かう先を明確化させる必要性を強く感じている。その上で、事業の核となる専門職の獲得・育成にも注力していく。我々を取り巻く変化のスピードは加速度を増すことが予想されるため、和合せいれいの里の全事業所は、今まさに発生している地域課題のみならず未来を見据えたニーズの変容を想定し、それぞれのニーズに適合するサービスが提供できるよう、地域実情を面的かつ立体的に把握していく必要性を強く感じるとともに、それら地域ニーズに応え得る質の高いサービスを提供できる組織へと成長を続ける。

【施設理念】

和合せいれいの里の全事業所および全職員は、和合せいれいの里の利用者一人ひとりがその人らしい生き方ができるよう常に利用者の視点に立ち、そのために必要とされる質の高い適切な支援を切れ目なく総合的に提供する。

【経営方針】

1. 地域共生の視点の下、複合施設としての利点を活かし、地域課題の抽出とライフステージの変化に応じた切れ目のない支援体制の構築を目指す
2. 利用者、家族、地域に安全と安心を与え続けられるようサービスの質の向上に努める
3. 専門職の多様なキャリアプランの構築と、AI・ICT・ロボット等の機器やシステムの具体的な活用を図ることで、専門職としての働きやすさとやりがいを追求する
4. 安定した運営が継続できるよう、適切な職員配置、コスト管理、設備改修等に努める
5. 防災・福祉拠点としての役割等を果たし、地域貢献に取り組む

【事業・運営計画】

1. ライフステージに応じた切れ目のない支援体制の構築
(ア) 地域ニーズに合致したサービスを計画的に創造、拡充していく
(事業のベストサイジング：通所介護事業・セラピストチーム・訪問介護事業・

訪問看護事業・就労支援事業 等)

- (イ) 制度の枠を超えた切れ目のない支援体制を構築するとともに、地域への周知に努める
(聖隷福祉総合相談センター和合の機能評価と機能強化、専門職の横断的な働き方 等)
- (ウ) 地域との意図的な連結機会を保ちながら、事業種別を超えた協議を重ね地域課題を見通す能力(ターゲティング・マーケティング)を醸成する

2. 「安心して暮らし続けられる」取り組みの創出と定着

- (ア) 利用者や家族、地域の方々が求めていることと提供サービスとの差異を適時評価し、選択され続けるサービスに向けて修正を重ねることで、サービスの質の強化に努める
- (イ) ICT 機器を活用することでリスクマネジメントを徹底し、事故の発生予防に努めるとともに、利用者の状態変化に早期に気づき状態悪化を抑制していく。あわせて、ICT 機器が使用困難となった場合を想定した対応策を立案し実践する
- (ウ) こどもから高齢者まで世代を問わず支援困難な方や医療ニーズの高い方等の受け入れを積極的に検討、実践していく。あわせて、稼働率を意識した受け入れの徹底を図る
- (エ) 個別性にフォーカスしたケアに努め、利用者の生きがいややりがいを創造する

3. 新たな働き方・やりがい・役割の創造

- (ア) 資格取得や関連研修等の受講を促進し、専門性の向上を図る
(社会福祉士・介護支援専門員 等)
- (イ) 和合せいれいの里の専門職としてのブランディングを検討・確立する
(介護職ユニフォームの他職種への展開・専門職キャリアパス構築 等)
- (ウ) 次世代リーダーの育成に注力する。あわせて、育成スキームを確立する
- (エ) 根拠を持ったケアが実践できるように、プリセプター制度等の OJT 体制を再構築する。
あわせて、画一的な育成システムではなく、多様性に対応できるシステムを創造する
- (オ) 実装された ICT 機器等の活用を図り、業務の効率化並びに業務負担軽減を目指す。
あわせて、利用者・職員への還元効果等の成果を検証し実感する

4. 運営安定化の推進

- (ア) 生活支援ハウスやまぶきの用途変更、老朽化設備等への計画的な投資を図る
- (イ) 施設・事業所の継続性を意識し、新たな価値を生み出す計画的な購入、改修を図る
- (ウ) 適切な加算算定、及び効率的な職員配置が行えるように業務改善を図る
- (エ) 水光熱費、消耗備品の購入、及び外部委託業者の契約状況等を評価し、適正化を図る

5. 地域における公益的な取り組み

- (ア) 静岡 DWAT メンバーを中心に、地域の避難訓練等に参加し福祉施設の役割理解を促す
- (イ) 小中学校や介護未経験者、近隣企業等を対象に、情報発信、介護相談、研修会開催等を通して、介護に対する理解促進、介護離職防止等に貢献する
- (ウ) 学習支援事業へ聖隷キッチン和合の弁当配食を継続する
- (エ) 河川里親制度に登録し、隣接河川の環境美化活動を継続する

【数値指標】

■高齢者入所・通所事業

	和合愛光園			和合サテライト	和合愛光園 デイサービスセンター			
	特養入所		短期		通所介護			
	従来型	ユニット型	従来型 (障害含)	ユニット型	一般型 介護	予防	共生型 機能訓練 生活介護	認知症 対応型
利 用 者 定 員	62 名	40 名	20 名 7 月～27 名	29 名	75 名			12 名
利 用 延 数	22514 名	14160 名	8649 名	10427 名	14276 名	5686 名	1050 名	2704 名
一日平均利用者数	61.7 名	38.8 名	23.7 名	28.6 名	46.2 名	18.4 名	3.4 名	8.8 名
稼 動 率	97.0%	97.0%	93.8%	98.5%	68.0%			72.9%
稼 動 延 日 数	365 日	365 日	365 日	365 日	309 日			309 日
単価（一人一日）	13087 円	15515 円	13100 円	15400 円	8522 円	5510 円	9235 円	14000 円
サービス活動収益	303,786 千円	219,692 千円	113,259 千円	160,584 千円	162,688 千円			37,851 千円
正職常勤換算数	36.2 名	24.2 名	10.5 名	16.0 名	12.9 名			2.6 名
パート常勤換算数	13.9 名	7.5 名	2.1 名	7.0 名	16.2 名			5.2 名

■障害者入所・通所・相談事業

■静岡ブロック

	障害者支援施設 みるとす			相談支援 くすのき	浜松市中障 がい者相談支援 センター	静岡ブロック 運営管理室	基幹型相談 支援事業
	施設入所 生活介護Ⅰ	生活介護Ⅱ	短期入所	特定 児童	浜松市 受託		浜松市 受託
利 用 者 定 員	20 名	20 名	2 名	—	—	—	—
利 用 者 延 数	2745 名	6202 名	1149 名	1845 名	—	—	—
一日平均利用者数	19.9 名	307 日	3.1 名	—	—	—	—
稼 動 率	99.3%	101.0%	157.4%	—	—	—	—
稼 動 延 日 数	365 日	307 日	365 日	—	—	—	—
単価（一人一日）	19121 円	15132 円	9950 円	—	—	—	—
サービス活動収益	144,439 千円	93,854 千円	11,774 千円	35,152 千円	48,816 千円	38,114 千円	6,300 千円
正職常勤換算数	15.4 名	8.4 名	—	5.0 名	7.0 名	10.2 名	1.0 名
パート常勤換算数	5.0 名	7.1 名	—	—	※2.0 名	1.8 名	—

※他法人出向受入

■就労支援・障害児通所支援事業

	聖隷チャレンジ工房和合				聖隷こども発達支援センター和合		
	就労移行	就労継続 B	就労継続 A	就労定着	かるみあ	はなえみ	かるみあ
					児童発達支援	放課後等デイサービス	保育所等訪問支援
利 用 定 員	10 名	15 名	10 名	—	30 名	20 名	—
利用者述べ人数	2152 名	4140 名	1687 名	144 名	7425 名	4708 名	196 名
一日平均利用者数	8.0 名	15.0 名	7.0 名	—	30.7 名	19.8 名	—
稼働率	80.0%	100.0%	69.7%	—	102.3%	98.9%	—
稼働日数(延べ)	269 日	276 日	242 日	—	242 日	238 日	—
単価(一人一日当り)	12444 円	10175 円	6499 円	—	21102 円	7620 円	—
サービス活動収益	31,339 千円	54,693 千円	37,903 千円	4,668 千円	165,667 千円	39,792 千円	4,177 千円
正職常勤換算数	8.5 名				24.3 名		
パート常勤換算数	12.4 名(うち、A型利用者 5.6 名)				8.7 名		

■訪問・居宅介護支援・地域包括支援事業

訪問看護ステーション 住吉	平均利用者数		月訪問件数		年訪問件数		単価		サービス活動収益	常勤換算職員数
	350 名		1861 件		22332 件		10827 円		241,812 千円	30.6 名
聖隷ヘルパーセンター	介護給付				予防給付		単価		サービス活動収益	常勤換算職員数
	平均利用者数	訪問件数		利用者		介護(時間)	予防(時間)			
		月間	年間	月間	年間					
	62.6 名	704 件	8450 件	113 件	1352 件	4500 円	4400 円	72,665 千円	10.5 名	
聖隷ケアプランセンター和	年間請求件数				平均単価			サービス活動収益	常勤換算職員数	
	介護	予防	予防 A	介護	予防	総合 A				
	2418 件	180 件	120 件	18,200 円	4600 円	4100 円	47,414 千円	7.0 名		
地域包括支援センター和合	浜松市受託収入		予防プラン請求件数		うち再委託件数		予防単価	サービス活動収益	常勤換算職員数	
	37,289 千円		4471 件		2700 件		4471 円			
	日常生活支援総合事業の予防プラン									
	種別		ケアマネジメント請求件数		うち再委託件数		ケアマネジメント単価			
	ケアマネジメント A		2385 件		1830 件		4471 円			
	ケアマネジメント B		114 件		36 件		3246 円			
	ケアマネジメント C		0 件		0 件		2195 円			
								63,341 千円	8.1 名	

聖隷ケアセンター初生

和合愛光園初生サテライト
聖隷デイサービスセンター初生

2024年度は、4月に行われた介護報酬改定に対して、今までの取り組みを深化する部分、新たな取り組みを必要とする部分など対応を求められる一年間であった。事業としては、デイサービスにおいて、栄養マネジメントの一環として持ち帰り食の検討、法人内デイサービスとの合同送迎の実施、法人内近隣事業所との連携強化を行った。特別養護老人ホームにおいても、利用者ニーズに応えるべく、担当職員による計画書立案、ショートステイ1床の開設などの整備を行った。在宅生活の支援から施設利用まで手厚く対応できる体制の基礎が出来たと言える。

2025年度は、特別養護老人ホーム、デイサービス、それぞれの事業での役割を明確にし、かつ住み慣れた地域で利用者がいきいきと生活が送れるよう連続性のあるサービス提供を行う。地域課題・ニーズに対して法人内外との事業所と連携し、ケアセンター初生に何ができるのか再考すると共に、必要とされるサービスの提供に繋げていく。また、事業を行うにあたり、未来を見据えた支援を実践し、継続可能な運営を検討、構築する1年とする。

【施設理念】

わたしたちは、住み慣れた地域でその人らしい“暮らし”や“生きがい”を支え続ける

【事業・運営計画】

1. 利用者、地域のニーズに沿ったサービスの見直しによる質の向上

- (ア) 管理栄養士が積極的に事業に参画し、在宅訪問や他機関との連携により栄養マネジメント体制を深化させる。あわせて、持ち帰り食の提供を開始する
- (イ) 事業所としての強みを明確にし、他事業所との連携を強化する
- (ウ) 利用者の計画作成を通して、その人の人生に合わせた計画の立案・サービスの提供を実施する
- (エ) ショートステイ事業を通して、聖隷ケアセンター初生内の事業連携を推進する
- (オ) 地域のニーズに沿って、聖隷ケアセンター初生の強みが最大限活かせるようサービスの検討・実施をしていく（サービス連続性の構築、新たなサービスの検討・提案）

2. 働きがいのある職場環境と人材育成の推進

- (ア) 新たな送迎システムを導入し、法人内事業所との合同送迎実施により人材の活用を推進する
- (イ) ICT機器等の活用を図り、リーダーを中心に業務の効率化、業務負担軽減を目指す。あわせて、OJTを通して次世代リーダーの育成に注力する
- (ウ) 目標参画システムを推奨するにあたり、職員への動機づけ、目標設定、達成への指導、支援を実施する
- (エ) 職員のメンタルヘルスや腰痛等の対象者を減少させるための取り組みを行う

3. 感染症対応、災害時など、いかなる状況においても事業継続ができる体制を構築する
- (ア) 職員個々が役割を遂行できるように、センター内で定期的な訓練、勉強会を実施する
 - (イ) センターにおけるBCP(事業継続計画)を更新し、非常時に地域と相互支援体制が構築できるように地域と会話をしていく
4. 安定した運営の推進
- (ア) 適切な加算算定、及び効率的な職員配置が行えるように業務改善を図る
 - (イ) 新規利用者獲得のためのICTを活用した広報活動の推進
 - (ウ) 業務の見直しを行う中で、業務委託契約等の状況を評価し、適正化を図る
5. 地域における公益的な取組
- (ア) 福祉避難所の役割を果たすことを念頭に、地域防災拠点としての組織作りに取り組む
 - (イ) 地域包括支援センターと協力し、地域に対しての講義等に専門職を派遣し、地域福祉の向上に貢献する
 - (ウ) 各専門職の実習、小・中学校からの福祉体験、特別支援学校の実習受け入れを行い、施設機能を提供する

【数値指標】

	和合愛光園 初生サテライト	和合愛光園 初生サテライト ショートステイ	聖隷デイサービスセンター初生	
			介護給付	総合事業
利 用 者 定 員	29 名	1 名	50 名	(50 名)
利 用 延 数	10,462 名	292 名	9,725 名	846 名
一日平均利用者数	28.7 名	0.8 名	30.5 名	2.4 名
稼 動 率 (%)	98.8%	80.0%	68.4%	
稼 動 延 日 数	365 日	365 日	309 日	
平 均 介 護 度	3.33	3.00	1.67	—
単 価	15,200 円/日	10,600 円/日	10,210 円/回	6,000 円/日
サービス活動収益 (千 円)	159,030 千円	3,094 千円	103,719 千円	
職 員 数 (正 職)	13.2 名		5.0 名	
職 員 数 (パ ー ト)	10.4 名		11.5 名	

聖隷ケアセンター高丘

訪問看護ステーション高丘
聖隷リハビリプラザ IN 高丘
地域包括支援センター高丘
聖隷ケアプランセンター浜松

2024 年度は、地域住民のフレイル予防を目的とした施設開放・相談会、5 年ぶりに「ケアセンター高丘祭り」の開催等、地域の方とのつながりを大切にしたい 1 年となった。

2025 年度は、ケアセンターとしての連携を強化し地域で「選ばれる施設」となるよう各事業の展開をする。また、働く職員にとっても魅力のある施設を目指し、ICT 化を活用した業務の効率化や地域の方々とのつながりを継続できる行事の開催にも注力していく。

【施設理念】

わたしたちは地域に根ざしその人らしく自立した生活を支援します

【事業・運営計画】

1. 利用者特性をつかみ、地域の中で、質の高いサービスを展開できる
 - (ア) 訪問看護ステーション高丘は事例検討や職場内でのサポートを強化し、地域のニーズに対応できる人材を育成する
 - (イ) 聖隷リハビリプラザ IN 高丘は心身機能の維持向上のための気軽に通える事業所への再編を図る
 - (ウ) 地域包括支援センター高丘は認知症啓発に加え、他地域包括支援センター、多機関と連携し、外国籍の方の支援や身寄りのない方への意思決定支援等の地域課題に取り組む
 - (エ) 聖隷ケアプランセンター浜松は法令順守と根拠に基づいたケアマネジメントをチームとして実践し、複雑化したケース課題や在宅看取りに対応する
 - (オ) 各事業ともに法人内を問わず近隣の病院との連携構築を進める
2. ケアセンター高丘内の連携を強化することでセンター全体として利用者・地域の方々を多角的に支援する
 - (ア) センター化の強みを生かし、共通利用者の同行訪問・カンファレンスの参加を実施する
 - (イ) 交互の職場実習を行い、各事業についての理解を深める
 - (ウ) 職員全体会で協働して地域とつながる事を検討する
3. 職員 1 人ひとりがやりがいを持ち、働きやすい職場風土を醸成する
 - (ア) 電子署名や AI ケアプラン活用、リハケアを活用し業務の効率化を図る
 - (イ) 他事業所との連携によりデイサービスの合同送迎を実施し、法人としての強みを生かした、人材の活用をする
 - (ウ) サロンや地域の活動に積極的に出向く

4. 地域における公益的な取り組み

- (ア) 施設開放・ケアセンター祭りなど地域の方と関わり、施設の周知ができるような催しを開催する
- (イ) 自治会の防災訓練やクリーンデー等、地域行事に積極的に参加する
- (ウ) ロコモーショントレーニングサロン活動を継続する
- (エ) 各専門職の実習や中学生の職場体験、ボランティアなどの積極的に受け入れる

【数値指標】

訪問看護事業（訪問看護ステーション高丘）

平均利用者	月訪問件数	年訪問件数	単価（円）	サービス活動 収益（千円）	職員数 （常勤換算）
184 人	1,048 件	12,570 件	9,547 円	120,564 千円	14.5 名

通所介護事業（聖隷リハビリプラザ IN 高丘）

介護給付			予防給付		共生型		サービス 活動収益 (千円)	職員数 (常勤 換算)
平均 利用者数	月間 利用者数	年間 利用者数	月間 利用者数	年間 利用者数	月間 利用者数	年間 利用者数		
22.5 名	578.2 名	6,938 名	99.3 名	1,191 名	30.8 名	369 名	79,703 千 円	14.9 名
単価 (円)	6,323 円		27,387 円		8,519 円			

地域包括支援事業（地域包括支援センター高丘）

浜松市受託収入（千円）	予防プラン 請求件数	うち 再委託件数	予防プラン 単価	サービス 活動収益 （千円）	職員数 （常勤換算）
42,631 千円	3,830 件	3,014 件	6,294 円		
日常生活支援総合事業の予防プラン				79,446 千円	7.7 名
種別	予防プラン	うち	予防プラン		
	請求件数	再委託件数	単価		
ケアマネジメント A	2,391 件	1,701 件	4,805 円		
ケアマネジメント B	372 件	0 件	3,277 円		
ケアマネジメント C	0 件	0 件	0 円		

居宅介護支援事業（聖隷ケアプランセンター浜松）

年間請求件数		平均単価		訪問調査		サービス活動収益 （千円）	職員数 （常勤 換算）
介護	予防	介護	予防	年間件数	単価		
2,293 件	288 件	16,300 円	4,375 円	12 件	4,400 円	39,634 千円	5.7 名

聖隷コミュニティケアセンター

2024年度は、利用者満足度の高いサービス提供が行えるよう、レンタル利用者への福祉用具定期点検（モニタリング）に重点を置き、福祉用具の見直し等に対するニーズに応えることができた。また、WEB販売サイトを導入し、販売チャンネル拡大の新たな一步を踏み出した。人材確保については、退職、異動に伴った人員補充が行えず、担当者間でのフォロー体制構築は実現できなかった。

2025年度は、利用者及び事業所から求められるニーズを再確認し実践する為、レンタルや販売の各種情報の収集と分析、多職種との繋がりをより強固にしていく。また、事業所内の役割分担や配置を見直し、人財を効率的に活用することで生産性を高め、サービスの質の向上を目指す。

1. ニーズを多角的に捉えたサービスの質の向上

- (ア) 福祉用具定期点検（モニタリング）の結果を収集・分析する仕組みを構築する。また、新たに利用者アンケートを実施し、更なるニーズの探求に努める
- (イ) 関連部門会議への積極的な参加や合同訪問等を実施し、多職種の視点に立ち利用者への理解を深めるとともに、事業所ニーズを把握する
- (ウ) 法人外居宅サービス事業所への定期訪問と新規事業所の開拓に努める
- (エ) WEB販売サイト「Lea（レア）」の運用確立と販売規模の拡大を図る
- (オ) 店舗利用者のニーズを可視化・分析し、店舗の在り方を再考する

2. 就労支援事業所とのコラボレーションを実施

- (ア) 外部法人への営業に合わせて、就労支援事業のコマーシャルを実施する
- (イ) WEB販売業務の委託に向けて協議する

3. 職員の意識向上と新たな働き方の創出

- (ア) 意図的なジョブローテーションと役割の付与により、次世代職員を育成する
- (イ) 営業・接遇等の外部研修へ積極的に参加し、専門職としての知見を深める。また、内部共有する仕組みを構築し、職員全体の知識向上に努める
- (ウ) 訪問におけるレイバースケジュールを再構築し、業務負荷の軽減を図る

4. 運営安定化の推進

- (ア) レンタル・住宅改修・販売の目標管理を継続し、安定した収益確保に努める
- (イ) 業務内容や支援体制を見直し、職員配置の適正化を図る
- (ウ) 取引業者の契約状況を再評価し、支出の適正化を図る

5. 地域における公益的な取り組み

- (ア) 法人の在宅サービス事業所や行政が行う地域活動へ参画する

(イ) 福祉用具・防災用品等を有事の際に貸し出しできる仕組みを構築する

【2025 事業収益：数値指標】

	レンタル件数	介護保険 収益	販売 収益	住宅改修 収益	サービス 活動収益	職員数 (常勤換算)
コミュニティセンター	14,945 件	196,645 千円	243,070 千円	18,480 千円	458,195 千円	32.0 人

聖隷厚生園信生

障害者支援施設 聖隷厚生園信生寮

聖隷厚生園まじわりの家

訪問看護ステーション細江

聖隷ケアプランセンター細江

聖隷ヘルパーセンター浜松北

2025 年度は引き続き医療と介護・福祉の連携強化を行い、利用される方が住み慣れた地域で安心して暮らしていけるよう、一体的な事業展開を目指す。

聖隷厚生園信生寮では、「利用者の意思決定支援」、「職員が定年まで心身ともに健康で安心して働き続けることができる職場づくり」の2つを基本方針とする。利用者と職員が互いの気持ちを理解し合える機会を作り、利用者・職員の心理的安全性が保たれた施設を目指す。

在宅部門においては、利用者が望む地域生活が選択できるように、医療機関、介護保険、障害福祉分野との連携強化を継続し、地域課題の解決や地域の多様なニーズに対応できる事業運営を目指す。

【施設理念】

一人が癒されるために、一人があるべき姿に立帰るために
一人の生命が真にまもり生かされるために、そして地域のために

【経営方針】

1. 利用者が楽しく安心して尊厳のある生活ができる支援を行う
2. 地域課題の解決に向けた取り組み
3. 利用者も職員も安心・快適に過ごせる施設環境の創造
4. 介護人材の確保と育成の取り組み
5. 災害・感染症対策・地域における公益的な取り組み

【事業・運営計画】

1. 利用者が楽しく安心して尊厳ある生活ができる支援を行う
 - (ア)意思決定支援ガイドラインに基づき、サービスの利用意向等も反映した個別支援計画の作成と実践に努める
 - (イ)身体機能の廃用性や生活意欲の減退を防ぐため、介護過程に基づいた利用者の“できる”“やりたい”を引き出す個別支援を多職種協働で行う
 - (ウ)オムツメーカーと協働して、利用者負担の少ない排泄介助方法を検討、実施する
 - (エ)処遇困難ケースについて、グループスーパービジョンを行う。困難となっている原因を職員同士で分かち合い、利用者との関わり方法を模索する
 - (オ)虐待防止の手引きに基づいた、利用者の尊厳を守る取り組みや、理念の継承、倫理綱領の再確認等を行う

- (カ)e スポーツ・パラスポーツへの利用者参加を推進し、地域社会とのつながりを創る
- (キ)利用者家族との意見交換を目的とした家族会を開催する
- (ク)夜間の宅直看護師が遠隔で利用者状態を目視しながら、夜勤者と情報交換ができるようにLINEの動画通話などを活用した新たな方法を実施する
- (ケ)入所・通所者の咀嚼能力等の口腔機能及び栄養状態を適切に把握し、「かたちのある食べ物を口から食べる楽しみ」を多職種で支援し、食事の付加価値を向上させる
- (コ)水光熱費、食材料費の価格高騰に考慮した運営を行う。特に給食委託業者と協働し、給食のオペレーションの見直しを行いつつ、新たな食事提供のあり方を導入する
- (サ)施設の指定基準どおりに運営ができているか、年1回以上はチェックを行い、地域連携推進会議にて地域から施設運営に関する意見を頂く機会を設ける

2. 地域課題の解決に向けた取り組み

- (ア)訪問看護ステーション細江では、基幹病院である聖隷三方原病院・浜松医科大学医学部附属病院と連携を強化する。特に高齢者の独居世帯の増加が進む引佐地区への積極的な介入を行い「地域で暮らす」を支えていく
- (イ)聖隷ヘルパーセンター浜松北では、細江、引佐、三方原、都田4地区を中心に引き続き地域ニーズに添えていく。特にヘルパーセンターいなさとの業務連携し、訪問エリアの効率化を図る
- (ウ)聖隷ケアプランセンター細江では、担当ケースについての関りと理解を深め、意思決定支援、後見人申し立ての支援等を他事業所と連携し行っていく
- (エ)在宅サービス事業所、通所事業所、相談支援事業所等が合同カンファレンスを定期的に行い、支援困難ケースを通じて実質的な連携に取り組み、課題解決の糸口を見出す
- (オ)聖隷厚生園まじわりの家では、意思疎通ができない利用者に対して感覚刺激を促す新たな支援を行う。また、園芸活動を通じて利用者・職員ともに協働する場を作る
- (カ)西部特別支援学校からの体験実習を積極的に受け、卒業後に利用者やその家族が求める地域生活ができるように支援計画を提案する

3. 利用者も職員も安心・快適に過ごせる施設環境の創造

- (ア)最新の介護機器を導入し、「介護の自動化」を推進させる
- (イ)「ノーリフトケア」を継続し、職員が長く働き続けることができる職場づくりに努める
- (ウ)支援記録・請求ソフト（ケアカルテ・ケアコネクト）の更なる活用を進め、勤務表の自動作成ソフト導入を実現し、業務省力化を図る
- (エ)カスタマーハラスメント防止において、指針に基づいた相談受付や研修を行う
- (オ)職員が“利用者のためにやりたい”ことが実現できる自発的な活動を推進させる
- (カ)レクリエーション機会を通じて、職員同士の交流を活性化させる

4. 介護人材の確保と育成の取り組み

- (ア)各専門職ラダー、コンピテンシー指標を活用し、職員の人材育成を図る
- (イ)聖隷クリストファー大学・介護専門学校等と連携し、実習及びインターンシップの受け入れを積極的に行い、養成校とともに将来の介護人材の育成に貢献する

(ウ)聖隷厚生園ナルド工房・聖隷ワース工房浜松学園と連携し、障害者雇用や就労継続支援の受け入れを積極的に行う

5. 災害時・感染症発生時の対策・地域における公益的な取り組み

(ア)大規模災害時や感染拡大時にも事業が継続できるように、BCP(事業継続計画)研修及び訓練を行う

(イ)地域の要請に応じて、災害等発生時には応援職員を派遣できるようにする。

【数値指標】

■障害者入所・通所事業

	聖隷厚生園信生寮		聖隷厚生園まじわりの家
	入所	短期	生活介護
利用者定員	60名	10名	20名
利用者延べ人数	21,718名	3,697名	5,352名
一日平均利用者数	59.5名	10.1名	21.0名
稼働率	99.2%	101.3%	104.5%
稼働日数(延べ)	365日	365日	256日
単価(一人一日当り)	18,808円	10,520円	15,244円
サービス活動収益(千円)	408,466千円	38,892千円	81,584千円
職員数(常勤換算)	54.9名		12.4名

■訪問・居宅介護支援事業

訪問看護 ステーション細江	月平均 利用者数		月間 訪問件数		年間 訪問件数		単価		サービス活 動収益	常勤換算 職員数
	213 名		977 件		11,726 件		10,562 円		123,853 千円	18.5 名
聖隷ヘルパー センター浜松北	介護給付				予防給付		単価		サービス活 動収益	常勤換算 職員数
	平均利 用者数	訪問件数		利用者数		介護 (時間)	予防 (月)			
		月間	年間	月間	年間					
	38 名	307 件	3,680 件	23 名	276 名	4,500 円	22,000 円	42,940 千円	4.9 名	
聖隷ケアプラン センター細江	年間請求件数		平均単価		サテライト(三方原)		サービス活 動収益	常勤換算 職員数		
	介護	予防	介護	予防	月件数	月額				
	2,252 件	348 件	16,400 円	4,060 円	12 件	115,500 円	40,065 千円	5.5 名		

聖隷厚生園讃栄

救護施設聖隷厚生園讃栄寮 生活訓練事業所ナルド
地域活動支援センターナルド 障害者相談支援事業所ナルド
福祉共同住宅ファーストステップ

救護施設では、生活保護制度の法改正に伴い、2025年度より個別支援計画書の作成が義務化され、利用者の希望や要望に則した個別支援の展開が求められる。利用者ニーズに視点をあて、利用者のそれぞれの心身の状態に応じて、できる事を一つでも増やし、目標達成できるように支援していく。

障害在宅事業部門では、地域利用者の年齢や障害の幅が広がり、対応が多様化・複雑化している。地域利用者の生活をより充実したものにするため、各事業所が地域関係機関との連携を強化する。また、安定したサービス提供が行えるように、他機関と協働した取り組みを経験することで、職員の知識向上に努める。

【施設理念】

一人が癒されるために、一人があるべき姿に立帰るために
一人の生命が真にまもり生かされるために、そして地域のために

【経営方針】

1. 利用者の希望・要望を踏まえた個別支援計画書の作成し、個別支援を実践する
2. 利用者の心身状況に応じた機能低下予防支援に取り組む
3. 利用者にとって最適なサービス提供をするための体制強化を図る
4. 家族や関係機関と共通認識を持ち、適切なサービス提供に取り組む
5. 地域における公益的な取り組み

【事業・運営計画】

1. 利用者の希望・要望を踏まえた個別支援計画書を作成し、個別支援を実践する
 - (ア) 利用者の「地域生活がしたい」、「イベントに参加したい」という希望や要望を把握し、生活の中で利用者と職員が共に何か一つでもできる事を増やせるよう個別支援計画を作成し、実践する
 - (イ) 利用者の就労支援において、就労支援事業所の見学や体験機会を設ける。また、就労フェアやハローワークとの就労支援に対して、積極的に情報提供し参加を促していく
 - (ウ) 保護施設通所事業において、利用者が地域で孤立してしまわないよう外出企画やグループワークを実施する。また、相談支援事業所や訪問看護などの在宅サービス提供事業所と個別支援計画を共有し、利用者の生活環境や食生活などへ介入・支援していく

2. 利用者の心身状況に応じた機能低下予防に取り組む

- (ア) 適切な口腔ケア支援や歯科受診を促進し、口腔内環境を整え、オーラルフレイル予防、窒息予防に取り組む。また、歯科衛生士に協力を仰ぎ、利用者を対象に勉強会を開催することで、日常的に美味しい食事を食べることができるよう働きかける
- (イ) 加齢による身体機能低下を防ぐため、作業療法士の見解を個別支援計画書に反映し、利用者が主体的に日常的な身体リハビリテーションに取り組めるよう働きかけていく
- (ウ) 入所者の心身状況に合わせ、高齢者福祉施設、障がい者グループホームなど関係機関や家族と協議連携し、利用者の希望を踏まえた生活環境の場を提供する

3. 利用者にとって適切なサービス提供をするための体制強化を図る

- (ア) 障害者相談支援事業所ナルドでは、地域の利用者がサービス利用しながら生活が充実できるよう関係機関と連携強化を図り、地域生活を支援する。また、相談支援専門員の人材育成や職員の心理的負担を緩和するため、マニュアルや支援期間、職場会議での情報共有方法の見直しに取り組む
- (イ) 地域活動支援センターナルドでは、パンフレット配布などの情報提供や浜松市自立支援協議会への参画など、関係するサービス提供事業と連携し、地域支援強化を図る

4. 家族や関係機関と共通認識を持ち、適切なサービス提供に取り組む

- (ア) 生活訓練事業所ナルドでは、個別支援において社会生活自立度評価指標（SIM）を活用し、利用者の家庭やグループホームでの場での生活能力の可視化を図る。また、利用者のニーズに応じて、就労支援事業所ナルド工房と見学や体験機会を設け、就労準備訓練に取り組む
- (イ) 福祉共同住宅ファーストステップでは、将来の単身生活イメージを構築するため、利用者の希望や要望を聞き取り、生活目標を明確にする。また、食事・金銭管理・健康管理・環境整備など、関係サービス提供機関との役割を明確にし、支援する

5. 地域における公益的な取り組み

- (ア) 地域団体と協働し、地域清掃活動など利用者が活躍できる場を設け、施設と利用者、地域団体が一緒に地域貢献ができるよう取り組む
- (イ) 大規模災害や感染拡大発生時など、要請に応じて職員応援派遣や福祉避難所として受入れを行う

【数値指標】

	聖隷厚生園讃栄寮		
	救護入所	救護通所	短期入所(総合支援法)
利用者定員	60 名	10 名	4 名
利用者延べ人数	23,360 名	2,920 名	730 名
一日平均利用者数	64.0 名	8.0 名	2.0 名
稼働率	106.7%	80.0%	50.0%
稼働日数(延べ)	365 日	365 日	365 日
単価(一人一日当り)	11,292 円	5,513 円	6,797 円
サービス活動収益	286,227 千円		4,962 千円
職員数(常勤換算)	30.0 名		

	生活訓練事業所ナルド		ナルド	ファーストステップ
	生活訓練	生活介護	指定相談支援	共同生活援助
利用者定員	10 名	10 名	- 名	13 名
利用者延べ人数	2,121 名	2,919 名	- 名	4,512 名
一日平均利用者数	8.4 名	11.5 名	- 名	12.4 名
稼働率	83.5%	114.9%	- %	95.1%
稼働日数(延べ)	254 日	254 日	- 日	365 日
単価(一人一日当り)	10,458 円	6,447 円	- 円	4,607 円
サービス活動収益	22,182 千円	18,818 千円	80,037 千円	20,787 千円
職員数(常勤換算)	4.9 名		9.4 名	3.5 名

聖隷厚生園ナルド工房

聖隷厚生園ナルド工房では、利用者が地域社会で活躍できる機会を増やすため、様々な訓練メニューを導入してきた。しかし、近年、パソコンなどを活用した動画編集や事務系の訓練へのニーズが高まってきている。2025年度は休止中の喫茶コーナーの有効活用等、利用者ニーズに応じた訓練内容の検討を行い、利用者が自分の目指すべき姿に向けて現状からステップアップができるような支援を提供し、働く喜びを感じてもらいたい。また、職員がライフワークバランスを大切にしながらも、研修などに参加し就労支援のスキルアップができる事業所を目指す。

【施設理念】

働くことが『生きる喜び』となるように共に歩みます

【経営方針】

1. 利用者の仕事へのやりがいを引き出し、ステップアップができる取り組み
2. 利用者のステップアップを支える多職種・関連機関と協働した取り組み
3. 就労支援を支える人材の質の向上と職員が安心して働ける職場作りの取り組み
4. 地域における公益的な取り組み

【事業・運営計画】

1. 利用者の仕事へのやりがいを引き出し、ステップアップできる取り組み
 - (ア) 定期的な企業見学や実習を行い、就職意欲向上の取り組みや課題の再確認を行う
 - (イ) 利用者のカンファレンスで動画を活用し、できたことや頑張ったことを視覚的にフィードバックするとともに、自己の課題を知り、働く時間や日数を増やす等、次のステップを明確にした計画を立てる
 - (ウ) 各作業場で利用者と一緒にグループワークを実施し、お互いにとって働きやすい職場となるように意見交換を行う
 - (エ) 喫茶コーナーを有効活用し、利用者ニーズに合った持続可能な訓練内容を提案・実施する
2. 利用者のステップアップを支える多職種・関連機関と協働した取り組み
 - (ア) 生活訓練事業所ナルドや讃栄寮等と連携し、就労支援事業所の体験会を実施し、働くイメージづくりの仕組みを作る
 - (イ) 聖隷ワース工房浜松学園や聖隷キッチン和合等と協働し、就労継続支援B型からA型へステップアップできるように、見学や実習機会を設ける等の仕組み作りを行う
 - (ウ) 相談支援事業所や在宅サービス事業所と協働し、健康管理等に課題のある利用者が安定して就労ができるように、担当者レベルでのタイムリーな情報交換を行う
 - (エ) 就労選択支援事業を見据えて特別支援学校と情報交換を行い、生徒・保護者が卒業後の進路を見い出せるようなアセスメント実習の受け入れ・評価を行う

3. 就労支援を支える人材の質の向上と職員が安心して働ける職場作りの取り組み

- (ア) 外部研修や研修動画等を活用し、職員が障害特性の理解や就労支援スキルの向上ができる学びの機会を作る
- (イ) 厚生園内の在宅サービス事業所と協働し、利用者の在宅での様子や課題を知り、ライフステージにおける利用者の生活課題を視野に入れた就労支援スキルの習得をする
- (ウ) 作業担当者不在時の心理的負担を緩和するため、マニュアルや手順書を作成し、事業所が一体的に就労支援を提供できる体制づくりを行う

4. 地域における公益的な取り組み

- (ア) 小羊デイケアホーム等の近隣施設と合同防災訓練を企画・提案し、有事の際に協力ができる関係を作る
- (イ) 法令に基づいた BCP 訓練や研修を実施する

【数値指標】

	聖隷厚生園ナルド工房		
	就労移行支援	就労継続支援B型	就労定着支援
利 用 者 定 員	10 名	30 名	20 名(利用者数)
利 用 者 延 べ 人 数	2,000 名	6,364 名	10 名(登録者)
一 日 平 均 利 用 者 数	7.5 名	23.8 名	-名
稼 働 率	74.9%	79.5%	-%
稼働日数(延べ)	267 日	267 日	-日
単価(一人一日当り)	8,650 円	8,108 円	38,937 円
サービス活動収益	20,511 千円	61,301 千円	4,746 千円
職員数(常勤換算)	10.6 名		

浜松学園

障害者支援施設 聖隷チャレンジ工房浜松学園
聖隷ワース工房浜松学園 聖隷ステップサポート

2024年度は、多様なニーズに応えることができるよう、それぞれの事業が地域で求められていることを捉え、より多くの利用者の支援を行うことができた。また、障害福祉サービスの報酬改定があり、事業所の機能強化が求められる一年となった。

2025年度は「地域ニーズへの対応」、「利用者の自立支援の向上」の2つを柱に、地域社会と連携し、多様なニーズを抱えた利用者一人ひとりの未来をともに描く支援をしていくため、個別支援計画、意思決定支援、利用者の権利擁護等、より質の高いサービスが提供できるよう、専門性をもった人材育成を目指していく。

【施設理念】

『働く』・『暮らす』 — その人らしい未来を描けるようともに歩む —

【経営方針】

1. 「働く」平均工賃 25,000 円／月、6 か月就労定着者 15 名を目指す
2. 「暮らす」自己理解・他者理解を育む支援を行い、利用者の地域社会の中で生きる力を養う
3. 「学ぶ」「わかる」「できる」ことの喜びを利用者の自信につなげる
4. 顕在化された各事業の課題解決への取り組み
5. 防災・感染対策・職員教育体制等の強化
6. 地域における公益的な取り組みを行う

【事業・運営計画】

1. 「働く」平均工賃 25,000 円／月、6 か月就労定着者 15 名以上を目指す
 - (ア) 利用者リーダーを中心とした作業運営を基本とし、主体性を引き出す支援を行う
 - (イ) 全作業の業務マニュアルを整備し、作業活動の効率化と標準化を図る
 - (ウ) 職場見学や体験実習先を開拓し利用者が就労する上での課題を見出せる機会を提供する
 - (エ) 就労パスポートをケース担当者が中心となり、利用者・作業担当・就労支援員で共同して作成し、相手先企業へ利用者の能力や特性をわかりやすく説明できるようにする
 - (オ) 就労定着支援では、就労支援員だけでなくケース担当者も就職先へ出向き、多くの職員が就職後も利用者となつなぐことで、離職防止につなげる支援を行う
 - (カ) AI を活用したアセスメントツール（シームレスバディ）を導入し、標準的に就労能力評価と職業マッチングができるようにする
2. 「暮らす」自己理解・他者理解を育む支援を行い、利用者の地域社会の中で生きる力を養う
 - (ア) 特別支援学校等の教育支援計画の内容を引き継ぎ、ケース担当者が利用者の障害特性に基づくアセスメントを行い、PDCA サイクルによる“チーム”で課題解決できる支援をする

- (イ) 地域生活で自立した生活を送れるように一人暮らし体験・生活講座を行う
- (ウ) 共用部や自室の清掃時間を決めて、身の回りの整理整頓が習慣化できる支援を行う
- (エ) 体験利用者の心に残る浜松学園のオリジナル食事メニューを開発し、提供する
- (オ) 利用者による自治会運営では、利用者自身が生活の仕方やルールをグループで考え、自ら決めて生活できることを支援し、自立を促進する
- (カ) 利用者と職員がともに計画し楽しめる行事企画を行い、個別支援に必要な関係性を築く
- (キ) 就職後に暮らすグループホームの必要性とあり方について検討し、提案する

3. 「学ぶ」「わかる」「できる」ことの喜びを利用者の自信につなげる

- (ア) 就労している先輩の体験談や職場見学、職場実習の経験を基にグループワークを行い、利用者個々に“仕事する上で大切なことは何か？”を考える機会を提供する
- (イ) 職場でのコミュニケーションの課題解決をするための社会生活技能訓練を行う
- (ウ) 自習室を活用したパソコン検定や運転免許など資格取得の支援を行い、利用者の自信につなげる

4. 顕在化された各事業の課題解決への取り組み

(聖隷ワース工房浜松学園)

- (ア) filo では菓子製造において地元の食材を使ったコラボ商品の開発、filo でのイベント販売を地域の関係者と共同で行い、地域社会とのつながりを実践する
- (イ) 生産活動、支援力の向上、地域連携活動を強化し、スコア値のさらなる向上を目指す
- (ウ) 『filo きずなプロジェクト』として菓子箱やショップカードに障害者アートを採用し、障害者の地域社会とのつながりを支援する活動を行う
- (エ) 下半期に 1 名以上の就職 6 カ月定着者を輩出する

(聖隷ステップサポート)

- (ア) 五感を刺激する ICT 機器を導入し、重度の肢体不自由者が楽しめる活動を充実させる
- (イ) 利用者が安全で居心地のよい環境を整備する
- (ウ) e スポーツ活動やパラスポーツ活動を通して、大会等へ参加し、社会とのつながりを感じられる経験が持てるよう支援する

(短期入所)

- (ア) 土日祝日の開所を行い、多くのニーズに応えることのできる体制を整える
- (イ) 中学・高校生に短期入所の定期利用をすすめる、入園後の生活イメージを育む支援を行う
- (ウ) 保護者と一緒に宿泊体験ができる取り組みを行う

(全事業)

- (ア) 就労選択支援の施行に伴い、今後の入園選考会の在り方を検討する
- (イ) 障害者虐待防止に関する研修会の開催、定期的な自己チェックの上、職場内で共有する
- (ウ) 地域交流と新規利用につなげるための情報公開をする取り組みとして浜松学園祭を開催する
- (エ) インスタグラムやケアカルテ Live などを活用し、保護者・関係者に情報発信を行う
- (オ) 地域連携協議会を創設し、事業所の公平な評価と地域連携の在り方を模索する

(カ) 食材料費や人件費の高騰を鑑みて、今後の食事提供の在り方について検討する

5. 防災・感染対策・職員教育体制等の強化

(ア) BCP（事業継続計画）の周知徹底を行い非常災害に備える

(イ) 外部講師を招き、定期的に職員の理念・倫理観を養う研修を行う

(ウ) e ラーニングを活用し、障害者就労支援の知識を全職員で共有し、実際の支援にいかす

(エ) 新人・異動職員へ勉強会を開催し、個別支援計画の作成について理解できるようにする

6. 地域における公益的な取り組みを行う

(ア) 民間企業に対して、体験利用や宿泊体験などを通じて社員研修の機会を提供し、障害者就労支援の啓発に努める

(イ) 地域の環境美化に関するプロキング活動に参加し、社会貢献活動を行う

【数値指標】

	聖隷チャレンジ工房浜松学園				
	施設入所	短期入所	就労移行支援	就労継続支援 B	就労定着支援
利 用 者 定 員	60 名	10 名	30 名	30 名	一名
利 用 者 延 べ 人 数	14,819 名	535 名	7,912 名	8,656 名	422 名
一 日 平 均 利 用 者 数	44.3 名	1.5 名	31.0 名	33.9 名	一名
稼 働 率	73.9%	15.5%	103%	113.1%	－%
稼 働 日 数（延 べ）	334 日	334 日	255 日	255 日	一日
単価（一人一日当り）	3,280 円	6,824 円	17,837 円	13,697 円	－円
サ ー ビ ス 活 動 収 益	48,613 千円	4,049 千円	141,126 千円	118,566 千円	18,749 千円
常 勤 換 算 職 員 数	32.4 名				
	聖隷ステップサポート	聖隷ワース工房 浜松学園			
	生活介護	就労継続支援 A			
利 用 者 定 員	20 名	15 名			
利 用 者 延 べ 人 数	5,027 名	3,070 名			
一 日 平 均 利 用 者 数	19.7 名	12.7 名			
稼 働 率	98.2%	84.6%			
稼 働 日 数（延 べ）	256 日	242 日			
単価（一人一日当り）	13,427 円	52,341 円			
サ ー ビ ス 活 動 収 益	67,500 千円	160,687 千円			
常 勤 換 算 職 員 数	9.4 名	6.7 名			

軽費老人ホーム もくせいの里

もくせいの里は、1978年に軽費老人ホームA型として設立され、建築後46年が経過した。2025年度は、利用者満足の上昇や地域福祉活動を継続・注力するとともに、老朽化した施設の将来計画の検討を継続する。

利用者の「もくせいの里でいつまでも安心して暮らしたい」との思いに応えるため、セラピストによる機能訓練・健康増進活動の機会を充実させること（健康寿命の延伸）、定期的に簡易認知機能検査を実施し状況に応じて必要なサービスに結び付けること（認知症予防）など、フレイル対策を強化・充実させる。併せて、アドバンス・ケア・プランニング（ACP・人生会議）にも取り組み、将来の意向を確認していくと共に、現在抱えている個人課題を発見し、もくせいの里で生活できるレベルを維持しながら充実した毎日を暮らせるよう、課題解決に向けて取り組みをさらに進めていく。また健康増進に関し、利用者が主体的に関与する機会を増やすとともに、職員の健康増進にも繋がるよう検討する。

これらの取り組みを通じて、利用者も職員も共に幸せになれる福祉拠点づくりを推進する。

【施設理念】

入居者の自由と尊厳ある生活を支援し、穏やかで明るい生活作りをめざす

【経営方針】

1. 職員間、職場間、また法人内の他事業所との連携を強化し、入居者がもくせいの里で安心して生活できるように支援する
2. 入居者・利用者が食を通じて健康増進と楽しみを感じることでできる食事提供を行う
3. 老朽化している施設の設備更新をはかり、安心して利用できる施設を目指す
4. 入居者と職員が協力して地域との交流を図り、地域貢献を積極的に行う

【事業・運営計画】

1. 質の高いサービスの追求と提供
 - (ア) 施設理念を具現化していくため、各種レクリエーション等、日々の生活場面において、入居者自身が決定していく機会を提供していく
 - (イ) より有効なフレイル予防のため、外部のリハビリ専門職の活用継続、活動機会を増加させるとともに、オーラルケアの実施に向けた検討を開始する
 - (ウ) 認知症の早期発見や進行確認のため、定期的に簡易認知機能検査等を活用して継続した状態把握を行う。必要に応じて病院受診の推奨や地域包括支援センター細江に繋げていくなど、切れ目のない支援をしていく
 - (エ) 食事サービス嗜好調査や日々の意見の反映、希望者参加型レクリエーションの検討を進めると共に、食事原価高騰に伴う食材費と献立の最適化を図る
 - (オ) 配食サービス利用者の配食時（安否確認時）の状況について、家族や地域包括支援センター・担当介護支援専門員と情報共有していく

2. 健全運営の推進

- (ア) 光熱費や食材料費等の物価高騰に対し、電気料は2024年度比110%以下、ガス代、食材料費については2024年度同程度を目指す
- (イ) 軽費老人ホーム事業の今後の在り方について、在宅・福祉静岡ブロック内で協議を継続する
- (ウ) 配食サービスの今後の在り方について、在宅・福祉静岡ブロック内での協議に継続して参画する
- (エ) 地域包括支援センター等関係機関に対し、待機者状況を定期的に提供し、待機者確保に取り組む
- (オ) 南海トラフ地震への備えを強化し、消防・防火設備点検等での不具合は早期に改善していく

3. 職員の質の向上

- (ア) 相談員・介護職員のソーシャルワーク実践力を高めるため、専門職ラダーの取り組みや外部研修に積極的に参加していく
- (イ) アドバンス・ケア・プランニング（ACP・人生会議）に継続して取り組み、入居者の将来の変化に対応し、継続的に参加する機会を個別に進めていく
- (ウ) 各部署や職種間の業務内容の相互理解を促進し、連携力を高めていく
- (エ) 他の軽費老人ホームとの交流の機会を設け、支援の幅を広げる取り組みや施設の将来計画づくりに役立てる

4. 地域における公益的な取組

- (ア) ひとり暮らし高齢者・重度身体障害者等配食サービスを継続して受託する
- (イ) 浜名区細江町湖東地区住民ともくせいの里入居者の交流と健康増進のため、毎月開催される湖東公民館サロン及び運営委員会に参画する
- (ウ) 浜名区細江町湖東地区の総合防災訓練への参加や、隣接する高台幼稚園との合同イベント「ふれあいニコニコデー（年間6回程度）」を通じて、地域住民との交流を深める

【数値指標】

	軽費老人ホーム	配食サービス	計
利 用 者 定 員	50	—	
利 用 者 延 べ 数	18,104	14,691	
1 日 平 均 利 用 者 数	49.6	47.7	
稼 働 率 （ % ）	99.2%	—	
稼 働 日 数 （ 延 べ ）	365 日	308	
単 価 （ 一 人 一 日 当 り ）	6,300 円	700	
サービス活動収益（千円）	113,974 千円	10,452 千円	124,426 千円
職 員 数	12.7 名	2.5 名	15.2 名

いなさ愛光園

特別養護老人ホームいなさ愛光園

いなさ愛光園デイサービスセンター(通常規模型・認知症対応型)

いなさ愛光園ヘルパーステーション(訪問介護/居宅介護)

ほのぼのケアガーデン(認知症対応型共同生活介護)

聖隷ケアプランセンターいなさ

いなさ愛光園在宅介護支援センター

ひとり暮らし高齢者等配食サービス

2024年度は、地域の医療・福祉の連携を強化し、地域の方々が安心して住み続けるための仕組みの構築を目指した。特に中山間地域の医療については、先行きが不透明な状況である。そこで行政や医師会と連携し、いなさ愛光園内でのオンライン診療が開始できた。今後、地域の方々が利用できる医療・福祉について検討を進めたい。事業運営については、介護報酬の改定に伴い、必要な加算などを取得することで堅調に運営できた。特に認知症対応型共同生活介護では、黒字化し運営の安定に寄与できた。

2025年度も、「地域」を軸とし未来を見据えたサービスを実践する。浜松市旧北区では、今まさに超高齢化が始まっている。引佐地域・三ケ日地域・佐久間地域の連携・運動を加速させ、小回りのきくエリアとして、地域ニーズに迅速に対応したい。そして、最高のサービスを提供し続ける為に、若手職員から役職者までの職員育成を強化すると共に、新たな人材確保として特定技能1号外国人の雇用と定着化を図り、多様なニーズに応えられる持続可能な事業運営を目指す。

【施設理念】

利用者の尊厳保持を援助の基本に捉え、一人ひとりの利用者・家族の思いに応えられるケアを実践する

【経営方針】

1. 充実した個別援助を提供するため、いなさ愛光園全体が濃密な連携を図る
2. 地域において信頼されるサービスを提供するため、職員資質の向上に努める
3. 未来を見据えた地域課題を検証し、地域ニーズに対応できる施設になる

【年度事業目標・年度重点施策】

1. 中山間地域における多機能型施設として、引佐地区全域で切れ目のない支援体制を構築する
 - (ア) ケアセンターいなさ・三ケ日地区在宅複合事業・さくまの里との連携を進める
 - (イ) 行政・医師会と連携し、地域におけるオンライン診療の仕組みを構築する
 - (ウ) 地域のサロンや地域ケア会議等に参加し、地域課題を発掘する
 - (エ) 医療・福祉提供体制について、検討・事業化の可能性を模索する
 - (オ) リハビリプラザいなさと連携し、合同送迎を実践する

2. 利用者の意向やこれまでの生活を尊重した支援をする

- (ア) 利用者のなりたい姿を実現するために、意向や尊厳を尊重するケアを追求する
- (イ) 施設の特性を生かし、利用者が季節を感じ喜んでもらえるイベントを開催する
- (ウ) 清潔で明るく安全な環境で過ごせるように定期的な整備を実施する
- (エ) 在宅から入居まで一貫したサービスを提供する為に、在宅・施設部門の連携強化に努める
- (オ) 在宅から入所に至るまでの相談業務を一本化し、利用者に伴走する仕組みを構築する

3. 人材育成と職員が長く活躍できる環境づくりを推進する

- (ア) ICT 機器や福祉機器を効果的に活用し、利用者・職員へ還元する体制を整備する
- (イ) 職員のワークライフバランスを意識し、全事業の業務改善に取り組む
- (ウ) 新人職員から役職者までの施設内階層別研修を開催し、次世代職員を育成する
- (エ) 施設内外への異動や研修を意図的に行い、地域で活躍できる人材を育成する
- (オ) 特定技能 1 号外国人を採用し、安心して仕事や生活できる環境を整備する

4. 安定した施設運営をする

- (ア) 地域の実情を踏まえたうえで、各事業のベストサイジングを模索する
- (イ) 食事提供に関して、完全調理品の導入を含めた検討を進める
- (ウ) 自然災害発生時における業務継続や防災計画の定期的な見直しと周知を実施する
- (エ) 経営状況を踏まえて修繕計画及び設備・備品を更新する
- (オ) 短期入所生活介護を増床する

5. 地域における公益的な取り組み

- (ア) 家族介護者教室の企画運営やサロン活動等を運営支援する
- (イ) 自治会の防災訓練に参加し、連携を図る
- (ウ) 福祉避難所として必要時に開設想定できるよう準備する
- (エ) 引佐地区社会福祉協議会の活動に参画する

【数値指標】

高齢者入所・短期入所・通所関係事業・訪問介護・居宅介護・居宅介護支援・委託事業

	特養入所		短期入所		通常規模型通所介護	
	従来型	ユニット型	ユニット型	従来型	介護	予防
利用者定員	30名	40名	20名	2名	35名	
利用者延べ人数	10,950名	14,600名	5,913名	292名	8,206名	670名
一日平均利用者数	30.0名	40.0名	16.2名	0.8名	26.5名	2.2名
稼働率	100.0%	100.0%	81.0%	40.0%	82.0%	
稼働日数(延べ)	365日	365日	365日	365日	309日	
単価 (一人一日当り)	13,422円	15,899円	14,266円	14,729円	10,668円	
サービス活動収益	147,004千円	232,164千円	84,357千円	4,301千円	94,693千円	
常勤換算職員数	46.0名		14.9名	0.3名	14.7名	
	認知症対応型 共同生活介護	訪問介護		居宅介護 (障害)	認知症対応型通所介護	
		介護	予防		介護	予防
利用者定員	9名				12名	
利用者延べ人数	3,249名	2,317名	924名	620名	2,858名	0名
一日平均利用者数	8.9名	6.4名	2.6名	1.7名	9.2名	0名
稼働率	98.9%				76.7%	
稼働日数(延べ)	365日	361日		361日	309日	
単価 (一人一日当り)	14,750円	5,084円		3,932円	13,848円	
サービス活動収益	47,923千円	16,674千円		2,438千円	39,579千円	
常勤換算職員数	7.5名	4.1名			7.0名	
	居宅介護支援		配食 サービス	在宅介護 支援センター	合計	
	介護	予防				
利用者延べ人数	1,930名	645名	1,113名			
一日平均利用者数			3.8名			
稼働率						
稼働日数(延べ)	365日		294日			
単価 (一人一日当り)	18,212円	5,270円	718円			
サービス活動収益	39,173千円		799千円		709,105千円	
常勤換算職員数	5.1名				99.6名	

聖隷ケアセンターいなさ

聖隷リハビリプラザいなさ

地域包括支援センター細江

旧引佐三町地域においては、高齢者が増加する一方で支援の担い手の減少、病院の閉鎖や診療所の医師の高齢化による地域医療の先細りなどの課題は多く、高齢者が住み慣れた地域で生活することがますます困難になることが予想される。また、社会資源が乏しい当該地域においては、高齢者のみならず家族内に支援を必要とする多問題世帯も多い。

2025年度は、本人の住み慣れた地域で本人が望む生活の継続実現の為、地域のニーズに合致した事業をケアセンター内のみならず、法人内の他事業所と連携・協働し展開していく。

【施設理念】

隣人愛の精神のもと、地域とつながり、共に生きる

【経営方針】

旧引佐三町において、住民が住み慣れた地域で暮らし続けることができる社会の実現を目指し、地域で支援を必要とする要援護者及びその家族等の人権・自立心・価値観等を尊重し、柔軟で包括的な支援を実施する。

【事業計画】

1. 住み慣れた地域での生活継続の支援体制づくり

(ア) 各事業所の地域への支援

(聖隷リハビリプラザいなさ)

① リハビリテーション・看護・介護の専門性を活かし、心身機能の維持ができるように個別性を重視したプログラムを実施する

② 「居場所」としての役割を重視し、楽しみ活動・役割活動に取り組む

③ 介護サービスの「入り口」機能を発揮し、その後のサービスに繋げる

(地域包括支援センター細江)

① 幅広い世代への周知や他分野機関との連携による早期発見・対応機能の充実を図る

② 地域への訪問を積極的に行い、周知活動やニーズを発掘していく

(イ) 認知症の周知

① 地域の小学校、中学校、高等学校、大学等の教育機関を中心に認知症サポーター養成講座及び認知症ひとり歩き模擬訓練を実施する

② 認知症への理解を深め、介護者への支援を実施する

(ウ) 意思決定支援の推進

① 引佐郡医師会と協働し、地域向け市民フォーラムを開催する

2. 運営の安定化

- (ア) 送迎の効率化を図るため、利用時間の調整やいなさ愛光園との合同送迎を実施する
- (イ) 職員の業務分担を明確にし、職員一人ひとりが自己実現できる職場作りに取り組む
- (ウ) 職員が働きやすい職場環境づくりに取り組む

3. 拠点機能の強化

(ア) 法人内他事業所との連携強化

- ① いなさ愛光園在宅サービスの設備活用及び地域課題の共有、合同送迎を実施する
- ② 聖隷三方原病院、地域障がい者総合リハビリテーションセンターと連携する

(イ) 地域の支援者との連携の強化

- ① ケアマネジャーをはじめとした地域の支援者の事例検討会、地域ケア会議、ネットワーク会議等の開催を支援する
- ② 地域の社会資源の情報を収集し発信する

(ウ) 高齢者分野以外の要援護者、多問題世帯への支援

法人内外の障がい福祉サービス事業所との連携を取り、支援困難世帯、虐待高リスク世帯への対応力を強化する

4. 地域における公益的な取組

(ア) 自主運営のノルディックウォーク愛好会の継続的な活動を支援する

(イ) 学習支援教室を継続する為、会場提供を通して支援する

(ウ) さんさん倶楽部（ロコトレサロン）の運営や地域のサロンへの協力を訪問看護ステーション細江と連携して実施する

(エ) 聖隷リハビリプラザいなさサテライト三ヶ日のスペースを活用し、いなさ愛光園・聖隷訪問看護ステーション三ヶ日・聖隷ケアプランセンター三ヶ日と共に、地域住民に向けたイベントや相談会を開催する

【数値指標】

通所介護事業（聖隷リハビリプラザいなさ）

介護給付			予防給付		単価(円)		サービス活動収益	職員数 (常勤換算)
平均利用 件数(日)	月 間 利用件数	年 間 利用件数	月間 利用者	年間 利用者	介護 (月)	予防 (月)		
28.5 名	734 名	8,815 名	109 名	1,308 名	7,221 円	25,723 円	98,204 千円	16.7 名

地域包括支援事業（地域包括支援センター細江）

市受託収入	予防支援等	内再委託件数	予防マネジメント 単価	サービス活動収益	職員数 (常勤換算)
54,796 千円	介護予防 3,468 件	2,484 件	4,512 円	85,242 千円	10.8 人
	マネ A 2,520 件	1,872 件	4,512 円		
	マネ B 1,044 件	12 件	3,277 円		

聖隷ケアセンター三方原

訪問看護ステーション三方原
聖隷ケアプランセンター三方原
聖隷デイサービスセンター三方原

2024年度は、人員の欠員がある中で、利用者ニーズに沿ったケアを提供しつつ、効率的に質の高いサービス提供ができるよう業務改革を行ってきた。また、職員のキャリア形成を踏まえた人材育成に取り組んだ。一方、2024年度の介護・診療・障害福祉サービスの報酬改定や担当地域の他法人の同事業の増加、看護師の人員不足などが重なり、訪問看護事業と通所介護事業は、利用者数が減少した。担当地域では、単身世帯、高齢世帯はもちろんのこと、同居家族が仕事をしながら介護をしている世帯も多い。体調の変化によるADLの低下や介護量が増加することで、自宅での生活を諦めざるを得ない方もいる。可能な限り望む場所で過ごすためには、身の回りのことのある程度自立していることが必要であり、本人や同居家族もそれを望んでいる。地域で暮らす方々の「その人の望む生活」の支援とは、病気や障がいがある状態であっても心身ともに満たされた状態（ウェルビーイング）を実現できること、早期からの意思決定支援ができること、ターミナル期や医療処置があっても望む生活ができるよう質の高いケアを提供することである。さらに、近隣の病院や施設との連携をより強化し、その人の持つ力に働きかけながら支援していく。

【拠点理念】

私たちは必要とされることを待つことなく、自ら出向き、共に生きる

【経営方針】

1. 近隣の病院や施設との連携を深化する
2. 急激な体調変化を予防・察知し、利用者の望む生活に沿った質の高いサービスを提供する
3. スタッフの働きやすさを追求した業務改革、キャリア形成を踏まえた人材育成を促進する

【事業・運営計画】

1. 近隣の病院や施設との連携

（ア） 聖隷デイサービスセンター初生との連携

- ① 職員がそれぞれの施設・役割を知るために職員交換研修、合同事例検討会を実施する
- ② 交流イベントを開催し、地域住民や当センター利用者が聖隷デイサービスセンター初生を知る機会を設ける

（イ） 近隣の病院との連携

浜松医大看護部、聖隷三方原病院看護部、聖隷おおぞら療育センターとの連携を継続し、入院早期から退院支援に介入できる体制を構築する

（ウ） 地域包括支援センターとの連携

- ① 地域の研修会・交流会への参画・情報交換を実施する

2. 健康の保持増進・回復、疾病悪化の予防、苦痛の緩和を実践し、質の高いサービスを提供する
 - (ア) 利用者個々の心身機能を把握し、根拠に基づいたケアを提供する
 - (イ) 口腔や栄養についての評価を推進する
 - (ウ) センター全体で早期からの意思決定支援を推進する
 - (エ) 安全を担保した医療処置やケアを実践する
3. スタッフの働きやすさを追求した業務改革、キャリア形成を踏まえた人材育成を促進する
 - (ア) ケアの質の担保や業務の効率化を踏まえ、ケアや業務の標準化を図る
 - (イ) 災害時を想定したケア内容や業務の見直しを図る
 - (ウ) 次世代を担う管理者やリーダーを育成する
4. 地域における公益的な取り組み
 - (ア) 地域活動（認知症高齢者声掛け訓練・防災訓練等）に積極的に参加する

【数値指標】

訪問看護事業（訪問看護ステーション三方原）

平均利用者数	月訪問件数	年訪問件数	単価	サービス活動収益	職員数 （常勤換算）
177 人	915 件	10,974 件	10,231 円	112,276 千円	13.0 名

居宅介護支援事業（聖隷ケアプランセンター三方原）

年間請求件数		平均単価(円)		訪問調査 年間件数	訪問調査 単価	サービス 活動収益	職員数 （常勤換算）
介護	予防	介護	予防				
1,963 件	612 件	16,000 円	4,700 円	12 件	52,800 円	34,569 千円	4.9 名

通所介護事業（聖隷デイサービスセンター三方原）

介護給付			予防給付		単価		サービス 活動収益	職員数 （常勤換算）
平均 利用者数	月間 利用者数	年間 利用者数	月間 利用者	年間 利用者	介護 （日）	予防 （月）		
31.3 人	804 件	376 件	69 人	828 人	6,640 円	23,381 円	88,954 千円	16.6 人

通所介護事業／共生型サービス（自立訓練・機能訓練）

平均利用者数	月利用者数	年利用者数	単価	サービス 活動収益	職員数 （常勤換算）
1.4 人	35 人	468 人	8,940 円	4,183 千円	16.6 人

聖隷ケアセンター三ヶ日

聖隷訪問看護ステーション三ヶ日

聖隷ケアプランセンター三ヶ日

三ヶ日地区在宅複合事業を開設してから、「住み慣れた地域で暮らしたい」という地域ニーズに貢献できる体制の構築を目指してきた。2 事業所が更なる連携強化を図り、在宅療養の浸透と利用者の「家に居たい」という気持ちを支えていく。

聖隷訪問看護ステーション三ヶ日では、職員が疲弊しない職場環境を整備し、質の高いサービスの提供へ繋げていく。

聖隷ケアプランセンター三ヶ日では、利用者の自己決定をもとに、住み慣れた地域で安心して生活が続けられるように支援体制の充実を目指していく。

【施設理念】

利用者と家族に寄り添い、住み慣れた地域で「自分らしく安心して暮らせること」を支え続ける

(聖隷訪問看護ステーション三ヶ日)

【経営方針】

1. 職員が疲弊しない職場環境の整備
2. 質の高いサービスの提供
3. 地域連携の強化

【事業・運営計画】

1. 職員が疲弊しない職場環境の整備
 - (ア) 気持ちのゆとりが持てるスケジュール管理
 - (イ) 対人リスクについて職場全体で学び、月 1 回話し合いを設定
 - (ウ) 定期的な面接
2. 質の高いサービスの提供
 - (ア) カンファレンス・職場会の定期開催の充実
 - ① 事例検討会（良いケースの振り返り）、定期的な勉強会を企画
 - (イ) 聖隷ケアプランセンター三ヶ日との連携強化
 - ① 合同カンファレンスや地域の居宅介護支援事業も含めた事例検討会を開催
 - (ウ) ACP を意識したケア、アセスメントの強化
 - (エ) 栄養についての学びを深め、フレイルや疾病予防に於いての支援を強化
3. 地域連携の強化
 - (ア) 地域の薬局との顔の見える関係づくり
 - (イ) 民生委員へのアプローチ
 - (ウ) 難病の患者が多い浜松医科大学医学部附属病院との連携強化
 - (エ) 市立湖西病院、浜名病院への広報活動再開
4. 地域における公益的な取り組み
 - (ア) 聖隷ケアセンターいなさ、いなさ愛光園と連携し、地域に向けた定期的なイベントの開催

【数値指標】

平均利用者数	月訪問件数	年訪問件数	単価	サービス活動 収益	職員数 (常勤換算)
90 人	499 件	5,993 件	9,554 円	57,257 千円	7.3 名

(聖隷ケアプランセンター三ヶ日)

【経営方針】

1. 地域で暮らし続けていくために必要な支援体制作りの推進
2. 運営の安定化
3. 質の高いサービスが提供できる職場の環境づくり
4. 地域における公益的な取り組み

【事業・運営計画】

1. 地域で暮らし続けていくために必要な支援体制作りの推進
 - (ア) 聖隷訪問看護ステーション三ヶ日と連携し、地域の在宅療養体制の発信、意思決定支援の取り組み
 - (イ) 圏域内のサービス事業所との事例検討会の開催継続
 - (ウ) 聖隷三方原病院の病棟ラウンド、事例検討会への参加
 - (エ) 地域包括支援センター、病院主催の研修へ参加し、サービス事業所と顔のみえる関係性を維持
2. 運営の安定化
 - (ア) 三ヶ日地区を中心として新規の受け入れを積極的に行う
 - (イ) 法人内紹介率を高め、いなさ愛光園のショートステイ、入所に繋がりやすい仕組みを検討する
 - (ウ) 病院への挨拶回りを継続し、新規の依頼をし易い関係性を維持する
 - (エ) 三ヶ日地区在宅複合事業所内での共有会の開催
 - (オ) 法人内の介護支援専門員試験対策講座への協力
3. 質の高いサービスが提供できる職場の環境づくり
 - (ア) 研修計画に基づいた研修への参加と事業所内での勉強会の実施により、職員の知識向上を図る
 - (イ) ケースに応じて2人体制での訪問を行い、一人で抱え込まず事業所全体で支援する体制を作る
 - (ウ) 適切なケアマネジメント手法を取り入れ、ケアマネジメントの質の向上を図る
 - (エ) AI ケアプラン、ケアプラン連携データシステムによる業務の効率化
4. 地域における公益的な取り組み
 - (ア) 聖隷ケアセンターいなさ、いなさ愛光園と連携し、地域に向けた定期的なイベントを開催により、介護予防の啓発活動や必要なサービスの提案を行う

【数値指標】

年間請求件数			平均単価(円)			サービス 活動収益	職員数 (常勤換算)
介護	予防 (直営)	予防 (委託)	介護	予防 (直営)	予防 (委託)		
1,980 件	288 件	72 件	16,445 円	4,400 円	4,060 円	34,856 千円	4.5 名

浜松市生活自立相談支援センターつながり

2025 年度は生活困窮者自立支援法の改正を受け、各種事業において支援内容の整備と強化を進めていく。また、医療や福祉につながりにくい「制度の狭間」に身を置く生活困窮世帯への支援は、継続した課題となっている。行政を含む事業団内外の関係機関や地域住民と連携を図ることで、新たな支援の可能性を検討していく。

【施設理念】

全ての相談に心を傾け、受け止め、伴走しながら『活き活きと生きる』ことを支えます

【経営方針】

1. 地域における公益的な取り組みを推進する
2. 様々な背景を持つ利用者を理解し、自立に向けた個別支援を実践する
3. 生活困窮世帯の子どもへの支援を通じ、貧困の世代間連鎖防止に取り組む
4. 職員が働きやすく、育まれる環境を創造する

【事業計画】

1. 地域における公益的な取り組み
 - (ア) 地域の子ども（小学1年生～高校生）に対して、学習サポートを含む居場所支援を実施する。子どもへの支援を入り口として世帯に関わり、様々な課題の早期発見、解決につなげていく。
 - (イ) 聖隷キッチン和合と連携し、学習サポート教室の子ども達や生活困窮世帯において食のニーズがある世帯へ食事の提供支援を実施する。
 - (ウ) 外国にルーツのある子ども達（小学1年生～高校生）に対し、(ア) の居場所支援、(イ) の食事の提供支援に加え、日本語支援の必要性について検討する。
 - (エ) 経済的理由から必要な医療を受けることのできない生活困窮世帯に対し、無料低額診療事業（聖隷三方原病院）と連携した支援体制を構築する。
2. 就労支援及び就労準備支援の実施
 - (ア) 就労支援対象者のうち、年間100名以上の就職実績を目指すとともに、相談者の特性や課題を分析し、支援の質の向上を目指す。
 - (イ) 就労準備支援対象者の新規利用者15名以上の支援を実施する。
 - (ウ) 協力企業と共同し職場見学や職場体験を経て、年間4名以上の就職を目指す。
 - (エ) 現在の協力企業との連携体制を再構築するとともに、(ア) から見えた課題や特性に応じた新たな協力企業の開拓を行う。

3. 子どもの居場所支援及びキャリア形成支援の実施

- (ア) キャリア生、卒業生を対象に高校定着や就労支援等、必要な支援が実施できるよう、対象に合わせた SNS の運用方法を検討する。
- (イ) 教室に通えない生徒や家庭に課題のある世帯に対して訪問支援や SNS 活用により、学習支援及び生活相談支援を継続する。

4. 居住支援事業の拡充

- (ア) 「居住支援事業（旧：生活困窮者一時生活支援事業）」は新たに 4 室を加え、計 9 室で運用する。社会生活上の支援が必要な方を受け入れ、事業利用終了後に地域定着できるようアフターフォローを行う。
- (イ) 関係機関とともに住まいに関する課題を整理し、官民一体となった居住支援が展開できるよう居住支援協議会の立ち上げに参画する。

5. 職員が働きやすく、育まれる環境づくり

- (ア) 生活困窮者自立支援の各業務について、業務マニュアルを作成する。
- (イ) 社会福祉士を目指す学生の実習を受け入れる。
- (ウ) 経験ある相談員を中心にチーム体制をとり、相互に相談、助言しやすい環境をつくる。
- (エ) 法人内他施設で実地研修を行い、他領域の事業理解を深める。

【数値指標】

	浜松市生活自立相談支援センターつながり			
	生活困窮者自立支援事業 (自立相談支援・就労支援・ 就労準備支援・家計改善支援・ キャリア形成支援・一時生活支援事業)	学習支援 事業	ホームレス 巡回支援 事業	学習サポート 事業
サービス 活動収益	97,551 千円	5,997 千円	384 千円	-千円
常勤換算 職員数	17.6 名			0.3 名

浜北愛光園

特別養護老人ホーム浜北愛光園	浜北愛光園デイサービスセンター
聖隷ケアプランセンター浜北	地域包括支援センター北浜
訪問看護ステーション貴布祢	聖隷チャレンジ工房浜北

2025 年度は、利用者の望む生活に応えることができるよう質の高い専門的な関わりに努める。また、安定した人材確保と職員個々のキャリア形成を意識した人材育成の取り組みを進める。設備投資の効果を意識した現場改革を継続し、サービスの向上とともに物価高騰等による影響を最小限に留めるためにも、経費節減の取り組みや設備の更新等も計画的に行っていく。複合施設として施設内連携を発展させ、地域で必要とされる福祉ニーズや制度の狭間にいる方を支えることができるよう切れ目のない柔軟なサービスの提供を目指していく。

【施設理念】

わたしたちは利用者と職員の「その人らしい自立（自律）」を大切に施設づくりを追求します

【経営方針】

1. 誰一人もれることが無いよう複合施設としての利点を活かした、サービスを追求・実践する
2. 地域や利用される方のニーズや想いを大切にできる職員を育成する
3. 個人やチームの創造力や専門性を高め、質の高いサービスを継承、発展させる
4. クリーンで健全な運営を行い、安定と発展ができる経営を行う
5. 地域貢献と地域の公益的な取り組みを行う

【事業計画】

1. 複合施設の強みを生かした、利用される方のニーズや想いが実現できる支援を行う
 - (ア) 事業種別を超えた連携により、切れ目のない支援体制を推進する
 - (イ) アセスメント力の向上を図り、専門的見地で根拠を持ったプランニングとケアを提供する
 - (ウ) 利用者の意思決定を支援し、望む生活が実現できるよう取り組む
 - (エ) 利用者の幅広いニーズに応えられるよう、各事業の対応力の向上を図る
 - (オ) 地域ニーズの把握に努め、必要なサービスを計画的に創造、拡充していく
2. 高い専門性を備えた人材育成と多様な人材が活躍できるキャリア形成の支援を行う
 - (ア) 育成スキームを再構築し、各階層に応じた育成を行う
 - (イ) 交換研修（職場体験）・人事交流を積極的行い、職員個々がキャリアデザインを描ける環境を整備する
 - (ウ) 職員個々のキャリアデザインから、必要な資格取得や計画的な研修参加を促し、将来を見据えたスキル取得を支援する
 - (エ) 福祉職を目指す学生等の見学や実習、ボランティアの積極的な受け入れを行う

3. 運営安定化の推進

- (ア) 業務の標準化、統一化を図り、人材の確保と適切な職員配置を行う
- (イ) 職員が健やかに働けるよう職場環境を整備し、働きやすい職場風土を醸成する
- (ウ) 食材料費や人件費の高騰を鑑みて、給食の提供体制の見直しを行う
- (エ) 適切な加算算定、請求の正確性・効率化を図る
- (オ) 長期的施設運営のための設備修繕と更新、利用料の見直しを計画的に実施する

4. 地域における公益的な取り組み

- (ア) 専門職による出前講座等、地域の中の施設として広報と地域貢献活動に取り組む
- (イ) 大規模災害に備え、地域の訓練等に参加し、災害発生時に協力できる関係づくりを行う

【数値指標】

■高齢者入所・短期入所・通所事業

	浜北愛光園				デイサービス	
	特養入所		短期入所		通所介護	
	従来型	ユニット型	従来型	ユニット型	一般型	予防
利用者定員	50名	100名	20名	20名	40名	
利用延数	18,006名	36,004名	5,990名	6,005名	7,493名	618名
一日平均利用者数	49.3名	98.6名	16.4名	16.4名	24.2名	2名
稼働率	98.7%	98.7%	82.0%	91.4%	65.6%	
稼働延日数	365日	365日	365日	365日	309日	
平均介護度	4.0	3.7	3.0	2.9	2.0	
単価 (一人一日)	13,380円	15,344円	11,975円	14,705円	10,653円	
サービス活動収益	243,840千円	553,368千円	71,728千円	93,558千円	86,405千円	
常勤換算職員数	41.7名	62.9名	8.0名	12.0名	15.6名	

■居宅介護支援事業（聖隷ケアプランセンター浜北）

年間請求件数		平均単価		訪問調査 年間件数	訪問調査 単価	サービス 活動収益	常勤換算 職員数
介護	予防	介護	予防				
2,074件	240件	16,500円	4,500円	8件	4,400円	36,721千円	5.7名

■地域包括支援事業（地域包括支援センター北浜）

浜松市受託収入	予防プラン 請求件数	うち 再委託件数	予防プラン 単価	サービス 活動収益	常勤換算 職員数
37,267千円	1,716件	636件	4,471円	56,625千円	6.8名

■訪問看護事業（訪問看護ステーション貴布祢）

平均利用者数	月訪問件数	年訪問件数	単価	サービス活動収益	常勤換算職員数
170 名	866 件	10,394 件	10,191 円	107,572 千円	13.6 名

■聖隷チャレンジ工房浜北

	定員	利用 延べ人数	稼働率	稼働日数	単価	サービス活動収益	常勤換算職員数
就労移行	6 名	974 名	62.7%	259 日	12,521 円	16,748 千円	13.5 名
就労継続	24 名	5,504 名	74.0%	310 日	10,874 円	78,073 千円	
就労定着		150 名			26,432 円	3,966 千円	
生活介護	10 名	2,328 名	96.1%	242 日	7,504 円	17,497 千円	

森町愛光園

特別養護老人ホーム森町愛光園 森町愛光園天宮サテライト
森町愛光園デイサービスセンター 森町愛光園ホームヘルパーステーション
聖隷ケアプランセンター森町 聖隷放課後クラブはなえみ森町

2025年度森町愛光園は、今一度施設理念に立ち返り、ご利用者・ご家族、地域、職員の「幸せ」の実現を追求していくとともに、地域包括ケアシステムの一端を担う施設としての役割を果たしていく。福祉の人材不足が深刻化する中においても、我々にとっての地域を見つめ、将来に渡り地域から求められる施設であり続けなければならない。そのために、ケアの質の向上を目的として生産性向上の取り組みの推進、地域ニーズに応えていける人材の育成、設備の更新や修繕など、ソフト面とハード面での充実を図っていく。

【施設理念】

わたしたちは、ご利用者・地域・職員の「幸せ」のために最善を尽くします

【経営方針】

1. わたしたちは、利用者の尊厳を守ることを第一とし、一人ひとりのQOLの向上をめざし、誠実かつ献身的に仕えます
2. わたしたちは、福祉・介護サービスを通して、地域の人々が安心して住み続けられる社会づくりに貢献します
3. わたしたちは、質の高いサービス提供に必要な人材の確保と育成に努め、「安心と効率の追求」と「働きやすくやりがいのある職場環境」の両立を実現します
4. わたしたちは、これらのことに継続的に取り組み、創造性・持続性・実現可能性を高めていくことができる組織づくりを目指します

【事業計画】

1. 「最高の質のサービス」の提供
 - (ア) ICT・AIを活用した適切な利用者アセスメントに基づく自立支援を提供する
 - (イ) 園内の事業所間連携を促進し、利用者の「その人らしい暮らしの継続」を実現する
 - (ウ) スタッフのホスピタリティ力、認知症ケア実践力を高め、利用者満足度を向上させる
 - (エ) 在宅、施設で利用者が「最期まで安心して過ごせる」看取りケアを推進する
 - (オ) 法人内外の医療機関との連携を強化し、地域・利用者のニーズに応える体制をつくる
 - (カ) 大規模修繕を実施し、利用者の居住環境を改善するとともに施設全体の価値を高める
2. 働きがいのある職場づくりと人材の確保と育成
 - (ア) 理念・行動指針の浸透を図り、スタッフの自律とエンゲージメントを向上させる
 - (イ) 職場改善の取り組みやOJTを推進できるリーダー層、中堅層の人材を育成する
 - (ウ) 各事業における生産性向上活動を発展させ、利用者へのケア・支援の密度を高める

- (エ) 在宅介護サービスの提供圏域を町外へと拡大するとともに、ICT を活用し各事業の取り組みを発信することで広く地域からの信頼度を向上させる

3. 健康経営の推進、働きやすい職場作り

- (ア) マネジャー教育を実施し、スタッフが安心して働ける職場環境をつくる
 (イ) ノーリフトケアを推進し、スタッフの身体的な負担軽減を図り、腰痛発症を防止する
 (ウ) 職場間の交換研修等を通して相互応援ができるスタッフを育成し、欠員時の負担軽減と超勤時間増大の抑制を図るとともに有給休暇の取得を推進する
 (エ) BCP(事業継続計画)を日常的に訓練、検証し、感染症や災害発生時のリスクへの備えを強固にする

4. 地域における公益的な取組

- (ア) 地域の小中学校、高校の福祉体験、職業体験、実習等に協力するとともに、地域住民のボランティア活動を受け入れる
 (イ) 森町、地域包括支援センター、町内各団体の事業や近隣自治会の福祉活動、地域防災訓練等にスタッフがボランティアとして参加する
 (ウ) 静岡県災害派遣福祉チーム（静岡 DWAT）からの要請に基づき登録員を派遣する

【数値指標】

	特養		天宮サテライト	短期入所	通所介護		
	従来型	ユニット型	ユニット型	従来型	介護	予防	
利 用 者 定 員	60 名	20 名	29 名	12 名	42 名		
利用者延べ人数	21,900 名	7,092 名	10,257 名	2,959 名	7,848 名	624 名	
一日平均利用者数	60.0 名	19.4 名	28.1 名	8.1 名	25.6 名	2.0 名	
稼 動 率	100.0%	97.2%	96.9%	67.6%	65.9%		
稼動日数（延べ）	365 日	365 日	365 日	365 日	306 日		
単価（一人一日当り）	13,188 円	15,919 円	15,042 円	12,058 円	9,778 円	6,867 円	
サービス活動収益	288,806 千円	112,885 千円	154,280千円	34,678 千円	80,994 千円		
職員数（常勤換算）	42.8 名	13.2 名	21.3 名	5.4 名	14.4 名		
	在宅介護 支援センター	居宅介護支援		訪問介護			放課後等 デイサービス
		介護	予防	介護	予防	障害	
利 用 者 定 員	－	－	－	－	－	－	10 名
利用者延べ人数	－	2,040 名	716 名	3,862 名	1,260 名	240 名	978 名
一日平均利用者数	－	－	－	10.8 名	3.5 名	0.7 名	4 名
稼 動 率	－	－	－	－	－	－	40.4%
稼動日数（延べ）	365 日	365 日		359 日			242 日
単価（一人一日当り）	－	18,010 円	4,286 円	3,972 円	3,718 円	3,696 円	12,285 円
サービス活動収益	－	39,639 千円		24,737 千円		1,297 千円	12,014千円
職員数（常勤換算）	0.1 名	5.0 名		5.3 名		0.1 名	4.1 名

聖隷びゅあセンター磐田

聖隷こども発達支援センターかるみあ

聖隷放課後クラブはなえみ磐田

相談支援事業所磐田みなみ

聖隷チャレンジ工房磐田

磐田市発達支援センターはあと

磐田市子育て支援総合センターのびのび

磐田市南部地域包括支援センター

磐田市南部障害者相談支援センター

磐田市地域活動支援センター

2024年度は、利用者の想いを大切にした「利用者まんなか支援」を重点目標とし、日々の取り組みの中で利用者の想いを汲み取り、実践するなど、利用者主体の支援に取り組んだ。また、行政と意見交換、プロポーザルを経て磐田市子育て支援総合センターのびのび・磐田市南部地域包括支援センター・磐田市南部障害者相談支援センター・磐田市地域活動支援センターの受託事業を継続することとなった。

2025年度は、これまでの取り組みを踏襲しつつ、「利用者まんなか支援」の継続的な実施を進める。その中で、利用者支援に必要な「気づき」の感度を高め、利用者が求める支援に応えられる施設を目指す。また、各事業の有機的な連携から地域の状況を迅速に察知し、適切に対応できる体制を築きたい。行事や招待イベントを通じて地域との関りを深め、地域と共に歩んでいく。そして、利用者、職員の命を守るため、日々の安全・災害対策の取り組みをさらに強化していく。

【施設理念】

ご利用者が“その人・その家族らしく”「生きる力」を培い、地域の一員となるために、わたしたちはこどもから大人まで途切れの無い一貫した支援を提供します

【経営方針】

1. 利用者満足度の高いサービスを提供する
2. 働きやすい職場環境づくりと経営の安定化
3. 地域における公益的な取り組み

【事業・運営計画】

1. 利用者満足度の高いサービスを提供する

(ア) 聖隷こども発達支援センターかるみあ

- ① 「言葉」・「表情」・「動作」に共感し、こどもの主体性を育む療育を実践する
- ② 活動や遊びに自分らしく参加できるよう、「人」や「場所・物」に安心感が持てる環境を整える
- ③ 保護者が「心地よい」と感じる距離感で、家庭でも実践できる取り組みを提案する

- ④ 磐田市との連携体制を強化し、地域支援を担えるよう中核機能の役割を発揮する
- (イ) 聖隷放課後クラブはなえみ磐田
 - ① 自己選択・自己決定ができるよう、ICT 等のツールを活用し意思決定を支援する
 - ② こどもが地域で過ごせるよう、地域の児童や異年齢児との交流の機会を提供する
 - ③ 家族の体験型行事等、きょうだい支援と共に保護者同士つながる機会を提供する
- (ウ) 聖隷チャレンジ工房磐田
 - ① 利用者が成長を実感し、次の「やりたい」に繋がるよう成長の可視化と役割の明確化に取り組む
 - ② 作業訓練メニューの見直しと創出を行い、目標平均工賃 35,000 円／月を目指す
 - ③ その人らしい就労支援ができるよう、就労選択支援事業の開始に向けて準備する
 - ④ 地域交流の場として、CHOUCHOU（シュシュ）のイートインを再開する
- (エ) 磐田市発達支援センターはあと
 - ① こどもが自分の想いや願いを表現できるよう、保護者にこどもの関り（自己理解・発信方法）について助言する
 - ② 自分らしい成長のため、園や学校等に将来の見通しと環境配慮等の助言を行う
 - ③ 親子が適切な「時期・場所」で支援が受けられるよう磐田市や関係機関との連携を強化する
- (オ) 磐田市南部地域包括支援センター・磐田市南部障がい者相談支援センター・聖隷相談支援事業所磐田みなみ
 - ① 認知症の方を支えるため、関係機関とネットワークづくりを行う
 - ② 引きこもり等のサービスにつながりづらい方に対し、関係機関との有機的な連携から途切れない仕組みをつくる
 - ③ 利用者の緊急時に備え、地域生活支援拠点の連携体制を整える
 - ④ 一般相談支援（地域移行・定着）の利用促進に向け、関係機関への広報と顔の見える関係づくりを行う
- (カ) 磐田市子育て支援総合センターのびのび
 - ① 安心して子育てができるよう妊婦さんや転入者同士の仲間づくりの場を提供する
 - ② ファミリーサポート事業の援助体制強化のため、顔の見える関係づくりを行う
 - ③ 保護者や地域、関係機関等の参加型講座を開催し「共育て」につなげる
- (キ) 磐田市地域活動支援センター
 - ① 活動への参加意欲の維持とステップアップの見通しが持てる活動を提供する
 - ② 引きこもり等のサービスにつながりづらい方に対して SNS 等活用し情報を届ける
 - ③ 自立支援協議会やサロン等の地域の関係団体とのネットワークを強化する

2. 働きやすい職場環境づくりと経営の安定化

- (ア) 安全計画に基づいた環境整備と BCP(事業継続計画) 訓練・防災訓練・防犯訓練を実施し、利用者と職員の安全管理を強化する
- (イ) 組織的な権利擁護の取り組みとともに、職種別ラダーを活用した専門性の向上に努める
- (ウ) 長期的かつ安全な施設運営と狭隘化解消に向け施設の改修や増築について計画立案する

- (エ) 利用者主体の活動が提供できるよう、新システム導入に向けて検討する
- (オ) 職員がボトムアップと共感ができる環境を整え、利用者支援の「やりがい」に繋げる

3. 地域における公益的な取組

- (ア) 研修講師・施設見学や実習・ボランティア等を積極的に受け入れる
- (イ) イベントへの参加やSNS等を活用し、施設の情報を発信する
- (ウ) 地域を招待した行事や園庭開放を通し、安心して相談・交流できる場を提供する
- (エ) 磐田市や地域主催の作品展や交流会に参加し、地域との連携を深め相互理解に繋げる
- (オ) 磐田市社会福祉協議会及び法人連絡会開催のイベント等に参画し、普及啓発を行う

【数値指標】

	かるみあ 児童発達	かるみあ 保育所等	磐田みなみ (特定)	磐田みなみ (障害児)	チャレンジ 就労移行	チャレンジ 就労継続	チャレンジ 生活訓練
利 用 者 定 員	30 名	—	—	—	14 名	15 名	6 名
利用者延べ人数	7558 名	424 名	—	—	3192 名	4425 名	901 名
一 日 平 均 利 用 者 数	31.1 名	—	—	—	12.1 名	18.3 名	3.7 名
稼 働 率	103.7%	—	—	—	86.4%	111.7%	61.8%
稼働日数(延べ)	243 日	238 日	—	—	264 日	264 日	243 日
単 価 (一人一日当り)	17,684 円	17,646 円	—	—	12,327 円	8,917 円	8,375 円
サ ー ビ ス 活 動 収 益	133,655 千円	7,482 千円	8,259 千円	16,906 千円	39,348 千円	39,461 千円	7,546 千円
常勤換算職員数	26.4 名	1.8 名	4.1 名		6.1 名	6.3 名	1.0 名

	チャレンジ 定着支援	はなえみ 放課後デイ	はあと	のびのび	南部包括	南部相談	磐田市 地活
利 用 者 定 員	—	20 名	—	—	—	—	—
利用者延べ人数	—	5041 名	—	—	—	—	—
一 日 平 均 利 用 者 数	—	19.2 名	—	—	—	—	—
稼 働 率	—	104.2%	—	—	—	—	—
稼働日数(延べ)	—	242 日	—	—	—	—	—
単 価 (一人一日当り)	—	12,480 円	—	—	—	—	—
サ ー ビ ス 活 動 収 益	3,807 千円	62,910 千円	47,675 千円	27,000 千円	29,220 千円	12,936 千円	17,614 千円
常勤換算職員数	0.2 名	9.9 名	10.0 名	6.6 名	4.5 名	2.0 名	2.9 名

聖隷ケアセンター浅田

訪問看護ステーション浅田

聖隷ケアプランセンター浅田

新型コロナウイルス感染症の感染状況が落ち着き始めた 2024 年度は、コロナ禍以降「最期まで自宅で過ごしたい」という地域の利用者や家族のニーズが、「自宅以外を最期の場所を選択する」に変容していると実感した 1 年間であった。社会背景に合わせて変わっていく地域のニーズに合わせた支援を 2025 年度も訪問看護事業と居宅介護支援事業との協働のもと、継続していく。

訪問看護ステーション浅田

【事業・運営計画】

1. 地域とのつながり・連携を強化する。
 - (ア) 連携が弱い病院や相談支援事業所に焦点をあてアプローチしていく。
 - (イ) サービス担当者会議、地域ケア会議に参加するだけでなく積極的に提案していく。
 - (ウ) 困難事例に対応できるよう関係機関と連携していく。
2. 聖隷ケアプランセンター浅田と協働し、質の高い看護を提供する。
 - (ア) 共通利用者の事例検討を行い、アセスメント力をつけていく。
 - (イ) 見やすさ、時間短縮を考慮した記録を検討していく。
 - (ウ) 両事業所セットの依頼は積極的に受け入れ、タイムリーな対応をしていく。
3. スタッフが安心して働くことができる環境を整える。
 - (ア) マニュアルや物品の整理、手順書の見直し等、業務の見直しを行う。
 - (イ) スタッフの研修参加と伝達講習を支援していく。
 - (ウ) 防災、防犯訓練、有事の際の協力体制を確認していくことで災害に対する意識を高めていく。
4. 地域における公益的な取り組み
 - (ア) 地域包括支援センターと協力して地域の高齢者にニーズに合わせたサロン活動に協力していく。
 - (イ) 地域の防災訓練に参加し、地域住民との交流を図っていく。

【数値指標】

平均利用者	月平均 訪問件数	年間 訪問件数	単価	サービス 活動収益	職員数 (常勤換算)
162名	878件	10,540件	医療 11,500円 介護 9,000円	110,437千円	14.0名

聖隷ケアプランセンター浅田

【事業・運営計画】

1. 担当地区の方達が障害や病気を持っていても安心して暮らせる地域作りに参加する。
2. 訪問看護ステーションとの複合事業所として事業所力を更に高める。
3. 研修会への参加でスキルアップを図る。
4. ワークライフバランスの充実、業務の効率を図る。
5. 防災や感染症への取り組みを実践する。

【数値指標】

年間請求件数		平均単価		訪問調査 年間件数	訪問調査 単価	サービス 活動収益	職員数 (常勤換算)
介護	予防	介護	予防				
1,842件	452件	17,104 円	4,321 円	7 件	4,400 円	2,879 千円	4 名

聖隷こども園わかば

2025 年度も地域の枠にとらわれず、利用者人数を増やし安定した運営を図る必要がある。その為、自園の強みを分かりやすく発信していくと共に、多様化する保護者のニーズを理解し、地域に信頼され、選ばれる園となる為に保育の質の向上に力を入れていく。また、職員一人ひとりが園の理念・目標を理解し、子どもたちそして保護者にとって今何が必要か、大切かを常に考えながら、教育・保育を実践していく。保育支援システム（コドモン）を導入して 3 年目となる。保育ドキュメンテーション等を通して子どもの姿を保護者と共有し、職員一人ひとりが保育の面白さを更に実感できるようにしていく。そして、職員自身が向上心を高められるよう、業務の見直しを行ない、働きやすい職場環境の再構築を図る。

2024 年度は地域の子育ての拠点施設として園を開放し妊婦支援、多世代支援等を行ない、新たにその中で事業団内の他施設職員と連携をし、発達支援プログラムを実施した。子育て中の親子に寄り添い、個々に必要な支援を提供できるよう、こども園併設型の支援ひろばのメリットを今後も活かしていく。職員一人ひとりが地域の子育ての拠点施設として求められていることの理解を深め、こども園併設型の支援ひろばの在り方を考えていく。また、少子化が進んでいく中で病後児保育事業、統合保育の推進等、関係機関・地域との連携を図った取り組みを進めていきたい。

現在の園舎となり 20 年を超え、老朽化による修繕が発生していく為、安全且つ安心して過ごせるよう整備をしていく。

【施設理念】

キリスト教の精神を基本理念とし、児童福祉法・児童憲章にのっとり、健康で安全・安心な乳幼児の教育・保育を目指す

『子ども自身に生きさせよ～自分で考え、判断し、行動する子ども～』

キリスト教の精神を基本理念におき、集団生活をとおして人への思いやりや優しさを、また恵まれた環境の中での様々な経験をとおして逞しい心身の成長を育む

【経営方針】

1. 地域の枠にとらわれず、入所希望のニーズに応えることで安定した運営を図る。
2. 職員一人ひとりが施設理念・園目標をもとに、子ども一人ひとりの育ちを支える教育・保育を提供する。
3. 子育て世代に求められる幅広い子育て支援を知り、積極的に取り組むことにより、地域での存在の意義を深める。
4. 計画的に施設設備の修繕を行い、安心と安全を保つ。

【事業・運営計画】

1. より質の高い教育・保育を実践する
(ア) 幼保連携型認定こども園教育・保育要領、キリスト教保育指針に基づき、園児の発達の連続性を考慮して全体的な計画を作成し、0 歳から小学校就学前までの一貫した教育・保育を展開していく

(イ) 保育実践の学びを深めながら、子どもたち一人ひとりをよく理解し、保育者同士が語り合いながら保育の楽しさや、面白さが実感できる機会を増やし、保育の質の向上を図る

2. 保育職としての専門性を高める

(ア) 園内研修の充実をはかり、職員一人ひとりが園の理念・目標を理解し、教育・保育の実践を行う

(イ) 保育職ラダー・目標参画・自己評価を用いて、自己の課題を明確にした上で教育・保育を実践し、評価を行い、改善点を更なる向上につなげる

(ウ) 職員一人ひとりが専門性の向上のため研修等に積極的に参加できるよう支援する

(エ) 保育を客観的に振り返り、課題改善を行ない、より良い保育につなげる

3. 様々な視点から保育環境の充実を図る

(ア) 食育の推進

管理栄養士・調理師と連携を図り、野菜栽培やクッキングなどの体験や、日常の保育の中に食育を意識した活動を多く取り入れる

(イ) 子育て、親育て支援

園だより・ドキュメンテーション・フォトラーニング・ホームページ・懇談会等を通して教育・保育の内容や、子どもの姿を保護者に分かりやすく発信し、子どもの成長を共有する

4. 地域における公益的な取り組み

(ア) 園庭開放、育児相談、子育て支援ひろばの充実をはかり、子育てに悩みを抱える家庭の相談に応じ、安心して過ごせる場の提供を行う。子育てや子どもの成長に喜びを感じ、親としての成長を実感することでより良い親子関係を築けるよう支援する。また、地域に出向く出張ひろばを通し、地域の子育て力向上に寄与する

(イ) 中高生の職場体験の受け入れや近隣施設の高齢者との世代間交流を積極的に図り次世代を担う若者の支援や高齢者の生きがい作りに貢献する

【数値指標】

	0歳児	1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児	合計
利用定員（2・3号）	24名	30名	34名	34名	34名	34名	190名
利用定員（1号）	－	－	3名	4名	4名	4名	15名
利用定員合計	24名	30名	37名	38名	38名	38名	205名
一日平均入所者数	14.9名	30.0名	34.0名	36.0名	33.0名	34.0名	181.9名
年間入所延人数	179名	360名	408名	432名	396名	408名	2,183名
入所率	62.2%	100%	91.9%	94.7%	86.8%	89.5%	88.7%
開所日数（延べ）	保育日数 292日 / 教育週数 44週						
サービス活動収益	278,177千円						
職員数（常勤換算）	45.1名						

【提供事業】

延長保育事業

一時預かり事業（一般型・幼稚園型）

地域子育て支援拠点事業

病児保育事業（病後児型）

聖隷こども園桜ヶ丘

2025 年問題の背景には、日本における未曾有の少子高齢化がある。2023 年の出生数はさらに減少し過去最多となった。人口減少に歯止めがかからず、近年乳児の入園希望が少なくなっている。地域や利用者のニーズに応え専門職として質の高い保育を提供し、選ばれる園であるように取り組む。

2025 年度は、0、1 歳児クラスではゆるやかな育児担当制保育を継続し、一人ひとりの情緒の安定を図り、子ども自身が生活に見通しを持ち主体的に生活が送れる保育を展開していく。2 歳児・幼児クラスも子どもたちが主体的に生活したり遊んだり、コーナー遊び中心の保育を行う。また、日常の中で子どもたちが多くの子どもたちと関われるように異年齢交流を行い大きな家族、兄弟のように過ごせるようにする。また、老朽化した園庭の人工芝敷設や日除けシェードの取り付けなどの工事を計画的に行い、魅力的で子どもが安心・安全に遊べる園庭にしていく。

【施設理念】

「わたしはまことのぶどうの木、あなたがたはその枝である」ヨハネによる福音書 15：1-5

1. 子どもたち一人ひとりが愛され、受け入れられて、愛することを知る
2. あそびや体験を通して心身を育て、子どもたち一人ひとりの個性を伸ばしていく

【経営方針】

1. 愛されて、愛する心を知り、お互いに大切な存在であることを知る。
2. 一人ひとりの違いに気づき、お互いを認め合いながら共に主体的に生活する。
3. 自己発揮できる環境の中で創造性を育てる。
4. 在園、地域の子育て家庭が、心豊かな環境で子育てできるように支援する。

【事業計画】

1. 教育・保育の質の向上
 - (ア) 職員が保育理念・キリスト教保育を根底とした保育方針を理解し、一人ひとりを大切にしたい子ども主体の保育を実践する
 - (イ) 子どもの姿から興味や関心を探り、遊びの連続性、継続性を意識した保育を実践する
 - (ウ) 発達に課題等を抱え、個別の支援が必要な園児の理解を深めるため、専門機関と連携を取りながら定期的に巡回やケース会議を行う。また、外部研修に参加しスキルを高める
 - (エ) 異年齢で過ごす時間を自然に持てるように考え、年齢の枠を超えた関わりを大切にする
 - (オ) 個々の発達段階に見合った運動遊びや体操を継続して行い、体幹を鍛え運動の楽しさや意欲を育てる
 - (カ) 会議の在り方を検討し、職員がお互いに保育観を発信、共有して保育環境を共に考える
2. 保育職としての専門性の向上
 - (ア) 年間研修計画に沿ってキャリアアップ研修や外部研修への参加を支援し、職員の資質向上を図る

- (イ) 保育職ラダーや目標参画を活用し、個々の課題や園の課題を明確にして目標達成に向けてスキルアップを図る
 - (ウ) 子どもの主体的な遊びを豊かに展開させるため、職員が子どもの姿から人的環境と物的環境等について学び、発達段階に見合った環境構成を実践する
 - (エ) キリスト教保育のテキストやコドモンのオンライン研修を活用して、定期的に小人数で保育について語り合う時間を作り、職員間のコミュニケーションを取りながら学びを深める。
3. 職員の働きやすい環境づくり・保育支援システム（コドモン）の活用
- (ア) 主幹保育教諭と副主幹保育教諭が中心となり職場の業務改善に向けて取り組む。そして、職員が働きやすい職場環境を整え離職防止につなげる
 - (イ) 保育支援システム（コドモン）の機能を活用し記録業務の削減を図る。また、子どもの姿をドキュメンテーションにて保護者に発信し、子どもの成長を共有する
4. 地域における公益的な取り組み
- (ア) 親子ひろばにて、地域の子育て家庭の相談事業や遊びの提供をして安心して子育てができるように支援する
 - (イ) 地域の自治会や近隣施設（都田南小学校・都田図書館・浜松学園等）と交流を図り、相互理解や連携、信頼関係や共助関係を構築する
 - (ウ) 施設見学や実習生・中高生のボランティアを積極的に受け入れ、次世代の育成に貢献する
 - (エ) 浜松市障がい者自立支援協議会（北エリア連絡会「こども部会」）にて子どもの育ちを支える教育機関と福祉がお互いの理解を深めていく【数値指標】

【数値指標】

	0 歳児	1 歳児	2 歳児	3 歳児	4 歳児	5 歳児	合計
利用定員（2・3号）	20 名	30 名	30 名	30 名	30 名	30 名	170 名
一日平均入所者数	12 名	25 名	30 名	30 名	26 名	32 名	155 名
年間入所延人数	138 名	298 名	360 名	360 名	312 名	384 名	1,852 名
入所率	60.0%	100%	100%	100%	86.6%	106%	91.1%
開所日数（延べ）	292 日						
サービス活動収益	230,184 千円						
常勤換算職員数	34.2 名						

【提供事業】

延長保育事業

一時預かり事業（一般型）

親子ひろば

聖隷こども園ひかりの子

少子化が進み、浜松市内の園でも地域によって入園希望園児数が減少している。その中においても自園の周辺地域は、特に乳児において入園希望が多くあり、転入出の家庭も多いため年度途中の入退園も多い。常に利用者のニーズを把握し、専門職としてどのように保育を進めていくべきかを改めて追及していきたい。具体的には、2024年度からの振り返りを基に、園児一人ひとりの育ちを保障し、適切な関わりを追求していくためにクラス編成の見直しを実施する。それらについては保護者への丁寧な説明に加え、実際の子どもたちの育ちの姿を分かりやすく伝えながら年間を通して理解を求めていく。またキリスト教の精神が基本理念であることを職員一人ひとりが改めて理解し、質の高い保育の提供ができる職員集団の形成を目指したい。

そして、「子ども誰でも通園制度」の導入が開始される中、改めて保育制度や園が求められていることを理解し、地域に信頼される園を目指し、在園児だけでなくすべての子どもたちの育ちを支える役割を担っていきたい。

【施設理念】

『ひかりの子らしく歩みなさい』～エフェソ信徒への手紙 5:8～

キリスト教の精神を基本理念とし、児童福祉法、児童憲章、幼保連携型認定こども園教育・保育要領、キリスト教保育指針に基づいて、心身ともに豊かな子どもを育てる

【経営方針】

1. 愛されて、愛する心を知り、お互いが大切な存在であることを知る
2. 一人ひとりの違いに気づき、お互いを認め合いながら共に主体的に生活する
3. 自己発揮できる環境の中で創造性を育てる
4. 在園、地域の子育て家庭が、心豊かな環境で子育てできるように支援する

【事業・運営計画】

1. 教育・保育の質の向上
 - (ア) 子どもの姿、心の動きを多角的に捉える視点を学ぶため、園内での保育士交換や、フォトラーニング、コドモンカレッジ等で経験年数にとらわれない園内勉強会を継続していく
 - (イ) 子どもの非認知能力を培うため、異年齢保育や少人数保育等必要に応じて保育の形態を工夫し、日々の生活や遊びの中で他者との交流が図れる環境（空間・時間・物等）を整える
 - (ウ) 子どもが自分でやりたいことを見つけ、方法を考えて達成していく「子ども主体の保育」を実現し、一人ひとりの成長発達に合わせた保育実践に結び付けていく
 - (エ) 歳児ごとのクラス編成への見直しを行い、その歳児の発達を丁寧に捉え、一人ひとりに合わせた関わりを意識する
 - (オ) 定期的に教育・保育を見直す視点を持つ。各種自己評価チェックリストを基に子どもの最善の利益を最優先に考えて、職員が互いに質を高め合うことができる職場環境を実現する
2. 教育・保育の専門性の向上及び働きやすい職場環境の整備

- (ア) 保育職ラダーや自己評価を通じて、それぞれの段階で求められる資質を明らかにし、キャリアステージに応じた内外の研修に参加する
- (イ) 職階・職務内容・役割に応じて業務の棲み分けを明確にし、組織的に役割を担えるようにする。具体的な業務の改善や見直しを図ることで、問題解決に取り組む
- (ウ) 保育支援システム（コドモン）の各種機能のさらなる活用に加え、業務負担の軽減を目指して他保育システムの内容等も確認し、必要に応じて検討会を行う

3. 地域・他機関との連携

- (ア) 小学校への接続をふまえ、与進小学校との交流を深める（町探検での訪問等）
- (イ) 市野与進こども園等、近隣の施設との連携・交流を深める
- (ウ) 行政・民生児童委員・発達医療センター等の職員との情報交換・共有を図る
- (エ) 地域の美化活動・子育て会議等の地域の交流会に参加し、地域の方々との繋がりを大切に、園の教育・保育内容について知ってもらう機会を増やす

4. 安全・危機管理に対する取り組み

- (ア) 大きな事故を未然に防ぐために、日常の「ヒヤリハット」に気付き、その分析・報告・共有ができる体制を強化する
- (イ) 感染症に関する正しい知識や情報を共有すると共に、有事には関係機関とスムーズに連携できるよう体制の整備、研修の充実を図る
- (ウ) 防災委員会を中心に災害・不審者対策の見直しを行い防災力の強化を図る

5. 地域における公益的な取り組み

- (ア) 地域の子育て家庭に、集い・交流の場所を提供する（親子ひろば・園庭開放）
- (イ) 中高生の職場体験学習やボランティアを受け入れ、次世代育成に貢献する

【数値目標】

	0 歳児	1 歳児	2 歳児	3 歳児	4 歳児	5 歳児	合計
利用定員（2・3 号）	27 名	36 名	36 名	40 名	40 名	41 名	220 名
利用定員（1 号）	—	—	3 名	4 名	4 名	4 名	15 名
利用定員合計	27 名	36 名	39 名	44 名	44 名	45 名	235 名
一日平均入所者数	16 名	35 名	36 名	44 名	38 名	41 名	210 名
年間入所延人数	192 名	420 名	432 名	528 名	456 名	492 名	2520 名
入所率	59.2%	97.2%	92.3%	100%	86.3%	91.1%	89.3%
開所日数（延べ）	292 日（教育週数 44 週）						
サービス活動収益	309,877 千円						
職員数（常勤換算）	46.6 名						

【提供保育事業】

延長保育事業	障がい児保育事業
一時預かり事業（一般・幼稚園型）	外国人児童保育事業
親子ひろば	類似型学童保育事業

聖隷こども園めぐみ

子どもを取り巻く社会状況は、少子化、貧困、いじめ、不適切保育、虐待問題等多くの課題を抱えており、子どもの育ちを支えるこども園として、子どもの最善の利益を保証するとともに、背景にある家庭支援の充実が求められている。また、確実に進む少子化の影響が大きい中、地域のニーズに応え必要とされる園児の受け入れを積極的に行い、地域への貢献を果たすとともに、経営の安定に繋げたい。特に障害児、医療ケア児等の保育ニーズに応えるためには地域資源の活用と連携が不可欠となる。聖隷こども発達支援センター和合と隣接する当園の特徴を活かし連携体制の強化を目指す。「こども」という領域で障害の有無にかかわらず育ちを支援することが出来るよう立ち上げられた「こども連絡会」を中心に聖隷の施設同士が連携し、支援体制のスキーム策定を視野に取り組みを進めたい。そして子どもに関わる施設として互いの専門性を高めるため職員の学びの場の構築を目指す。

園内では乳幼児期の質の高い教育・保育の提供が子どもの将来にわたる生きる力を育むことに繋がっていることを職員間で再確認し、発達に即した教育・保育内容の充実を図る。園内外の研修へ積極的に参加することや、聖隷保育学会での研究発表を通して職員一人ひとりの専門性の向上を目指し「保育の質の向上」に繋げる。

また、職員がモチベーションを高く持って、長く働き続けられるように仕事と家庭の両立支援等のサポート体制を活用すると共に、保育支援システム（コドモン）を有効活用することで、職員の業務省力、職員個人の保育のスキルアップに繋げたい。さらに主任・副主任保育士等を中心として、職員自身が保育の魅力を言語化し発信できるような、語り合う職場風土作りに取り組む。

【施設理念】

キリスト教の精神に基づく「隣人愛」

「隣人を自分のように愛しなさい」 マタイによる福音書 22 章 39 節

「わたしがあなた方を愛したように、あなたがたも互いに愛し合いなさい」

ヨハネによる福音書 13 節 34 節

【経営方針】

1. 愛されて愛する心を知り、お互いが大切な存在であることを知る
2. 一人ひとりの違いに気づき、お互いを認め合いながら共に主体的に生活する
3. 自己発揮できる環境の中で創造性を育てる
4. 在園、地域の子育て家庭が、心豊かな環境で子育てできるように支援する

【事業計画】

1. 教育・保育の質の向上

(ア) 幼保連携型認定こども園教育・保育要領、キリスト教保育指針に基づき、園児の発達の連続性を考慮して保育を展開していく。職員が学びを深めたい「子どもとの関わり方」について実践報告を重ね、聖隷保育学会の発表に繋げる

(イ) 保育支援システム（コドモン）の各種機能を活用し、保育ドキュメンテーション等を通し

て子どもの育ち、保育の可視化を行い、保護者へ発信する

- (ウ) 保育職ラダーや自己評価を通して、自身を客観的に評価できるようにする。またキャリアステージに応じた研修に参加する

2. 聖隷こども発達支援センター和合との連携を図る

- (ア) 職員間の日常的な交流や連携体制作りを構築する
- (イ) 発達に課題のある子どもや医療ケアの必要な子ども等のニーズに対し、並行通園を含め両施設で支えられるよう職員間の連携を密に行なう
- (ウ) こども園、児童発達支援施設の職員共同で学び合う研修体制を構築し、それぞれの専門性向上を図る

3. 安全・危機管理に対する取り組み

- (ア) 職員一人ひとりが安全・危機管理に対する意識を高められるよう、ディスカッションの機会を活用し、事故予防とリスク発生時の対応の周知を図る
- (イ) 危機管理委員会を中心に災害・不審者対策の見直しを行い防災力の強化を図る

4. 子育て支援と地域における公益的な取り組み

- (ア) 在園家庭、及び地域の子育て家庭への育児に関する情報発信を強化する
- (イ) 中高生の職場体験やボランティアの受け入れを継続し、次世代育成に貢献する

5. 保育支援システム（コドモン）による業務省力・働きやすい職場環境づくり

- (ア) コドモンを有効活用し、業務省力につなげる
- (イ) 浜松地区の主任・副主任会を継続し、職場内の課題解決に向けて取り組み、現場の声が生かされる風土づくり、働きやすい職場の環境づくりを目指す

【数値指標】

	0歳児	1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児	合計
利用定員（2・3号）	18名	36名	36名	40名	40名	40名	210名
利用定員（1号）	-	-	-	2名	2名	2名	6名
利用定員合計	18名	36名	36名	42名	42名	42名	216名
一日平均入所者数	15.3名	34.9名	36.0名	39.6名	43.0名	38.0名	206.8名
年間入所延人数	183名	419名	432名	475名	516名	456名	2,481名
入所率	84.7%	97.0%	100%	94.2%	102.3%	90.0%	95.7%
開所日数（延べ）	保育日数 292日・教育週数 44週						
サービス活動収益	292,687千円						
常勤換算職員数	40.5名						

【提供事業】

延長保育事業

一時預かり事業（一般型・幼稚園型）

外国人児童保育事業

親子ひろば

病児保育事業（病後児型）

聖隷浜松病院ひばり保育園

「子ども・子育て支援新制度」の制定により事業所内保育所としての歩みを始めてから、10年が経過する。この間少子化でも待機児童は多く、その解消のため量の拡充を進めてきた。一方で少子化が影響し、園児が減少傾向の施設もあるが当施設は、入所率が年々上がり、2024年度に於いても特に、0歳児、1歳児の低年齢児の利用需要が高い。育児休業から復職するための乳児の受け入れをはじめとし、延長保育、土曜、休日保育の他、学童保育等、利用者ニーズに応じていく一方で、保育職として保護者支援と子どもの育ちの支援との両方を併せて考えていくことが今後とも継続して求められている。同時に、未来を見据えた、児童福祉施設としての役割を地域の中で見出し、具体的な取り組みを始めていきたい。

これまで積み重ねてきた、ピアジェの構成論を取り入れた、子どもの主体的な生活と遊びを支える連続的な保育実践を2024年も継続して取り組んではきたが、それを言語化、可視化することには課題もある。今、社会的にも求められている保育の質の向上のために、在宅・福祉静岡ブロック内の各園と連携を図り、高め合っていく。

【施設理念】

キリスト教精神を基本理念として関係法令を遵守し、新保育所保育指針やキリスト教保育指針にのっとり、健康で安全・安心な乳幼児の保育・教育を目指す。

【経営方針】

1. 愛されて愛する心を知り、お互いが大切な存在であることを知る。
2. 一人ひとりの違いに気づき、お互いを認め合いながら共に主体的に生活する。
3. 自己発揮できる環境の中で創造性を育てる。
4. 在園、地域の子育て家庭が、心豊かな環境で子育てできるように支援する。

【事業計画】

1. 質の高い保育の実践

- (ア) 0、1歳児クラスでは、ゆるやかな育児担当制保育を行い、個々の子どもの情緒の安定を図る。また、子ども自身が生活に見通しを持ち主体的に生活を進められる保育を展開していく。2歳以上児クラスではコーナー遊び中心の保育、幼児クラスではサークルタイム、子ども会議を実践し、一人ひとりが主体的に遊び、考え、行動していく力を育む保育を継続していく
- (イ) 子どもの興味関心を捉え、全体的な計画をもとに発達の連続性をもった保育を展開する
- (ウ) 保育支援システム（コドモン）の機能を活用し、保育ドキュメンテーションによる子どもの育ち、保育の可視化を継続し、保護者の保育理解や参画へとつなげる
- (エ) 聖隷内の他のこども園・保育園と連携を図り、他園への保育見学や聖隷保育学会での学びを、自園の保育に生かす

2. 専門性の向上を図る

- (ア) 研修計画に沿って WEB 研修を含めた園外研修への参加を促進し、学びの機会を増やす
- (イ) 保育職ラダーや目標参画システムを活用し、個々の課題を明確にして目標達成に向けて取り組むことを通しスキルアップを図る
- (ウ) 継続的な園内研修を通して、構成論の根拠に基づく保育や子どもの育ちを支える保育者の在り方を学ぶ中で、これらの保育実践を言語化する力を育む

3. 職員の働きやすい環境づくり

- (ア) 浜松磐田地区の園協同で保育支援システム（コドモン）の有効的な使用方法を検討し、保育業務の省力化を図る
- (イ) 浜松地区の主任・副主任会を継続し、職場の課題改善に取り組む。園全体で、互いの業務の可視化を通して、業務改善と質の高い保育実践を並行して進め、職員一人ひとりの働きがいにもつなげる
- (ウ) コミュニケーションの活性化、定期的な面談、業務の見直し等、心身両面の支援をリーダー層がチームとなってい、離職防止に取り組む

4. 地域における公益的な取り組み

- (ア) ボランティアや学生の実習を受け入れ、次世代の育成に貢献する他、学生の社会参加の場としての可能性も広げていく
- (イ) 住吉地区の文化展に参加することだけに留まらず、地域との連携を深めて相互理解、自助共助につなげる

【数値指標】

	0 歳児	1 歳児	2 歳児	3 歳児	4 歳児	5 歳児	合計
利用定員（従業員枠）	30 名	30 名	30 名	30 名	30 名	30 名	180 名
利用定員（地域枠）	6 名	7 名	7 名	－	－	－	20 名
利 用 定 員 合 計	36 名	37 名	37 名	30 名	30 名	30 名	200 名
一日平均入所者数	18.9 名	36.2 名	36.8 名	20.0 名	20.0 名	29.0 名	160.9 名
年間入所延人数	227 名	434 名	442 名	240 名	240 名	348 名	1931 名
入 所 率	52.5%	97.8%	99.5%	66.7%	66.7%	96.7%	80.5%
開所日数（延べ）	292 日						
サービス活動収益	264,131 千円						
常勤換算職員数	36.1 名						

【提供事業】

延長保育事業
乳児保育事業
学童保育事業

聖隷のあ保育園

近年、少子化の影響や育児休業を1年以上取得する家庭が多く0歳からの入園希望者が少ない状況が続いている。当園は小規模園の強みを活かし、2024年度は全体数を考慮し、歳児別の定員数にこだわらない受け入れを実施した。浜松市から要請される要支援児童や特定妊婦を積極的に受け入れた結果、2024年9月以降は定員を上回る児童数を確保できた。2024年度より開始した「余裕活用型一時預かり事業」を、2024年度前半に有効活用できたことも運営の安定につながった。この事業により地域子育て家庭への支援や新入園児確保につなげることができた。

2024年度は定員数にこだわらず受け入れたため、2025年度は0歳児の受け入れ数が厳しい状況だが、見通しを立てて対応していく。2025年度も引き続き「余裕活用型一時預かり事業」を活用し地域の子育て支援に貢献していく。連携施設である「聖隷こども園ひかりの子」とは土曜日保育の共同保育において連携を図る、卒園後の受け入れについては施設間の距離が遠く需要がない、保護者の意向に沿い近隣の園へのスムーズな転園を支援していく。法人内の園と情報共有し、安心、安全な保育が提供できるようにしていく。さらに保育の質の向上を目指し、子どもの成長発達に合わせた援助の在り方を探りながら、小規模園の強みを活かした保育を提供、展開していく。

【施設理念】

1. 子どもたち一人ひとりが愛されて愛する心を知り、お互いが大切な存在であることを知る。
2. 在園、地域の子育て家庭が、心豊かな環境で子育てできるよう支援する。

【経営方針】

1. キリスト教保育を基盤に、子ども一人ひとりが心身共に豊かな成長発達ができるよう丁寧な保育を行う
2. 定員19名という少人数の園の特性を活かし、乳児期の心身の発達に必要な十分に養護の行き届いた環境を整え保育を行う
3. 在園、地域の子育て家庭が豊かな環境で子育てできるように、保護者の就労、子育て状況を把握し、子どもの成長発達と併せて保護者支援を行っていく

【事業・運営計画】

1. 保育の質の向上を目指し、質の高い保育と保護者支援を行う
 - (ア) キリスト教保育を基盤に小規模園の強みを活かし、子どもにとって最善の利益を考え、「一人ひとりを大切にする教育・保育」の実践に努める
 - (イ) 園内勉強会で自園の研究を深める、外部研修で新たな知識を取り入れて、園として、また職員個々のスキルアップを目指す
 - (ウ) 養護と教育が一体となった保育を行うために、子どもを観る視点を養い子ども理解に努め、保育者は「こども観」を基に話し合い、子ども一人ひとりの成長発達を援助していく
 - (エ) 少人数の乳児保育園の強みを活かした保育（個々に合わせた丁寧な関わり、保護者支援）を考え展開し、保育環境と保育内容を子どもの成長発達に併せて、常に見直していく

2. 働きやすい職場環境づくり、業務省力化を目指す

- (ア) レイバー表・ホワイトボードを用いて職員の動きを可視化することで、職員がお互いの業務を意識し声をかけ合い、業務省力化を目指す
- (イ) 職員間のコミュニケーションを密にし、報告、連絡、相談を徹底する。コミュニケーション力を高める園内研修を取り入れ、スキルアップと共に働きやすさや業務省力化を目指す
- (ウ) 職員が働きやすい環境（勤務体制、休憩、仕事量等）を整え、心身の健康維持に努める
- (エ) 連携施設である「聖隷こども園ひかりの子」との共同保育等で大規模園の保育を経験し、保育士としてどこの園でも活躍できるような人材に成長できるよう支援を行う

3. 地域における公益的な取り組み

- (ア) 市からの要請を受けて地域の子育て家庭の相談に応じながら、要支援児童や特定妊婦の受け入れに努める
- (イ) 「余裕活用型一時預かり事業」を活用し子育て支援を行うと共に、新入園児確保に努める
- (ウ) 隔月の老人会（常和会）、近隣学校、他施設との交流を通して地域とのつながりを深める
- (エ) 洪水等の防災区域であることを発信し万一の際に備える。地域との連携を深めると共に保護者の防災意識を高める

【数値指標】

	0 歳児	1 歳児	2 歳児	合計
利用定員（3 号）	6 名	6 名	7 名	19 名
一日平均入所者数	5.3 名	9.8 名	3.3 名	18.5 名
年間入所延人数	64 名	118 名	40 名	222 名
入所率	88.8%	163.8%	47.6%	97.4%
開所日数（延べ）	293 日			
サービス活動収益	64,018 千円			
職員数（常勤換算）	9.1 名			

【提供事業】

- ・ 延長保育事業
- ・ 余裕活用型一時預かり事業

こうのとりの保育園

幼児教育において育みたい資質、能力を整理し、育ちと学びの連続性を意識した教育保育を目指す。育ちの繋がりをイメージし、小学校との円滑な接続にもつなげていけるよう、遊びを通じて学ぶという幼児期の特性を再認識し、学びの教育的意義や効果の共通認識に努めていく。

加速度的に進行する少子化への対応、変化する社会情勢、新たに始まる制度等々、保育所に求められる対応は多岐にわたる。子ども・保護者の多様化だけでなく、保育者も多様化の時代に、子どもの最善の利益を保障し、かつ安定した運営・管理を行うためにもマネジメント力を高め、役割を再認識し資質向上を図っていく。

【施設理念】

『隣人を自分のように愛しなさい』 マタイ福音書 22:39

『わたしがあなたがたを愛したように、あなたがたも互いに愛し合いなさい』 ヨハネ福音書 13:34

【経営方針】

1. 神に愛され、多くの人から愛されていることを感じ、愛する心を育む
2. ひとりひとりの違いに気づき、お互いが大切な存在であることを知り、認め合いながら主体的に生活する
3. 自己発揮できる環境の中で創造性を育てる
4. 在園、地域の子育て家庭が、心豊かな環境で子育てできるように支援する

【事業・運営計画】

1. 保育の質向上への取り組み

(ア) 教育、保育理念を理解し実践する

- ①子どもの声を聴き、思いを受け止め、「やってみたい」という思いを大切にし、子どもの権利と尊厳を守っていく
- ②子どもの生活リズムを大切にし、流れる日課を通して、一人ひとりが安心して落ち着ける場所、食事や睡眠、排泄のための心地よい生活空間を確保する
- ③子どもの興味関心や一人ひとりの個性に応じた多様で質の高い学びを引き出すために、環境を通して行う教育保育を図る
- ④記録や職員間の話し合い等を通じて、主体的に常に自らの保育を振り返り、互いの学び合いや、保育の改善意識や専門性の向上に繋げていく
- ⑤感染症や事故、災害時の対応と安全確保について責任、手順（マニュアル・BCP）等を明確にし、対応と連携を職員周知し、強化する

(イ) 家庭と連携して子育てを共有する

- ①子どもの健全な成長を見守るため、園での様子や育ちを日々のドキュメンテーション、懇談会等を活用して保護者に解りやすく伝え、相互理解を図る
- ②保護者の保育参加を実施し、園での子どもの様子を直接見る機会を設け、面談を通して育ち

を共有し、保育の意図や保育内容について、保護者の理解を得る機会を設ける

2. 働きやすい職場環境づくり

- (ア) 保育支援システム（コドモン）の知識を深め、保護者アプリを活用し、円滑なコミュニケーションを行うことで、園への安心感、満足度を向上させる
- (イ) リーダー層の育成に注力し、常に理念に立ち返り、明確なビジョンを示し、チーム全員が目指す方向を一致させ、連携を強化する
- (ウ) 職員が意見を自由に言える文化を築き、やりがいを持って働き続けられる風通しのよい職場を作る

3. 統合保育の実践

- (ア) 障がい児を対象とした一時保育「こひつじ保育」は、在園児との交流を図り、保護者や子どものニーズを踏まえ計画的な保育を実施する
- (イ) 磐田市の巡回相談や訪問言語相談を利用し、並行通園先の児童発達支援事業所等と連携を深めながら、子どもへの関わり方や保護者へのアプローチ方法を学び、個別・集団における保育（療育）の実践に繋げる

4. 地域における公益的な取り組み

- (ア) 「幼保小の架け橋プログラム」に取り組み、教育実践を見合い、相互の共通理解を図ることで、0 歳児から積み上げた教育保育を小学校との接続へと積み上げ、連続性・一貫性を確保する
- (イ) 地域住民や小中高校生との世代間交流を推進し、子育て支援活動、体験学習を積極的に受け入れ、子育てに関わる機会を創る

【数値目標】

	0 歳児	1 歳児	2 歳児	3 歳児	4 歳児	5 歳児	合計
利用定員（2・3 号）	20 名	20 名	20 名	20 名	20 名	20 名	120 名
一日平均入所者数	12.3 名	25.0 名	26.0 名	25.0 名	26.0 名	25.0 名	139.3 名
年間入所延人数	147 名	300 名	312 名	300 名	312 名	300 名	1,671 名
入所率	61.3%	125.0%	130.0%	125.0%	130.0%	125.0%	116.0%
開所日数（延べ）	292 日						
サービス活動収益	236,209 千円						
職員数（常勤換算）	42.6 名						

【提供事業】

延長保育事業	一時預かり事業（一般型）
地域子育て支援拠点事業	学童保育事業
休日保育事業	病児保育事業（病後児型）

聖隷こども園こうのとり東

2024年度は、コロナ禍により地域との交流を縮小していた活動を形式等に考慮しながら本格的に再開することが出来た1年間であった。地域資源を活用することで教育・保育を豊かにすることへと繋がることを実感した。2025年度は、持続可能な地域交流を図るために園としての役割を見出していく。少子化の影響に加えて同じ学区内に他法人のこども園が新設されたことで園児を確保することは容易ではないことが予想される。経営的にますます厳しい状況に直面しているが、地域や保護者に向けて園の教育・保育の可視化に重点を置き、園の理念や特色を広く伝えることで選ばれる園を目指していく。また、園運営の中核を支えるリーダー的存在である職員の育成や組織の在り方を構築し、園全体として互いに高め合い助け合う職場風土を目指す。

放課後児童クラブについては、磐田市の放課後児童クラブが2025年度より民間事業者に運営を委託されることになり、利用時間の延長やサービス拡充が図られる。その為、当園も園舎内にある特色を活かしながら質の向上に向けて児童も保護者も安心できる環境を整えていく。

【施設理念】

『隣人を自分のように愛しなさい』 マタイによる福音書 22:39

【経営方針】

1. 一人ひとりが愛される経験を通して愛する心を知り、互いが大切な存在であることを認めながら生活する環境を作る
2. 生活、あそび等の豊かな経験を通し創造性や意欲を育てる
3. 保護者、日本キリスト教中遠教会、地域の高齢者・民生委員、子育てサークル、多文化交流センターとの繋がりの中で、豊かな人間関係や感謝する心を育成していく

【事業・運営計画】

1. 保育の質の向上
 - (ア) 保育者が保育理念と保育目標を理解し「連続性を大切にした保育」を実践する
 - ① 0歳児からの主体性を大切にし、乳児はゆるやかな育児担当制保育を実践しながら個々の成長発達に応じた丁寧な援助や応答的な保育を行う。幼児は、子ども自身が生活を組み立てられるように時間に幅を持たせた日課や環境設定を構築していく
 - ② 主体性を大切にした教育・保育を目指し、子どもの姿から興味・関心を捉え環境を整えていく。その際に、成長発達に即した内容を提供できるように各歳児の教育・保育についての共有化を丁寧に行っていく
 - ③ 主幹保育教諭と共にリーダー的存在（副主任、専門リーダー）である職員が教育・保育についての課題を見出し、定期的な学びの場とプログラムを計画し実践していく
 - (イ) 保護者と共に子どもの育ちを見守る（保護者支援）
 - ① 園の教育・保育理念に基づいた保育内容について、園便り、保育ドキュメンテーションを活用し、可視化して具体的に知らせる

- ② 懇談会や保育参加後の面談を計画的に実施し、保護者の悩みを共有、支援しやすい関係を築く。外国籍家庭は相互理解を深められるよう、より丁寧な支援を心掛ける
- ③ 2024 年度より取り組み始めた『お仕事を知ろう』では、4、5 歳児に向けて保護者に自身の仕事について紹介してもらうことで子どもの興味の幅を広げていく

2. 統合保育・他機関との連携

- (ア) 保育者自身が統合保育や外国籍園児の背景についての学びを深め、子ども同士が共に育ち合う環境づくりや配慮について十分に理解を深め実践につなげる
- (イ) 配慮が必要な園児について児童発達支援センターと定期的な情報共有を図ることで各施設の特色に応じた援助が適切に行えるようにする

3. 食育の推進

- (ア) 栄養士、調理師、保育教諭が連携を取り、米、野菜づくりやクッキング活動を通して、子どもの食への関心を高める

4. 地域における公益的な取組

- (ア) 畑や田んぼ活動を通して、地域の高齢者とながら、世代を超えた交流の機会をもつ
- (イ) 園庭開放を年 12 回実施し、「こども園での生活」、「遊びの経験」、「身体測定」「歯科講習」等を通して地域子育て世帯に向けて育児相談の場を提供する

5. 放課後児童クラブ “オリーブ”

- (ア) できるだけ児童が主体的に学習やあそび等、生活スケジュールを決めて行動することができるよう声かけをして環境を整える。その際は社会性も意識して助言をしていく

定員：40 名

対象児童：市内 1 年生～6 年生 児童予定数：通常 33 名（長期休み：45 名）

対象小学校：（原則）東部小、田原小、福田小 ＊田原小・福田小については送迎車利用

【数値指標】

	0 歳児	1 歳児	2 歳児	3 歳児	4 歳児	5 歳児	合計
利用定員（2・3 号）	28 名	28 名	36 名	36 名	36 名	36 名	200 名
利用定員（1 号）	－	－	－	5 名	5 名	5 名	15 名
利用定員合計	28 名	28 名	36 名	41 名	41 名	41 名	215 名
一日平均入所者数	10.7 名	27.0 名	33.0 名	39.0 名	39.0 名	39.0 名	187.7 名
年間入所延人数	128 名	324 名	396 名	468 名	468 名	468 名	2,252 名
入所率	38.1%	96.4%	91.7%	95.1%	95.1%	95.1%	87.3%
開所日数（延べ）	292 日（教育週数 41 週）						
サービス活動収益	275,228 千円						
職員数（常勤換算）	44.5 名						

【提供事業】

延長保育事業 一時預かり事業（一般型） 外国人児童保育事業
 病児保育事業（病後児型） 学童保育事業

聖隷こども園こうのとり豊田

2025年度聖隷こども園こうのとり豊田は、地域に根差し開かれた園としての歩みを進めるために情報開示や関連機関との連携を強化する。女性の社会進出による未満児保育需要の高まりや核家族化の進行による子育てに対する不安や負担が増していることが予想される。未満児保育、延長保育、一時預かり保育などの保育のニーズに添えていくとともに、選ばれる園となるために地域への発信を積極的に行い園の教育・保育理念、運営方針、事業活動等を様々な方法で明快に伝え保護者や地域の方の伝聞の力も活用していく。園児や保護者からの信頼をさらに高めていくために、教育・保育の質の向上を目指して園内研修等の充実を図り、専門職としての知識や能力を高め組織力強化に繋げる。指導計画を基に『子どもの発達』に視点を置きながら保育を省察し園児一人ひとりに応じた保育環境や保育者の関わりを見出し、子どもの自ら育とうとする力を伸ばし情緒の安定を図っていく。

【施設理念】

キリスト教を基本理念とし

『わたしがあなた方を愛したように、あなた方も互いに愛し合いなさい』ヨハネ福音書 13：34

【経営方針】

1. 愛されて、愛する心を知り、お互いが大切な存在である事を知る
2. 一人ひとりの違いに気付き、お互いを認め合いながら共に主体的に生活する
3. 自己発揮できる環境の中で創造性を育てる
4. 在園、地域の子育て家庭が心豊かな環境で子育てができるように支援する

【事業・運営計画】

1. 教育・保育の質向上への取り組み

(ア) 教育・保育理念を理解し実践する

- ① 乳児保育で、ゆるやかな育児担当制保育の方法を継続する中で、『子どもの発達』を視点に保育を省察し保育環境や保育者の関わりを考え実践する
- ② 子どもと保育者、子ども同士等の対話を大切にした「こども会議」等の手法も取り入れながら、こどもの理解を深める
- ③ 異年齢児交流、地域の高齢者との交流、異文化交流等、様々な人との交わりを通して互いの違いに気づき認め合う心を育む

(イ) 家庭と連携して子育てを共有する

- ① 保育支援システム（コドモン）を通して、日々の保育の様子や教育及び保育の意図や子どもの発達について丁寧に伝えることで保護者との共有や相互理解を深める
- ② 保育参加や行事を計画し、子どもの様子や友達との関わり、教育・保育の可視化を行う個別面談等を行い子どもの育ちを共有する

2. 保育の専門性の向上と働きやすい職場環境の構築

(ア) 副主任や専門リーダーの知識や技術を活かし、職員全体で学び合う為の計画実践を行う。

外部研修に積極的に参加する。(キャリアアップ研修・実技研修・給食研修・衛生管理研修 等)

- (イ) 雇用形態の違う職員同士の園内研修を計画し実践を行う。職員同士が教育・保育について定期的に語り合う環境を作り施設目標に向けて協同性を持って進める
- (ウ) 教育・保育準備や記録業務・環境整備等の振り返りを定期的に行い業務効率の改善に取り組むと共に職員一人一人が高い視座で周りの状況を見る力を養い、園児の対応や保育準備の手伝い等、互いに支え合う関係性を構築する

3. 統合保育・専門機関との連携

- (ア) 発達のに気になる子や「こひつじ保育」(発達に偏りのある子どもを対象とした一時預かり)の広報を積極的に行い、利用者の増加に繋げる。子どもの育ちの背景や保護者の意向を踏まえて、個別の支援を実施する
- (イ) 必要に応じて磐田市の保健師、「磐田市発達支援センターはあと」や「聖隷こども発達支援センターかるみあ」と連携を図り、子どもへの関わり方や環境設定の配慮等を学ぶ
- (ウ) 小学生と園児の交流や小学校とこども園双方の参観会を実施し、情報交換を通して教育の理解を深め、小学校教育との更なる円滑化を図る

4. 地域に根ざした取り組み

- (ア) 地域の子育て家庭への助言や相談を行う機会を設ける。入園を視野に入れている親子へ保育公開日等を設ける
- (イ) 学童保育を継続し、在園児との交流を深めながら学習する習慣を身に着ける
- (ウ) 地域ふれあいクラブを園に招いて手作り玩具の作成や環境整備等を依頼し交流を図る

5. 地域における公益的な取り組み

- (ア) 地域の子育て家庭を対象に、保育教諭等の専門的育児講座を企画する
(BP プログラム (親子の絆づくりプログラム) 等)
- (イ) 小学校、中学校、高等学校が実施する乳幼児との触れ合いや交流に、こども園が積極的に協力し、次世代育成支援の一端を担う

【数値指標】

	0 歳児	1 歳児	2 歳児	3 歳児	4 歳児	5 歳児	合計
利用定員 (2・3 号)	18 名	23 名	24 名	25 名	25 名	25 名	140 名
利用定員 (1 号)	-	-	-	5 名	5 名	5 名	15 名
利用定員合計	18 名	23 名	24 名	30 名	30 名	30 名	155 名
一日平均入所者数	11 名	23 名	27 名	33 名	33 名	33 名	160 名
年間入所延人数	137 名	276 名	324 名	396 名	396 名	396 名	1925 名
入所率	63.4%	100%	112.5%	110%	110%	110%	103.5%
開所日数 (延べ)	292 日 (教育週数 41 週)						
サービス活動収益	267,464 千円						
職員数 (常勤換算)	52 (41.6) 名						

【提供事業】

延長保育事業 一時預かり事業 (一般型・幼稚園型) 親子ひろば 学童保育事業

聖隷こうのとり富丘

聖隷こども園こうのとり富丘
聖隷こども発達支援事業所かるみあ富丘
聖隷訪問看護ステーション富丘

開設から5年が経過し、それぞれの事業の基盤が安定してきている。2024年度は、介護・障害福祉サービスの報酬改定や保育士の配置基準見直し等政府の施策に沿った運営を行いながら、それぞれの事業所において利用者へ質の高いサービスの提供を目指して取り組んできた。2025年度も、各事業が目標をもって業務にあたっていくとともに、豊かな専門性や施設設備の充実等、複合施設の強みを活かした連携を図ることで、より質の高い事業の展開を図っていく。また、地域とのつながり作りに関する取り組みを進め、利用者や地域のニーズに沿ったサービスの展開を目指す。

【施設理念】

子どもたちの“今”が未来を創る～“その人らしく・その家族らしく”未来を描けるように～

【経営方針】

1. 神に愛され、多くの人から愛されていることを感じ、愛する心を育む
2. ひとりひとりの違いに気づき、お互いが大切な存在であることを知り、認め合いながら主体的に生活する
3. 自己発揮できる環境の中で創造性を育てる
4. 在園、地域の子育て家庭が、心豊かな環境で子育てできるように支援する

【事業・運営計画】

1. 施設運営

- (ア) 多職種の専門性を活かし連携を強化することで、利用者支援の充実を図る
- (イ) 職員の意見を反映させる場を設定し、働きやすい職場、モチベーションを維持する
- (ウ) 法人内外の研修参加、職種別ラダーを活用し、専門職としてのスキルアップを図る
- (エ) 適切な職員配置やコスト管理を徹底し、安心安全な環境の中で運営を安定させる

2. 聖隷こども園こうのとり富丘

- (ア) 施設理念に基づいた保育研究や実践を行い、保育の質向上へとつなげる
- (イ) 保護者向けの講演会や勉強会を企画し、子どもの育ちを共に考え学ぶ機会を提供する
- (ウ) 職員の意見を反映させる場を設定し、働きやすい職場、モチベーションを維持する
- (エ) 複合施設の強みを活かした保育の展開を通して利用者や地域に沿った保育・教育を行う

3. 聖隷こども発達支援事業所かるみあ富丘

- (ア) 複合施設の特徴を活用し、子どもの状況、発達年齢や生活年齢に沿った体験を提供する
- (イ) ケアニーズの高い児童への支援と療育活動を両立させ個別性の高い支援を提供する
- (ウ) 各家庭の状況にあった家族同士が交流する機会を作り当事者同士のつながりを維持する
- (エ) 施設開放やボランティア・実習生の受け入れを行い、地域とつながる
- (オ) 職員が相乗的に支援力を向上できるよう、専門性に特化した勉強会の機会を設ける

4. 聖隷訪問看護ステーション富丘

- (ア) 学習会、事例検討会を充実させ、訪問看護の質を維持・向上させる
- (イ) 福祉サービスとのつながりを強化し、障がいのある人へのケアを充実させる
- (ウ) 職員が健康に注意し、やりがいを持って働くことができるよう職場環境を整える

5. 地域における公益的な取り組み

- (ア) 多世代を対象とした施設開放を実施し、地域の家庭が安心して子育てができるように支援する
- (イ) 地域住民や中高生との交流、施設見学やボランティアを積極的に受け入れ、多世代・多文化の方が子育てに関わる機会を作る
- (ウ) 地域の防災訓練への参加を通して災害時の地域における施設の役割を検証し、地域とのつながりづくりを図る

【数値指標】

■聖隷こども園こうのとり富丘

【数値指標】

	0 歳児	1 歳児	2 歳児	3 歳児	4 歳児	5 歳児	合計
利用定員 (2・3 号)	18 名	20 名	20 名	20 名	21 名	21 名	120 名
利用定員 (1 号)	-	-	-	3 名	3 名	3 名	9 名
利用定員合計	18 名	20 名	20 名	23 名	24 名	24 名	129 名
一日平均入所者数	15.8 名	21.9 名	23.0 名	27.0 名	26.0 名	26.0 名	139.7 名
年間入所延人数	190 名	263 名	276 名	324 名	312 名	312 名	1677 名
入所率	87.9%	109.5%	115%	117.4%	108.3%	108.3%	108.3%
開所日数 (延べ)	292 日 (教育週数 41 週)						
サービス活動収益	241,488 千円						
職員数 (常勤換算)	41.3 名						

【提供事業】・延長保育事業 ・一時預かり事業 (一般型・幼稚園型) ・病児保育事業 (病後児型)

■聖隷こども発達支援事業所かるみあ富丘

■聖隷訪問看護ステーション富丘

利 用 者 定 員	10 名
利用者延べ人数	2,684 名
一 日 平 均 利 用 者 数	11.1 名
稼 働 率	110.9%
稼働日数 (延べ)	242 日
単 価 (一人一日当り)	15,210 円
サ ー ビ ス 活 動 収 益	54,585 千円
常勤換算職員数	9.7 名

平 均 利 用 者 数	105 名
月 間 訪 問 件 数	497 件
年 訪 問 件 数	5966 件
単 価	10,875 円
サ ー ビ ス 活 動 収 益	62,157 千円
常勤換算職員数	9.8 名

在宅・福祉関東ブロック

2024 年度は、ICT について活用方法を各事業で検討・実施、新たに通所事業における送迎管理ソフトの導入を行い、効率化が進むとともに介護報酬の ICT 活用加算取得をすることができた。

一方、各地区で採用計画が進まず、一部の事業所においてはケアが業務・作業中心となることもあり、提供するサービスの質などにも影響が出ている。

2025 年度は、各事業で ICT 導入後蓄積されたデータの活用を進め、職員負担を軽減して働きやすい環境とサービスの質向上を実現する。また、利用者のニーズを尊重し、質の高いケアを最優先とし、職員の専門性向上のため継続的な教育と研修を実施する。円滑なコミュニケーションとチームワークを促進し、フィードバックを基に具体的な改善策を導入して満足度向上を目指す。

倫理的かつ人権の尊重をケアの基本方針として、魅力的な職場環境のアピールにより採用活動を強化し、人材確保を行い、事業運営の安定化を図る年としたい。

【在宅・福祉関東ブロック理念】

「地域への感謝と貢献」

私たちは必要とされることを待つことなく、自ら出向き、共に生きる

【2025 年度目標】

1. ICT 活用により職員負担を軽減して働きやすい環境とサービスの質向上を実現する
2. 質の高いケアを最優先とし、職員の専門性向上のため継続的な教育と研修を実施する
3. 円滑なコミュニケーションとチームワークを促進によりモチベーション向上を目指す
4. 職員が具体的な倫理的対応を学び、利用者の権利と尊厳を守るケアを提供する
5. 魅力的な職場環境のアピールを通じて適切な人材を確保し、職員数不足を解消する

【浦安市高州高齢者福祉施設及び浦安市猫実高齢者デイサービスセンター】

1. 第 5 期高州高齢者福祉施設指定管理の契約更新
(ア) 第 5 期（2026 年度～2030 年度）の指定管理に向けて浦安市と交渉を進める
2. ケアハウス入居者への適切な対応
(ア) フレイル・閉じこもり予防、退去（予定）者への適切な情報提供と支援
3. 利用者個々のニーズに合ったサービスの提供
(ア) 認知症ケア・ACP・嚥下プロジェクトの継続、家族会やアンケート実施
4. 魅力ある職場づくり
(ア) ICT 導入（インカム）により業務を効率化し、魅力ある職場づくりを行う

【浦安せいのりの里】

浦安愛光園

1. 高洲地区での相談員同士の連携強化と仕組みづくり
(ア) 在宅、老健、特養のワンストップサービス（相談窓口）の構築
2. 新たな人材の確保
(ア) 特定技能により新たな外国人材の受入れ・特別支援学校の実習生受入れを開始
3. 理念や基本方針を継承する機会を増やす
(ア) 理念継承、コンプライアンス遵守、人権の尊重、主体性のある職員育成

浦安ベテルホーム

1. 職員が、専門職としての自覚を持ち、その取り組みが評価される組織づくり
(ア) 全職種のアセスメント力向上により多職種平等のケアマネジメント実施
(イ) 中堅職員層のスキルアップを促し、専門職員像に基づいた目標達成推進
2. 浦安市内及びその近隣地域での認知度を高め、利用されることで経営を安定化
(ア) 通所介護とは住み分け、地域包括支援センターと協働し地域貢献
(イ) 病院と連携強化して利用者確保し、利用者、家族、関係機関と一元的に連携する

【松戸愛光園】

1. ICT 技術を活用した個別ケアの充実
(ア) 見守りシステムのデータ活用を進め、エビデンスに基づいた個別ケアを行う
2. 職員が安心して長く働き続けることのできる職場環境
(ア) ノーリフトケアの充実と、インカムを活用した業務効率化
3. 事業継続を見据えた計画的な修繕計画の立案と実施
(ア) 老朽化した設備修繕や大規模修繕計画の検討

【横須賀愛光園】

1. 業務効率化の更なる推進とサービスの質の向上
(ア) 役職者に対するリスクリングとメンタルヘルスケアの実施
(イ) 送迎配車システムの活用と運転手管理体制の再編
2. 職員の資質向上と人材の確保
(ア) 指導力、確認体制の強化。介護支援専門員等の育成と確保
3. 障がい者日中活動の試行継続と事業推進
(ア) 障がい者日中活動（生産活動サービス）の試行継続

浦安市高洲高齢者福祉施設及び 浦安市猫実高齢者デイサービスセンター

浦安市特別養護老人ホーム・短期入所生活介護

浦安市ケアハウス

浦安市高洲高齢者デイサービスセンター

浦安市猫実高齢者デイサービスセンター

2025 年度は浦安市高洲高齢者福祉施設の指定管理者として第 4 期〔2021 年度～2025 年度〕の最終年度となる。1999 年度から浦安市にて高齢者福祉事業の運営を開始して 25 年が経過し、今後も浦安市民のために必要とされるサービスを継続的に提供したいと考え、第 5 期〔2026 年度～2030 年度〕の指定管理に向けて浦安市と交渉を進める。2024 年度は介護報酬改定、物価高騰、人件費高騰等、経営に大きな影響を受け、2025 年度以降の経営予測も難しいところではあるが、浦安市民へ安心安全なサービスを継続的に提供することを中心に据えて、各事業とともに職員一人ひとりと新たにチャレンジすることで乗り越えていきたいと考える。

【施設理念】

“私たちは、地域（市民）とともに高齢者福祉に貢献する”

【運営方針】

1. 私たちは、一人ひとりを知りその人らしい生活が続けられるよう支援します
2. 私たちは、ご利用者・ご家族（関わりのある方々）の思いを理解し、実現に向けて共に支援します
3. 私たちは、その人らしい最期の時をご家族（関わりのある方々）と共に支援します
4. 私たちは、職員一人ひとりが専門性を高め、人として成長するために常に研鑽します
5. 私たちは、一人ひとりが地域の社会資源として自覚し役割を果たします

【事業・運営計画】

1. 入居者・利用者が安心安全に生活できるよう、個々のニーズに合ったサービスを提供する
（ア） 特別養護老人ホーム・短期入所生活介護
 - ① 認知症ケアの充実を図るため、個々の認知症状を分析、その人の人生の歩みを深く理解し、「その人らしく」を支援できるケアプランを立案・実施・評価を行う
 - ② アドバンス・ケア・プランニング（ACP）を実践する。施設ケアマネジャー、相談員、介護員、看護師が中心となり、「もしもの時の話し合い」を繰り返し行い、入居者の望む最期を支援する
 - ③ 嚥下プロジェクトを継続して行う。定期的な嚥下評価を実践し、個々に合った食事形態、食事時間、姿勢等の支援を行う
 - ④ 入居者・利用者アンケートの実施、家族会を定期的に開催することにより、入居者・利

用者、家族の思いを共有し、サービスの質の向上につなげる

(イ) ケアハウス

- ① 入居者の社会性維持・閉じこもりやフレイル予防のための、地域交流とプログラムを強化する
- ② 入居者の状態に応じた機能維持を図るとともに、生活不便を低減する
- ③ 事故・感染予防に関する入居者への啓蒙・啓発と予防を強化する

(ウ) 通所介護

- ① 地域の利用者に対する個々のニーズに寄り添った生活支援サービスの提供と新たな支援体制の充実を図る
- ② 利用者の健康管理への支援を強化して、体調不良の初期症状発見に努め、家族、居宅支援事業所、医療機関との連携を密に取り、利用者へ受診を勧めるなど、長期的な入院を防ぐ働きかけや取り組みを継続する
- ③ 利用者の在宅生活状況やニーズについて情報収集し職場内でカンファレンスを実施、対応策を家族、居宅介護支援事業所等へ提案、共有し多職種連携を図る
- ④ サービスを必要とする利用者を安全かつ安定的に送迎できるシステム利用、対策を模索する
- ⑤ 2024 年度に仕組みを再構築し再開した総合事業指定基準緩和通所事業デイサービス A 型については、対象者の外出機会、フレイル予防対応を継続する

2. 職員が専門職としてやりがいを持ち、魅力ある職場づくりを行う

- (ア) 各専門職のラダー評価、目標参画により、職員個々のやりたいこと、実現したいことが達成できる職場環境をつくる
- (イ) 入居者個々のニーズに合ったケアプランを立案・実践・評価を行い、個別ケアの充実を図り、職員のやりがいに繋げる
- (ウ) 職員個々の不安を取り除くための「職員が互いに助け合う仕組み」により、魅力的な職場づくりを継続していく
- (エ) 認知症介護基礎研修受講支援・介護支援専門員資格取得支援・喀痰吸引研修受講支援等により、職員のケアの質向上に努める
- (オ) 介護技術スキルアップ体制の充実やインカム等の ICT 導入、介護機器を用いたサポート体制により業務の標準化と効率化を進め、入居者・利用者に関わる時間を増やす

3. 経営の安定化

(ア) 特別養護老人ホーム

- ① ICT の活用により、待機者の現在の状況を定期的に確認、可視化することで退居後の空床日数を 7 日以内とする
- ② 多職種が連携し、入居者の日々の健康管理を徹底することで、入院者数の軽減を図る

(イ) 短期入所生活介護

- ① 多職種による利用前の自宅訪問により個々のニーズに合ったサービスを提供、また、ICT 等活用により、利用者の増加を図る

- ② 緊急、措置利用の受け入れの際、迅速な調整、支援を行う
- (ウ) ケアハウス
 - ① 退居が必要な方への情報提供等適切な対応を強化する
 - ② 入居者が安心できる生活継続とともに建物設備の有効活用に向けた検討をする
- (エ) 通所介護
 - ① 居宅支援事業所との連携を強化、各地域の特性に合わせた生活支援サービスの提供を図り、安定した稼働を維持する
 - ② 朝食、夕食、栄養補助食品を提供する栄養支援サービスは利用者の低栄養を予防するために継続的に支援し栄養状態を評価する
 - ③ 口腔内のトラブルや口腔衛生が不十分な利用者に対して、口腔機能の維持や保清が行えるように口腔支援に取り組む
 - ④ 介護職個々のスキルアップを図り、医療ニーズのある利用者等中重度者の受け入れ体制を整備する
 - ⑤ 増加傾向にある中重度者のケア継続のため、介護老人保健施設や短期入所事業所とのケア方法等について情報連携を強化する

4. 災害対策・感染症対策の体制確立

- (ア) 協力医療機関と連携強化、感染症予防のための研修の実施、定期的な情報交換を行う
- (イ) 防災及び感染 BCP の研修と訓練を定期的に行い、緊急時の対応体制を整備する

5. 地域における公益的な取り組み

- (ア) 介護福祉士・社会福祉士・看護師・歯科衛生士等の実習生を積極的に受け入れる
- (イ) ボランティアを積極的に受け入れる仕組みを整備し、地域との交流を活性化させる
- (ウ) うらやす健康・元気コンソーシアムに継続参加し、新たな取組みを地域に発信する

【数値指標】

	特 養	短 期	ケア ハウス	高 洲 デイ	猫 実 デイ	総合計
利用者定員	100 名	50 名	50 名	25 名	25 名	250 名
利用者延数	34,916 名	15,315 名	6,694 名	6,089 名	6,494 名	69,508 名
一日平均利用者数	95.6 名	41.9 名	18.3 名	19.8 名	21.2 名	—
稼働率 (%)	95.6%	83.9%	36.6%	79.5%	84.8%	—
稼働日数 (延べ)	365 日	365 日	365 日	306 日	306 日	—
単価 (一人一日当り)	—	—	—	—	—	—
サービス活動収益 (千円)	690,490 千円	296,956 千円	106,030 千円	65,781 千円	73,429 千円	1,232,686 千円
職員数 (常勤換算)	83.0 名	35.8 名	10.5 名	9.2 名	14.6 名	153.1 名

介護老人福祉施設 浦安愛光園

2025 年度は高洲地区相談部門の連携強化と仕組みづくり行い、入居者・家族・待機者の利便性の向上と複合的・複雑化した課題に取り組む。2024 年度に取組みを開始した認知症チームケアは加算取得とともに職員全員の認知症対応力の向上を目標とする。

新たな人材として、特定技能による外国人と特別支援学校の実習受入れを開始し人材確保に努めたい。職員については、主体性を持って多様な人々と協働できる人材とコンプライアンスを遵守する職員を育成し安心・安全なサービスを提供する。

【施設理念】

私たちは、ご利用者の“暮らし”“つながり”“その人らしさ”を大切にします

【経営方針】

1. それまで大切にしてきた“暮らし”が続けられるよう支援します
2. 家族、友人、地域、社会との“つながり”が保てるよう支援します
3. 一人ひとりの意思・人格を尊重し、“その人らしさ”が実現できるよう支援します

【事業・運営計画】

1. 職種毎に専門性を高め安全で質の高いサービスを提供する

(ア) 相談部門

- ① ソーシャルワークを実践し複合的・複雑化した課題に多職種で協働する
- ② 高洲地区での相談員同士の連携強化と仕組みづくりを行う
- ③ ボランティアの受入れを推進し、入居者の QOL 向上を図る

(イ) 看護部門

- ① 協力医療機関との連携を強化し、アドバンス・ケア・プランニングに依っていく
- ② 感染対策の標準化及び職員一人ひとりの手技向上

(ウ) 介護部門

- ① ケアプランの充実と個別ケアの可視化ツールを作成し統一したケアを提供する
- ② 見守りシステムを活用し、転倒・転落事故の予防と具体的な再発防止対策を行う
- ③ 認知症介護実践リーダー研修修了者を中心に、チームで認知症ケアを実践する
- ④ 日々のレクリエーション、非日常のイベントを充実させ入居者の QOL 向上を図る
- ⑤ 職員の介護技術向上やサービスの提供方法が統一できるよう、マニュアルを簡素化・標準化する

2. 多様な人材の確保・育成の継続

- (ア) 理念や基本方針を継承する機会を増やす
- (イ) ユニットリーダー研修およびユニットケア研修の積極的な受講
- (ウ) 特定技能により新たな外国人材の受入れを開始する
- (エ) 特別支援学校の実習生受入れを開始する

- (オ) 高洲地区内での看護役職者の育成
- (カ) 高洲地区でのダイバーシティについて継続する

3. 地域共生社会の実現

- (ア) 障がいを抱えた方が様々な制度を活用しながら自立した生活が送れるよう、地域の機関と連携し、複合・複雑化したニーズに対応する地域包括ケアシステムを推進する
- (イ) 医療ニーズのある方が住み慣れた地域で適切な医療が受けられるよう、同法人の聖隷訪問看護ステーション浦安や浦安ベテルホームショートステイとの連携を強化する
- (ウ) 様々な課題を抱えた世帯のニーズにも対応できるよう、地域の事例検討会や研修会を通じて学びの場を作り、相談支援専門員としての相談援助技術を向上する

4. 経営の改善と業務効率化の継続

- (ア) 入居と空床ショートステイを合わせて稼働率 97.5%以上を維持する
- (イ) HitomeQ コネクトベーシック 100 を導入し家族とのコミュニケーション機能を強化する
- (ウ) 見守りシステム、インカム、介護記録システム、シャワーミスト等の導入した介護テクノロジーの相互作用により効果的で効率的な新たな運用方法を確立する
- (エ) 生産性向上委員会で職員がやりがいをもって働きたいと思える職場環境づくりに取り組む
- (オ) 老朽化した空調設備の更新、修繕を計画的に行う
- (カ) 地域ニーズを把握し新たな事業展開を模索する

5. 防災・防犯体制の強化

- (ア) BCP 業務継続計画に沿った研修と訓練を実施しマニュアルを更新する
- (イ) 災害発生時に実際に職員が行動できるような総合訓練を行う
- (ウ) 防犯対策における必要物品の見直しを行いマニュアルを更新する

6. 地域における公益的な取組みと地域貢献

- (ア) 高洲地区の地域貢献プロジェクトを通して、施設外の清掃活動を継続する
- (イ) 浦安市事業者協議会が主体となって開催する小学校での介護講座を支援する

【数値指標】

	特養（ユニット型）	はぐくみ浦安	総計
利用者定員	74 名	－	－
利用者延べ人数	26,469 名	420 名	－
一日平均利用者数	72.5 名	－	－
稼働率	98.0%	－	－
稼働日数（延べ）	365 日	243 日	－
単価（一人一日当たり）	16,270 円	15,576 円	－
サービス活動収益（千円）	430,620 千円	6,542 千円	437,162 千円
職員数（常勤換算）	51.9 名	1.0 名	52.9 名

介護老人保健施設 浦安ベテルホーム

2024年度は、医療、介護、障がいの3報酬同時改定を受けて、浦安ベテルホームが再出発するためのロードマップを描き、確立させていくための取り組みを試行錯誤した1年であった。

2025年度は、浦安ベテルホームが浦安市内唯一の介護老人保健施設として、今よりもっと積極的に利用される施設とならねばならない。それには、報酬改定によってより鮮明となった「在宅復帰、在宅療養生活支援」施設としての役割を十分に果たし、市内の諸機関や市民に認知される必要がある。全職種、全職員が、そのことに理解を深め、包括的ケアサービス施設として浦安ベテルホームの持つ医療機能、リハビリテーション機能を十分に発揮できるよう、職業人として全力で取り組んでいく。

【施設理念】

私たちは、ご利用者の“暮らし”“つながり”“その人らしさ”を大切にします

【経営方針】

1. それまで大切にしてきた“暮らし”が続けられるよう支援します
2. 家族、友人、地域、社会との“つながり”が保てるよう支援します
3. 一人ひとりの意思・人格を尊重し、“その人らしさ”が実現できるよう支援します

【事業・運営計画】

1. 職員が専門職としての自覚を持ち、その取り組みが評価される組織づくり
 - (ア) 全職種がアセスメント力を向上して、多職種平等の概念の元、協働でケアマネジメントに取り組む
 - (イ) 介護生産性向上委員会を中心に「介護DX」を更に推し進め、職員の負担軽減と業務の効率化を進めることで、更なる利用者への直接ケアの質の向上に取り組む
 - (ウ) 組織の要となる中堅職員層の施設間交流を進め、各々が自ら職場の課題に気づき、主体的に解決に取り組めるように促す
 - (エ) 全職種が、職種別ラダーを適正に運用し、職業人として自らの専門性を高められるように、目標を定め確実に取り組む
2. 浦安市内及びその近隣地域での認知度を高め、利用されることで経営を安定化
 - (ア) 通所介護と住み分けし、「卒業できる」通所リハビリテーションの運営を目指し、十分に効果を利用者に還元できる適正規模での事業展開が周知されるよう地域に働きかける
 - (イ) 地域包括支援センターと積極的に協働し、地域住民と関わる機会を増やすことで、顕在化していない市内の高齢者ニーズを掘り起こし利用につなげる
 - (ウ) 周辺病院とのパイプをより太くできるように積極的に連携し、医療機関から対象となりうる市内外の利用者を恒常的に受け入れる
 - (エ) 多職種連携による認知症リハビリテーションのチームアプローチを実践し、より効果的に認知症利用者の在宅復帰、在宅療養生活支援に取り組む
 - (オ) 在宅療養生活支援の視点で、利用者、家族、ケアマネージャー、通所リハビリテーショ

ン、訪問リハビリテーション、短期入所療養介護、訪問看護サービスと一元的に連携できる仕組みを作り運用する

3. 防災・防犯体制の強化

- (ア) 南海トラフ地震の発災を意識し、地域連携を含んだ研修や訓練等により、浦安地区 BCP に沿った防災・防犯・風水害対応を実施することで、災害時にも職員、利用者を守る施設運営体制を確立させる
- (イ) 近隣医療機関との積極的な関係づくりを進め、浦安地区 BCP に沿った感染対応を実施することで、地域での感染症まん延時にも施設内に感染を拡大させない

4. 地域における公益的な取組と開かれた施設づくりの推進

- (ア) 地域貢献委員会を軸に、地域が求めるボランティア活動へ参画、次世代育成のための教育機関との積極的な交流を進める
- (イ) 施設の持っているリハビリテーション機能を、地域住民に知ってもらい活用される機会を増やすために、行政や関係機関、自治会、民生委員等と定期的に関われるように職員が、地域に積極的に向かい合う

5. 社会福祉施設の役割遂行

- (ア) 生活保護受給者の受け入れ、無料又は低額老人保健施設事業を積極的に地域に広め、事業基準（10％）を満たした運営を行う

【数値指標】

	入所	短期入所	通所リハビリ	総計
利 用 定 員	100 名		45 名	145 名
利 用 者 延 べ 数	30,331 名	2,007 名	11,734 名	44,072 名
一日平均利用者数	83.1 名	5.5 名	38.1 名	126.7 名
稼 動 率	88.6%		84.6%	—
稼動日数(延べ)	365 日		308 日	—
単価(1 人 1 日当り)	16,344 円	22,107 円	11,996 円	50,447 円
サービス活動収益(千円)	578,124 千円		141,208 千円	719,332 千円
職員数(常勤換算)	66.0		20.1	80.1

聖隷訪問看護ステーション浦安

2024 年度は、事業所の転居に伴う事務所賃料の増額があり、運営と経営の安定が課題であった。転居後も東京海上 BLS の居宅・訪問介護事業所との連携が継続し、協働して地域住民のその人らしい生活を支援できている、収支も黒字経営を維持することができた。今後もさらに進む浦安市の高齢化率に対応できるように、収支バランスを取りながら運営と経営を安定させ地域貢献していきたい。

【施設理念】

ご利用者の一人ひとりの自己決定を大切にし、その人の選ぶ医療と生活を質の高いケアで支援する

【事業・運営計画】

1. 理念に基づき、地域が必要としているニーズに柔軟に対応できる訪問看護の継続
 - (ア) 利用者主体の自己決定支援を行い、アドバンス・ケア・プランニングに沿った訪問看護ケアを充実させる
 - (イ) 週 1 回のカンファレンスを通して実施した訪問看護の評価を繰り返し、ケアの質向上につなげる
 - (ウ) 東京海上日動 BLS と 3 ヶ月に 1 回の連携会議で情報交換しながら協働し、法人の枠を越えた地域を支援する体制を推進していく
2. 新入職員の人材育成をしながら聖隷訪問看護ステーション浦安の運営と経営が維持できる
 - (ア) 浦安市の地域ニーズを知り、病院・クリニック・居宅支援事業所との連携を深めていく
 - ① 毎月、各事業所に受け入れ空き情報を送り、往訪等により営業活動で顔の見える連携を継続する
 - ② 浦安市訪問看護ステーション連絡協議会で市内の訪問看護の情報交換をしていく
 - (イ) 利用者の確保を目指し、選ばれる訪問看護を模索する
 - ① 人員換算訪問件数 72 件以上目標を維持する
 - ② 取得できる加算を取り、より高い訪問単価を維持することで経営を安定させる
 - (ウ) 職員一人ひとりが教育プログラムに沿った OJT を受け、訪問看護の質を確保する
3. 職員がやりがいを持つことができ、働きやすい職場をつくる
 - (ア) ICT の推進で記録等の省力化を図り、効率の良い業務改善を行うことで、超勤時間を短縮できワークライフバランスにつなげる
 - (イ) 目標参画システム・職種別ラダーを通して、各職員の得意分野の学びを深め、職場の勉強会で共有していく
 - (ウ) 業務改善と有給休暇取得率を上げ、働きやすい職場を維持することで離職率の低下を目指す

- ① 有給休暇取得日数を正職員、年間 12 日を目指す
- ② 超過勤務時間正職員、月間 20 時間以下を目指す

4. 地域における公益的取組

- (ア) 次世代を担う看護大学の実習生を受け入れ、地域で働く訪問看護師の役割を伝えていく
- (イ) 地域で取り組む連携会議や研修会に出席し、浦安市の地域医療と包括ケアシステムにつながる貢献ができるように参画していく

【数値指標】

	平均 利用者数	訪問件数 (月間)	訪問件数 (年間)	単価	サービス 活動収益	職員数 (換算)
訪問看護 ST 浦安	95 人	606 件	7,272 件	9,780 円	71,118 千円	7.8 人

浦安市高洲地域包括支援センター

浦安市は千葉県内で最も高齢化率が低く、さらに当センターが担当する地区は高齢化率 14% 台と市内でも若い地域である。一方で築 30 年を超えるマンション群では 30% を超えており担当地区内での格差や、マンションが多いことで今後の高齢者数が急増する見込みとなっていることが特徴である。

高齢者が自身の人生を自ら選択・決定できるよう情報発信を重ね、さらに地域で暮らし続けるために地域の住民や事業所、関係機関とのネットワークを強化し地域包括ケアシステムの深化を進めていく。

【事業・運営計画】

1. 地域における機能と役割の強化

- (ア) 地域で高齢者を見守る体制強化と、多様な相談に適切に対応できるよう、高齢分野に留まらず他分野とも連携し、多世代との関わりの機会を検討する
- (イ) 総合相談やケア会議などから地域ニーズを把握し、介護情報、認知症、ACP 等出前講座を行っていく
- (ウ) 2025 年 4 月に地域包括支援センター日の出支所開設予定であり、身近な相談機関として地域住民をはじめ各関係機関へ周知するとともに、介護者向けイベントなども企画する

2. 職員の資質向上のための取り組み

- (ア) 相談支援スキルラダーの活用と研修参加により、各職員の能力の向上を目指す
- (イ) 各職種が学んだ知識や技術について伝達研修を実施し、センター全体のスキルアップにつなげる

3. 職員のやりがいと働きやすい職場づくり

- (ア) 困難事例についてはセンター全体で共有、検討し、支援内容に合わせて複数で対応する
- (イ) 専門領域の知識を必要とするケースに備え、勉強会開催を検討する
- (ウ) 業務分掌を明確化し、職員同士が互いにサポートできる体制をつくり、遅延なく業務遂行し超過勤務の削減に取り組む

【数値指標】

市受託収入	予防支援等	内再委託件数	予防マネジメント単価	総収入	職員数 (常勤換算)
42,150 千円	予防支援 1,122 件	138 件	4,800 円	8,432 千円	7.7 名
	マネ A 630 件	36 件	4,800 円		

介護老人福祉施設 松戸愛光園

特別養護老人ホーム松戸愛光園

松戸愛光園ショートステイ

松戸愛光園デイサービス

松戸愛光園ケアプランセンター

障害者相談支援事業所 聖隷はぐくみ松戸

2024 年度松戸愛光園では、新たにインカムを導入し職員間のタイムリーな情報共有が可能となるとともに、ノーリフトケア推進のための移乗用リフトやマッスルスーツ導入を行い利用者の安全な移乗と職員の腰痛予防に取り組むことができた。

2025 年度は導入した ICT 機器のデーターを活用し、利用者一人ひとりに合わせた個別ケアの充実を図り、先進的な取り組みを深化させていく。人材育成については事業の垣根を越えて活躍できるよう研修などを行っていく。

地域に暮らす高齢者、障がい者一人ひとりのために、利用者主体の事業運営を進めていく。

【施設理念】

『一人ひとりの生命と尊厳を守り、利用者主体の自立生活支援を追求する。』

【経営方針】

1. あなたらしい生活の継続
2. あなたと共に歩んできた方々と一緒に
3. あなたを思いやる気持ちを忘れない
4. あなたらしい最期の支援
5. 地域の皆さんと共に

【事業・運営計画】

1. ICT 技術を活用した個別ケアの充実を進め、地域で選ばれるサービス提供を行う
 - (ア) ICT 技術によるデーター活用を進め、エビデンスに基づいた個別ケアを行う
 - (イ) 入所の空床活用を継続し、タイムリーに短期入所の受け入れを行う
 - (ウ) 多職種による口腔ケアを実施し、利用者の口腔衛生向上を図る
 - (エ) ACP については多職種で研修を進め、施設での看取りを充実させる
 - (オ) 通所事業では、個別ニーズを充実できるメニューの提供機会を増やす
 - (カ) 居宅介護支援事業と相談支援事業では、施設内サービス事業と連携し地域ニーズに合わせた相談支援を行う
 - (キ) 浦安、松戸地区内で防災訓練や感染 BCP に基づく職員の交換研修等を実施し千葉地域での事業継続力向上を図る

2. 職員が安心して長く働ける職場づくり

- (ア) 事業の垣根を超えた働き方を継続するとともに、施設内外での職員交換研修を行い、広い視野を持った人材育成を進める
- (イ) ノーリフトケアを継続し、職員の腰痛予防を進める
- (ウ) インカムの活用を介護職以外や通所介護にも広げ、業務省力化を進める
- (エ) あらたな EPA 介護福祉士候補生を受け入れる
- (オ) 各学校の介護実習等を積極的に受け入れ、新入職員の採用に繋げる

3. 経年劣化した設備等の更新による安全性向上と安定した事業運営

- (ア) 事業活動に影響が無いように施設修繕を進める
- (イ) 老朽化した設備や機器の更新を計画的に実施する
- (ウ) 古くなった送迎車両を更新し、省エネルギー化を進める

4. 社会貢献活動の実施

- (ア) 松戸ニッセイエデンの園と合同で、地域清掃活動を行う
- (イ) 地域の二次福祉避難所として、松戸市と共同で防災訓練を実施する

【数値指標】

入所・短期入所・通所関係事業

	特養入居	短期入所		通所介護		
		介護保険	障害	介護	総合	障害
利用者定員	103 名	21 名		34 名		
利用者 延べ数	36,155 名	7,125 名	382 名	6,342 名	1,503 名	602 名
一日平均 利用者数	99.1 名	19.5 名	1.0 名	20.7 名	4.9 名	2.0 名
稼働率 (%)	96.2%	98.0%		81.0%		
稼働日数 (延べ)	365 日	365 日		307 日		
単価 (一人一日 当り)	15,683 円	15,371 円	11,099 円	8,411 円	29,034 円/月	8,027 円
サービス 活動収益 (千円)	567,001 千円	113,758 千円		77,346 千円		
職員数 (常勤換算)	74.8 名	13.1 名		13.6 名		

居宅介護支援事業

年間請求件数		平均単価 (円)		訪問調査 年間件数	訪問調査 単価 (円)	サービス 活動収益 (千円)	職員数 (常勤換 算)
介護	予防	介護	予防				
2,302 件	360 件	17,461 円	4,733 円	40 件	4,400 円	42,075 千円	5.2 人

障がい者（児）相談支援事業

年間請求件数	平均単価 (円)	サービス 活動収益 (千円)	職員数 (常勤換算)
245 件	14,637 円	3,586 千円	1.0 人

横須賀愛光園

特別養護老人ホーム横須賀愛光園 横須賀愛光園デイサービスセンター
西第二地域包括支援センター 聖隷ヘルパーステーション横須賀
聖隷訪問看護ステーション横須賀 聖隷ケアプランセンター横須賀
聖隷看護小規模多機能横須賀

2024 年度は利用者や家族、地域の方々に求められる質の向上に重点を置き、各事業における業務改革や職員教育の強化等の取り組みを開始した。看護小規模多機能の稼働も軌道に乗りつつあり、利用者の状況に応じた複合支援が、拠点としてより厚みを増したと実感できた。

2025 年度、横須賀愛光園は、各事業におけるサービスの質、ケアの質を着実に向上していくために、役職者を中心とした推進力・指導力・スキルの再学習とメンタルヘルスケアに取り組む。そして獲得した推進力やスキルを活かして、職員一人ひとりの力を最大限に発揮しサービスの質の向上と更なる業務効率化を図っていく。

【施設理念】 『安心して、明るく楽しく生きる』

【経営方針】

1. 地域ニーズに合わせて連携し、切れ目のない障がい者も含めた地域福祉を展開する
2. 互いに補い合って、安全でやりがいのある職場風土の醸成
3. 職員一人ひとりの資質向上と多様な人材が活躍できる体制の整備
4. 決められた時間で良質なサービス提供

【事業・運営計画】

1. サービスの質の向上と業務効率化の更なる推進
 - (ア) 役職者に対するリスクリング（DX、リスクマネジメント、ノーリフトケア、レクリエーション、問題解決）とメンタルヘルスケアの計画的実施
 - (イ) 送迎配車システムの活用による拠点内送迎の効率化と運転手等管理体制の再編を行う
 - (ウ) 看護小規模多機能と特別養護老人ホームの運営連携を促進する
 - (エ) 全事業において接遇・応対について取り組みを継続し、気持ちの良い施設作りを行う
2. 職員一人ひとりの資質向上と人材の確保
 - (ア) 役職者を中心とした指導力の向上を図り、各現場における育成体制や確認体制を強化する
 - (イ) 介護支援専門員、相談系職種の育成や確保に向けた取り組みを行う
 - (ウ) 役職者や相談系職種の属人化した業務の整理と役割分担の実施
 - (エ) 交通事故予防に係る取り組みを強化し、接触自損事故等交通事故減少を図る
 - (オ) 腰痛予防対策、感染予防策の徹底に係る取り組みの継続
3. 地域における公益的な取り組み
 - (ア) 拠点としての地域貢献活動について検討し、スタッフも継続参加できる活動の実施

(イ) 地域ボランティアセンター運営への参加を継続する

4. 利用者一人ひとりに合わせた質の高いサービスの提供と経営の安定化

(ア) 横須賀愛光園、短期入所事業

- ① レクリエーション活動や個別活動など入居者の生活の充実を図るため、業務効率化を継続する
- ② 指導力の向上や各介護技術についての再学習、LIFE フィードバックの活用を行い質の高いサービス提供を行う
- ③ リスクマネジメントシステムの見直しと徹底を図り、転倒転落事故の減少に努める

(イ) 横須賀愛光園デイサービスセンター

- ① 提供サービス、日課の再検討と職員教育を行い、稼働率の向上を図る
- ② 障がい者日中活動サービス（生産活動）の試行と共生型生活介護枠での提供の実施

(ウ) 西第二地域包括支援センター

- ① 地域における意見交換の場等の活動の更なる推進と地域資源情報の可視化に取り組む
- ② 各職種業務について標準化、マニュアル化に取り組み属人化の解消と効率化を図る

(エ) 聖隷ヘルパーステーション横須賀

- ① サービス提供責任者の業務について改善点を抽出し、業務効率化を促進する
- ② 魅力作りや育成フォローを継続し、登録ヘルパーの採用求人力の向上・質の向上を図る

(オ) 聖隷訪問看護ステーション横須賀

- ① 看護小規模多機能との連動体制（介護職との情報共有、業務分担）の確立
- ② 同行訪問や精神科訪問看護対応の共有などの取組みを行い、質の向上を図る

(カ) 聖隷ケアプランセンター横須賀

- ① アセスメント、計画作成や記録に係るマニュアルの見直しと効率化を図る
- ② 加算取得状況の共有と算定に係る確認体制を整備し、取りこぼしをなくす

(キ) 聖隷看護小規模多機能横須賀

- ① フル稼働での運営の確立・実施と提供サービス（日中の余暇活動）の充実に取り組む
- ② 送迎に係る業務について拠点としての効率化に取り組み、時間内で送迎が完結できる
- ③ 地域への周知や介護老人保健施設等への営業活動などに取り組み、稼働の安定化を図る

【数値指標】

	横須賀愛光園		短期入所	デイサービス	地域包括 支援センター
	従来型	ユニット型			
利 用 者 定 員	65 名	40 名	15 名	30 名	—
利 用 延 数	23,104 名	14,235 名	4,672 名	7,480 名	—
一日平均利用者数	63.3 名	39.0 名	12.8 名	24.3 名	—
稼 動 率 (%)	97.4%	97.5%	85.3%	81.2%	—
稼 動 延 日 数	365 日	365 日	365 日	307 日	—
平 均 介 護 度	3.90	3.94	2.9	1.9	—
単価 (1 人 1 日)	12,800 円	15,700 円	12,500 円	10,000 円	—
サービス活動収益	295,979 千円	223,552 千円	58,745 千円	79,024 千円	50,424 千円
職員数(正・エ A)	28.9 人	19.0 人	5.2 人	4.2 人	5.3 人
職員数(パ・ア)	7.9 人	9.6 人	1.8 人	5.6 人	1.3 人

	聖隷ヘルパーステーション横須賀				聖隷訪問看護ステーション横須賀	
	介護給付	総合事業	自立支援	有償等	介護給付	医療給付
月 平均利用者数	55 名	15 名	22 名	—	103 名	40 名
月 平均訪問件数	600 件	60 件	175 件	—	604 件	273 件
利 用 延 時 間 数	6,240 時間	600 時間	2,640 時間	48 時間	—	—
稼 動 延 日 数	261 日				248 日	
単 価	5,100 円 /時間	4,300 円 /時間	4,900 円 /時間	—	10,000 円 /件	11,400 円 /件
サービス活動収益	47,352 千円				111,372 千円	
職員数(正・エ A)	4.0 人				8.0 人	
職員数(パ・ア)	0.9 人				4.4 人	

聖隷ケアプランセンター横須賀								
年間請求件数		平均単価(円)		訪問調査 年間件数	訪問調査 単価(円)	サービス 活動収益	職員数	
介護	予防	介護	予防				正職員 エ A	パ・ア
1,772 件	132 件	17,500 円	4,500 円	24 件	4,800 円	32,198 千円	3.0 人	2.0 人

聖隷看護小規模多機能横須賀							
登録定員	平均登録者 数/月	平均通い者 数/日	平均宿泊者 数/日	単価 1 人/月	サービス 活動収益	職員数	
						正職員 エ A	パ・ア
25 名	20.0 名	11.5 名	3.0 名	370,000 円	88,800 千円	10.0 人	2.4 人

在宅・福祉関西ブロック

地域で必要とされる聖隷であり続けるために、地域ニーズを掴み、新たな事業・取り組みを進め、既存・新規それぞれの業務が、相互に繋がっていることを意識し、その結果として利用者に質の高いサービスを提供できる組織体制を目指す。また、在宅・福祉事業だけでなく、同じ地域で事業展開している他事業部とも積極的に連携をはかり、互いの事業理解を深めることで、より地域に根差した福祉事業の展開を進めていく。

人件費や事業経費の上昇はいかんともしがたいため、これまで取り組んできた ICT 化や介護ロボット等の導入検証を行い、食事や清掃といった委託業務も含めて業務見直しを推し進めていく。

【2025 年度目標】

地域に必要なサービスを捉え、提供体制を整える

【2025 年度重点目標】

1. 業務の ICT 化をさらに進め、サービスの質の向上、職員のモチベーション向上へ繋げる
2. 地域福祉の成長に貢献する
3. 地域が必要とするサービス提供の実現に向けて取り組む
4. 職員がやりがいを持って働きたいと思う職場環境、職場風土を醸成する
5. 地域課題に対し、老築化した建物・設備も踏まえた将来計画を構想する

【宝塚第 1 エリア】

関西ブロックにおいて、相談事業と高齢者施設での共生サービスであった障がい者事業において、初めての就労支援事業所を開設する。宝塚市と協働による高齢者生きがい就労で進めてきた非介護業務を中心に、まずは聖隷内事業所への雇用を目標とする。訪問介護事業は、ケアハウス花屋敷へのサービス提供のほか、定期巡回・随時対応型を開設し、身体介護中心への移行による経営改善を図る。

- ① 宝塚せいのの里内に就労支援事業所の新規開設
- ② 訪問介護事業の経営改善

【宝塚第 2 エリア】

福祉施設・在宅事業・障がい者分野での複合的課題に対し、総合力をいかして多角的に地域福祉に貢献する。宝塚第 6 地区西地域の中山台地区においては、整備した拠点を活用し、宝塚第 1 エリア事業所と協働し、在宅サービスの展開を進めていく。また花屋敷せいのの里においては、2026 年度新規事業開設と合わせて花屋敷栄光園の大規模修繕工事を実施し、安心して暮らせる施設運営に取り組む。

- ① 中山台地区への事業展開
- ② 北神戸エリア（訪問看護、居宅介護支援）の事業強化

【淡路エリア】

聖隷 DX の検証及び聖隷淡路病院との医療福祉連携の具体化を図り、オール聖隷として地域に根差した事業活動を展開する。施設・在宅サービス事業においては、在宅医療・介護の充実、看取り・口腔ケア・リハビリテーション・認知症・高医療・重度者への対応を強化する。保育事業における療育への準備にも協力・支援をしていく。生産性向上ガイドラインに基づいた業務改善と機器・設備更新を推進し、サービスの質の向上と生産性の向上の両立を図る。

- ① 聖隷淡路病院と連携したサービス提供体制、人事交換体制の整備
- ② 淡路市の人口動向を見据えた、事業展開の構想

【保育宝塚淡路エリア】

宝塚市、淡路市共に少子化は大きな課題であり、数年先を見越した運営を考える必要がある。エリアの聖隷施設と情報共有をしながら、子ども・障がい児の事業を考えていけるように連携を図っていく。また、職員が異動、応援を通して各園の良いところに目を向け、それを活かせる人材の育成を心がけ、4園が安定した保育を行っていくことを目指す。子ども園夢舞台においては、一般保育の充実、子育て支援と並行し、2026年度の療育事業開設を目指す。職員採用の対応として、早期に就職フェアや学校訪問、若手職員と学生の交流会等を計画し人事部関西採用センターと協力しながら進めていく。

- ① 子ども園夢舞台での児童発達支援事業開設に向けた行政との協議
- ② 児童館運営の在り方と障がい者受け入れについて行政との協議
- ③ 逆瀬川あゆみ保育園の事業存続、テナント契約の協議

宝塚せいれいの里

特別養護老人ホーム宝塚すみれ栄光園

宝塚すみれ栄光園デイサービスセンター

聖隷ケアプランセンターすみれ

宝塚市高齢者・障害（がい）者権利擁護支援センター

聖隷チャレンジ工房すみれ

2024年度は4月に宝塚すみれ栄光園、10月に宝塚すみれ栄光園デイサービスセンター・聖隷ケアプランセンターすみれが開設10周年を迎えた。記念イベントでは入居者と共にお祝いをし、この10年間に多くの方々にご利用いただいたことに感謝するとともに、次の10年に繋がる企画を進めた。

2025年4月1日には宝塚せいれいの里内に障害者就労支援事業所「聖隷チャレンジ工房すみれ」を開設する。介護現場の周辺業務に特化した訓練を行い、宝塚市内で一般就労を可能にする事業所を目指す。また、これまで高齢者領域の事業を中心に展開してきた宝塚エリアにおいて、対応できる福祉領域の拡張に繋がる事業であり、新たなネットワークを構築し、宝塚せいれいの里が様々な方の交流を図れる地域の拠点となるように取り組んでいく。

特別養護老人ホームの待機者確保の厳しさは増す一方である。その中で、併設の在宅サービスを選ばれ続けるサービスとして高めていくこと、在宅サービスと施設の連携の質を高めていくことに取り組み、待機者確保と安定した稼働維持に繋げる。

【施設理念】

一人ひとりの想いを真心と愛で結ぶ。

【経営方針】

1. 思いやりの心、敬いの心をもって一人ひとりと“心でつながる関係”を大切にします。
2. “馴染みの関係”の中で一人ひとりの想いや個性を尊重した生活を支援します。
3. できる力に目を向け、“創造性のある真心をもったケア”で支援します。
4. ご家族や地域との“結びつき”を大切にします。
5. “挑戦する心”を持ち、人として成長するために常に研鑽します。

【事業・運営計画】

1. 「安心・安全と穏やかに過ごせる」質の高いサービスの提供
 - (ア) アセスメント力を高め専門的見地で根拠を持った支援を実践する
 - (イ) 体調変化の早期発見と関係職種との連携により状態悪化の抑制に努める
 - (ウ) ACPの考え方を共有し、在宅から施設へ繋ぐ意識の醸成と日々のケアの質を高める
 - (エ) 利用希望者や地域の多様なニーズに柔軟に応えられる体制を構築する
2. 施設や事業機能を活かした繋がりあるサービスの提供
 - (ア) 聖隷として宝塚全域を支えられるよう、事業の規模と展開エリアを再構築する

- (イ) 在宅サービスが利用者ニーズを共有し、繋がりを持ってサービスを提供する
- (ウ) 権利擁護に対する意識を強化し、個人の尊厳や権利を大切にしたい支援を行う
- (エ) 多様な働き方を柔軟に受け入れ、既存の職員も含めた働きやすい体制を構築する

3. 専門職として実践できる人材育成と活躍できる環境づくり

- (ア) リーダーや係長を中心としたマネジメントが、職員の「やりたい」を引き出せる
- (イ) 職種や階層、経験に応じた育成スキームと体制を構築する
- (ウ) 専門研修の受講や資格取得を促進し、効果的な職場配置を行う
- (エ) インカムの活用により、職員間・職種間のコミュニケーションの活性化を図る

4. 運営安定化の推進

- (ア) 施設の効率的運用を図り、水光熱費の低減を進める
- (イ) 長期的施設運営のための設備修繕と更新を計画的に実施する
- (ウ) 給食提供体制の見直しに伴い、契約の適正化と提供内容の充実を図る
- (エ) 関西ブロック運営管理室と宝塚せいの里運営管理課の役割と配置を構築する

5. 地域における公益的な取組

- (ア) 地域住民に対し施設を開放することで、新たなネットワークの構築に繋げる
- (イ) 地域コミュニティなどに参画し、防災・防犯活動などを継続的に行う
- (ウ) 施設周辺の環境活動へ地域住民と共に取り組む

【数値指標】

	特養入所	短期入所	通所介護	聖隷チャレンジ工房すみれ	
	ユニット	ユニット	一般	就労支援B型	移行支援
利用者定員	100名	20名	30名	14名	6名
利用者・請求延べ数	35,405名	7,081名	7,414名	1,730名	753名
一日平均利用者数	97名	19.4名	24.1名	7.0名	3.1名
稼働率	97.0%	97.0%	80.0%	50.0%	50.0%
稼働日数(延べ)	365日	365日	308日	247日	247日
単価(一人一日)	17,961円	16,004円	12,097円	9,607円	12,529円
サービス活動収益(千円)	635,910千円	113,321千円	89,685千円	16,620千円	9,434千円
職員数(常勤換算)	80.9名	13.2名	15.9名	2.9名	2.2名
	居宅介護支援		権利擁護 支援センター	合計	
	介護	予防			
年間請求件数	2,958件	204件			
平均単価(円)	17,930円	4,447円			
サービス活動収益(千円)	53,875千円		23,126千円	941,971千円	
職員数(常勤換算)	9.0名		4.4名	128.4名	

宝塚せいのりの里

介護付きケアハウス ケアハウス宝塚

2024年4月1日にケアハウス宝塚は開設10周年を迎えた。10月には10周年記念イベントを開催し入居者と共にお祝いすることができた。

ケアハウス宝塚は特定施設入所者生活介護の介護保険施設として、特養に比べ幅広い介護度の入居者を受け入れている。入居しても自宅で送っていた生活を意識し、買い物、外出、趣味活動などが続けられるよう、身心機能の維持・向上を図りながらその人らしい生活を営むことができる施設作りに取り組んでいく。

入居者が満足する生活・サービスのためにも、職員は法人理念・施設理念に基づいたケアを実践しなければならない。職員全員が「利用者のために」という同じ考え、同じ想いで取り組むことが、ケアの質向上、職員の成長そして組織の目標達成に繋がっていく。職員が主体的に考え発信でき、かつフロアや職種を問わず職員同士のコミュニケーションを密にすることで、入居者個々の希望・ニーズを共通認識してケアを実践できるように取り組んでいく。

近隣に競合施設の開設もあり、待機登録者の増加には至っていない。行事だけでなく、日々のアクティビティやレクリエーション、入居者の暮らしぶりを発信することにも力を入れていく。

【施設理念】

一人ひとりの想いを真心と愛で結ぶ。

【経営方針】

1. 思いやりの心、敬いの心をもって一人ひとりと“心でつながる関係”を大切にします。
2. “馴染みの関係”の中で一人ひとりの想いや個性を尊重した生活を支援します。
3. できる力に目を向け、“創造性のある真心をもったケア”で支援します。
4. ご家族や地域との“結びつき”を大切にします。
5. “挑戦する心”を持ち、人として成長するために常に研鑽します。

【事業・運営計画】

1. 入居者がより「自分らしさ」を実現できる支援の提供
 - (ア) ACPの考え方を共有し、皆で考え、ケアプランや日々のケアに反映させる
 - (イ) 楽しく参加できるリハビリテーションの充実を図る
 - (ウ) 社会参加や季節を感じられるイベントを提供する
 - (エ) 入居者同士の交流も意図したレクリエーションを実施する
2. 専門職として実践できる人材育成と活躍できる環境づくり
 - (ア) 入居者の意向を聴き取る力、変化に気づく力とそれをケアに反映させる力を強化する

- (イ) 職種や階層、経験に応じた育成スキームと体制を再構築する
- (ウ) 次世代の育成を共通認識し、マネジャー・プリセプターを中心とした対話を増やす
- (エ) インカムの活用により、職員間・職種間のコミュニケーションの活性化を図る
- (オ) 職員個々が自身の強みを生かすことができ、やりがいや達成感を感じられる環境を作る

3. 運営安定化の推進

- (ア) 施設の効率的運用を図り、水光熱費の低減を進める
- (イ) 長期的施設運営のための設備修繕と更新を計画的に実施する
- (ウ) 給食提供体制の見直しに伴い、契約の適正化と提供内容の充実を図る
- (エ) 施設の特長を外部へ打ち出し、安定した待機登録者数を確保する

4. 地域における公益的な取組

- (ア) 地域住民に対し施設を開放することで、新たなネットワークの構築に繋げる
- (イ) 地域コミュニティなどに参画し、防災・防犯活動などを継続的に行う
- (ウ) 施設周辺の環境活動へ地域住民と共に取り組む

【数値指標】

	介護付きケアハウス
利 用 者 定 員	70 名
利 用 者 延 べ 数	24,784 名
一 日 平 均 利 用 者 数	67.9 名
稼 動 率	97.0 %
稼 動 日 数 (延 べ)	365 日
単 価 (一 人 一 日 当 り)	14,923 円
サ ー ビ ス 活 動 収 益 (千 円)	369,855 千円
職 員 数 (常 勤 換 算)	42.8 名

宝塚せいのりの里

介護付有料老人ホーム 結いホーム宝塚

2024 年度は宝塚市内に、競合する老人ホームの新規開設が続き、待機者確保はもちろん新規入居契約も厳しい状況が続いた。開設 10 年を越えた結いホーム宝塚を選んで貰うためには、結いホーム宝塚の特徴やこだわりといった、アピールポイントをしっかりと広報していく必要がある。季節感や時に特別感が感じられる食事の提供、大浴場を有し快適かつ安全な入浴の環境、園内での余暇活動や様々な外出企画といった、結いホーム宝塚の良さを効果的に伝える営業力、SNS の発信力向上に取り組み、幅広い入居者層を確保し稼働の向上に努める。

関西ブロックの中でも早い段階で ICT 機器や介護ロボット導入に取り組んでおり、職員はその変化を体感しているが、目的は業務効率化だけではなく、それに伴うケアの質向上である。導入の検証を行い、質向上に必要な機器整備を推し進めていく。また、2022 年後半からの介護職員の大きな欠員は脱したものの、勤務年数の浅い職員が多いことから、一体感が感じられる職場環境、プリセプター制度による共に育つ人材育成を行い、職員のやりがいと働きやすさ両面を意識した運営を行う。

人件費・運営費は増加し、設備面では想定よりも早い段階で故障が発生しており、安定した運営を続けるためにも、収入・支出のバランスを常に考えた運営を目指していく。

【施設理念】

一人ひとりの想いを真心と愛で結ぶ。

【経営方針】

1. 思いやりの心、敬いの心をもって一人ひとりと“心でつながる関係”を大切にします。
2. “馴染みの関係”の中で一人ひとりの想いや個性を尊重した生活を支援します。
3. できる力に目を向け、“創造性のある真心をもったケア”で支援します。
4. ご家族や地域との“結びつき”を大切にします。
5. “挑戦する心”を持ち、人として成長するために常に研鑽します。

【事業・運営計画】

1. 入居者・家族の期待に応えるサービスの提供
 - (ア) 入居者・家族にとって心地よい接遇を行う
 - (イ) 食事提供体制を再構築する
 - (ウ) 入浴サービスの快適性と安全性を向上する
 - (エ) 家族・地域にも楽しんでもらえるイベントを開催する
 - (オ) 入居者の希望を取り入れたレクリエーションや外出を企画する
 - (カ) ACP の考え方を共有し、ケアプランや日々のケアにも反映させる
 - (キ) ICT 機器導入で生んだ時間を可視化し意図的に活用する

2. 職員一人ひとりを大切にできる職場環境・職員育成の推進

- (ア) 職員がワークエンゲージメントの向上を実感できる
- (イ) フロアを跨いだ応援・勤務体制をより一層強化する
- (ウ) 生活施設における各職種の在り方を再考し、職種間の連携を構築する
- (エ) 職種や階層、経験に応じた育成スキームと体制を構築する
- (オ) 係長やリーダーを中心としたマネジメント強化を図り、次世代を育成する
- (カ) 眠り SCAN データの分析力を養い、科学的に状態把握・ケアを検討する力を付ける

3. 安定した施設運営

- (ア) 有償利用や体験利用も視野に入れた新入居調整を行い、予算稼働率を維持する
- (イ) 施設入居の検討者に有益な情報を発信し、申込者を確保する
- (ウ) 結いホーム宝塚の魅力を伝える SNS 発信力を向上する
- (エ) 職員採用を意識した情報発信や実習生受け入れ等を行う
- (オ) 経年劣化を見越した計画的な修繕を実施する

4. 地域に信頼される施設運営と公益的な取り組み

- (ア) まちづくり協議会活動やサロン活動において協働・側面的支援を行う
- (イ) 介護者や地域のニーズを把握しながら、宝塚せいの里介護技術講座を展開する
- (ウ) 宝塚市社会福祉法人連絡協議会や第 4 地区地域生活支援会議にて具体的なセーフティネット形成に参画する

5. 環境活動への取り組み

- (ア) 水光熱の効率的運用を図り、使用量の前年比減に取り組む
- (イ) 施設周辺の環境活動に地域住民と共に取り組む

【数値指標】

	介護付き有料老人ホーム
利 用 者 定 員	100 名
利 用 者 延 べ 人 数	35,040 名
一 日 平 均 利 用 者 数	96.0 名
稼 働 率	96.0%
稼 働 日 数 (延 べ)	365 日
単 価 (一 人 一 日 当 り)	17,915 円
サ ー ビ ス 活 動 収 益 (千 円)	627,739 千円
職 員 数 (常 勤 換 算)	62.7 名

介護老人福祉施設 宝塚栄光園

特別養護老人ホーム宝塚栄光園、短期入所生活介護

2025 年度は宝塚市内で最も歴史のある特別養護老人ホームとして開設 46 年目を迎える。特別養護老人ホームは、地域の方にとって『最後のとき』を安心してむかえたい」という希望を叶えるための「介護における『最後の砦』」である。宝塚栄光園はそのため存在し、職員は利用者にサービスを提供している。2025 年度も利用者の想いに寄り添い、QOL の維持・向上、利用者へのサービスの質を確保していく。そのためにも介護ロボットや ICT 機器のデータ活用を積極的に行い、業務の効率化を確実なものとする。また、地域へ赴き、多様なニーズへの対応を行える人材育成を行い、これからも地域で必要とされる福祉施設であると同時に、地域の方々が自立した生活を継続できるよう発信、関りをもっていきたい。

【施設理念】

『自分にしてもらいたいと望むとおり、人にもそのようにしなさい。』

【経営方針】

宝塚栄光園の従事者は、各事業における個々の利用者の障がい、疾患、要介護状態に応じて可能な限り、最期までその人らしい生活が実現できるように、常に利用者の立場に立ったケアサービスを総合的に提供していく。

【事業・運営計画】

1. 利用者のために

- (ア) 導入している ICT 機器の活用及びデータの活用を行い、利用者へ安心・安楽・安全な質の高いケアの提供を行う。また常に新しい ICT 機器等の情報を収集し導入を検討する
- (イ) 利用者同士や家族、地域とのコミュニケーション、心身機能の維持向上、QOL の向上のために、レクレーションの充実を図る
- (ウ) 利用者・家族・職員等相互のコミュニケーションを図り、利用者の自己決定を支援する
- (エ) 職員・医療機関との連携により、体調変化にも安心して過ごせる体制づくりを行う

2. 職員のために

- (ア) ICT 機器を活用した客観的データ収集や福祉用具を積極的に取り入れることで、勤務体制の見直し、ノーリフティングケアの推進により、職員の心身の負担の軽減を図る
- (イ) アサーションスキルをもって、色々な意見を尊重し、多様性を認め、なおかつ自分の意見をしっかり発信できる職場風土をつくる
- (ウ) 他事業所の活動を知り、宝塚市での宝塚栄光園の存在価値、役割を明確にする。また職員自身がキャリアプランを描く事ができ、聖隷でいきいきと働き続けることができる

3. 施設を守る

- (ア) 入居・短期入所のベッドコントロールを図り、稼働率を維持することで経営を安定させる
- (イ) 利用者・職員が心地よい環境で過ごせるよう施設内の改修を行う
- (ウ) 物価高騰による影響に対し、職員一人一人がコスト意識をもち行動する

4. 地域における公益的な取組み

- (ア) 地域の方々が安心して住み慣れた地域で過ごせるように、地域包括ケアシステムの中での施設の役割を地域の方々に伝える場を地域包括支援センターと協力して設定する
- (イ) 自治会活動に積極的に向き、地域との関わりを深める

【数値指標】※特養・短期とも従来型のみ。(個室 21 室、2 人室 3 室、4 人室 15 室)

	介護老人福祉施設	短期入所生活介護	合計
利用者定員	70 人	17 人	87 人
利用者延べ人数	24,637 人	6,022 人	30,660 人
一日平均利用者数	67.5 人	16.5 人	84 人
稼働率	96.4%	97.1%	96.6%
稼働日数(延べ)	365 日	365 日	365 日
単価(一人一日当り)	14,078 円	13,479 円	13,960 円
サービス活動収益(千円)	346,838 円	81,174 円	428,012 円
職員数(常勤換算)	43.5 人	10.4 人	53.9 人

聖隷ケアセンター宝塚

宝塚第二地区中州在宅複合事業（社会福祉事業）

聖隷ヘルパーステーション宝塚、聖隷逆瀬川デイサービスセンター、聖隷巡回ヘルパーぐるり宝塚

【事業・運営計画】

1. 「年を重ねても住み慣れた街に住み続けたい」その人の想いをかなえるために
 - (ア) 重度利用者、障害がある利用者、喀痰吸引が必要な利用者、看取りケアが必要な利用者など、様々な利用者の想いに寄り添ったケアを実践していく
 - (イ) 活動と参加に目を向け、利用者同士の繋がりを大切にしたプログラムの実践を行っていく
 - (ウ) 宝塚第二地区のデイサービス間での連携を強化し、在宅事業所とも連携を図りながら二地区の利用者を支えていく
 - (エ) 各業務において ICT の活用を行い、働きやすさ・サービスの質の向上を行う
 - (オ) デイサービス利用者への機能訓練に ICT を活用し、利用者にとって目標やモチベーションにつながるリハビリを実施するとともに、リラクゼーションの空間を作り、サービスの質向上につなげる
2. これからも「宝塚市」でサービス継続可能な体制づくり
 - (ア) 各事業所の職員がやりがいをもってチャレンジできる環境を整える
 - (イ) BCP に沿ってケアセンター宝塚の総合力で、どんな災害でも地域を守っていく
 - (ウ) 定期巡回・随時対応型訪問介護看護サービス展開を予定し、新たな地域ニーズに応えられる体制を構築する
3. 多職種連携をより進め、利用者がこの地域で安心して生活できるよう、職員の育成を行う
 - (ア) 各専門職が、他事業所へ根拠やアセスメントをもって情報を発信する
 - (イ) 各職員の目標に沿った人材育成・人事交流を行う
4. 地域で必要とされる聖隷であるために、地域における公益的な取り組み
 - (ア) 2022 年度より実施している地域サロン「あい会いサロン」を継続しつつ、地区内の拠点において新たに認知症カフェを立ち上げ、地域における介護の相談窓口「困ったときに頼れる聖隷」としての認知度を上げて、その役割を担っていく
 - (イ) 法人内で連携し、新たな拠点を「中山聖隷つながり広場」として活用し、中山地区に聖隷を根付かせる取り組みを実施する
 - (ウ) 専門職と地域住民のネットワークづくりを行い、地域での包括的な支援体制の構築を目指す

【数値指標】

訪問介護事業（聖隷ヘルパーステーション宝塚）

介護給付			総合事業		単価(円)		サービス 活動収益 (千円)	職員数 (常勤換算)
平均利 用者数	月間訪 問件数	年間訪 問件数	月間 利用者	年間 利用者	介護 (回)	予防 (月)		
50.7 人	1,272 件	15,264 件	34.8 人	1,360 人	4,050 円	17,300 円	81,813 円	14 名

通所介護事業（聖隷逆瀬川デイサービスセンター）

介護給付			総合事業		単価(円)		サービス 活動収益 (千円)	職員数 (常勤換算)
平均利 用者数	月間利 用者数	年間利 用者数	月間 利用者	年間 利用者	介護 (回)	総合 (月)		
28.8 人	740 人	8,885 人	96 人	262 人	10,080 円	37,278 円	99,390 円	17.9 名

定期巡回型訪問介護事業（聖隷巡回ヘルパーぐるり宝塚）

介護給付			単価(円)	サービス 活動収益 (千円)	職員数 (常勤換算)
平均利 用者数	月間訪 問件数	年間訪 問件数	介護 (回)		
9 人	387 件	2,320 件	5,370 円	12,460 円	2.6 名

宝塚第二地区中州在宅複合事業（公益事業）

聖隷訪問看護ステーション宝塚、聖隷ケアプランセンター宝塚、逆瀬川地域包括支援センター

【事業・運営計画】

1. その人が望む「在宅で最期まで過ごせる」が実現できる地域包括ケアシステムの構築
 - (ア) 施設を含め、地区内の看護職・医療技術職・介護職・相談職が連携し、医療ニーズの高い利用者・看取り期の利用者を在宅で支援できる体制を強化する。日々進化する在宅医療に対応できる人材の育成を推進する
 - (イ) 各職種の強みを生かし、地域包括支援センターを中心に地域住民とのつながりの中で、ACP（アドバンス・ケア・プランニング）の啓発を継続して行う。また、法人内の施設に対しても、ケアセンター宝塚が中心となり、宝塚市全体で ACP を実践できる働きかけを実施する
2. 職員同士で支え合い成長していける環境、長く働き続けられる職場作りと次世代の管理者候補の育成
 - (ア) 法人内事業所の連携強化を行い、職員同士がフィードバックし合える関係性を構築する
 - (イ) 役職を担える職員を地区で共有し、育成を目的とした人事交流を行う
 - (ウ) 業務の効率化を図り、超過勤務削減の推進
3. 資源の効率的活用と生産性の向上
 - (ア) ICT を活用して、サービス提供表実績のやり取りの効率を上げる。また事業所間の記録の電子化を行う
 - (イ) ケアプランセンター宝塚において、業務手順・支援経過記録の標準化を行うと共に、電子署名などタブレット機器を使つての記録や業務の効率化を図ることで、ニーズの増大に対応できる環境を目指す
4. 地域で必要とされる聖隷であるために、地域における公益的な取組み
 - (ア) 2022 年度より実施している地域サロン「あい会いサロン」を継続しつつ、地区内の拠点において新たに地域まるごとカフェ（認知症・障がいを含む誰でも立ち寄れる居場所）を立ち上げ、地域における介護の相談窓口「困ったときに頼れる聖隷」としての認知度を上げ、その役割を担っていく
 - (イ) 専門職と地域住民のネットワークづくりを行い、地域での包括的な支援体制の構築を目指す

【数値指標】

訪問看護事業（聖隷訪問看護ステーション宝塚）

	平均利用者数	月訪問件数	年訪問件数	単価(円)	サービス活動 収益(千円)	職員数 (常勤換算)
医療	72 人	585 件	7,020 件	10,400 円	161,231 円	23.7 名
介護	117 人	693 件	8,320 件	9,600 円		
予防	20 人	69 件	832 件	8,000 円		

居宅介護支援事業（聖隷ケアプランセンター宝塚）

年間請求件数		平均単価(円)		訪問調査 年間件数	訪問調査 単価(円)	サービス活動 収益(千円)	職員数 (常勤換算)
介護	予防	介護	予防				
3,872 件	201 件	19,800 円	4,200 円	2,730 件	4,950 円	90,952 円	16.7 名

地域包括支援センター事業（逆瀬川地域包括支援センター）

年間請求件数		平均単価(円)		サービス活動 収益(千円)	職員数 (常勤換算)
予防	予防（委託）	予防	委託（委託）		
3,205 件	2,640 件	4,839 円	619 円	90,278 円	17.1 名

宝塚第二地区在宅複合事業

聖隷逆瀬台デイサービスセンター

聖隷デイサービスセンターあゆむ

2025 年度宝塚第二地区在宅複合事業は、地域の利用者層に重度の利用者が減少している変化が起きている中、重度の利用者だけではなく、利用者の幅広いニーズに対応出来るよう、これまで取り組んでいない短時間サービスの実施することで、サービスの幅を広げ、地域の期待に応えていく。また、定員稼働率 65%以上を維持し、安定運営を目指す。

【経営方針】

1. 利用者が在宅生活を継続できるよう、利用者の立場に立ったケアを提供する
2. 多職種と連携を行い、利用者に最適なサービスを提供する
3. 利用者、職員がともに心豊かな生活を実現できる事業所作りに努める
4. 専門性を高める施設内教育・研修会を積極的に実践する
5. 地域に信頼される事業所として、地域貢献活動に積極的に取り組む

[事業・運営計画]

1. 利用者が在宅生活を継続できるよう、最高の質のサービスを提供する
 - (ア) 利用者・家族が安心できる、安全な介護サービスを提供する
 - ① 中重度・医療依存度の高い利用者であっても受け入れることのできる体制の継続
 - ② 利用者・職員ともにケアに安全性を高める介護機器を検討し、導入する
 - ③ 職員への介護技術の OJT・OFF-JT 機会を創出し、人材育成に努める
 - (イ) 関係機関とのシームレスな情報共有で医療ニーズへ対応する
 - ① ICT の活用を深め、在宅医師を含む関係機関とのタイムリーな連携を行う
2. 認知症利用者が介護者と共に、自宅で穏やかに生活が続けられるように支援する
 - (ア) 利用者それぞれが穏やかな時間を過ごせる個別ケアを提供する
 - ① 利用者個々の周辺症状に対応するために、生活歴を紐解いた個別の関わりを深める
 - ② 作業療法士と協働し、行動変化や日常生活における認知症の影響を評価する
 - (イ) 介護者が自宅介護のモチベーションを保てるように関わる
 - ① 介護負担尺度評価により、介護者自身の身体的・精神的健康を可視化する
 - ② 事業所と利用者家族が関係構築できる場「運営推進会議」「家族懇談会」を定期的に設ける
3. 地域における公益な取り組み
 - (ア) 逆瀬台地域の高齢単身者・高齢世帯への見守り活動に協力する(助け愛デリ、ナイトサロン)
 - (イ) 施設の地域開放を進め、地域活動の活性化を図る(クラブ活動、いき 100 体操等)

【数値目標】通所介護事業（聖隷逆瀬台デイサービスセンター）

介護給付			予防給付		単価(円)		サービス 活動収益 (千円)	職員数 (常勤換算)
平均利 用者数	月間利 用者数	年間利 用者数	月間 利用者	年間 利用者	介護 (月)	予防 (月)		
24.5 人	631 人	7,575 人	10.6 人	127 人	14,150 円	31,712 円	119,448 千円	22.5 名

【数値目標】地域密着型サービス認知症対応型通所介護事業（聖隷デイサービスセンターあゆむ）

介護給付			予防給付		単価(円)		サービス 活動収益 (千円)	職員数 (常勤換算)
平均利 用者数	月間利 用者数	年間利 用者数	月間 利用者	年間 利用者	介護 (月)	予防 (月)		
7.1 人	183 人	2,191 人	0 人	0 人	17,896 円	0 円	39,213 千円	6.4 名

聖隷デイサービスセンター結い

地域との交流を増やし、地域ニーズを理解し、サービスに結びつく、地域に根付く活動が求められている。2025 年度は、地域密着型通所介護事業として、宝塚市第 2 地区の利用者を受け入れしていくための人材確保と、送迎に関する業務委託を視野に新たな事業形態を見出し、事業の推進を行う。「最後まで自宅で暮らしたい」という想いに、介護サービスの最初の受け皿となるデイサービスとして、機能訓練を主軸とした介護サービスを提供する。

働きやすい職場として、次年度も ICT を積極的に導入し、職員の働きやすさに繋げるほか、業務の効率化により「より丁寧利用者へ寄り添うケア」を目標に質の向上を目指す。

【施設理念】

愛をもって人と地域に寄り添う

【経営方針】

1. 利用者が住み慣れた町、自宅で生活を続けられる「自分でやりたい！」を支援する
2. 地域貢献を積極的に行い繋がり「絆」を大切にする

【事業・運営計画】

1. 自立支援につながる質の高い機能訓練の提供
 - (ア) 「活動」「参加」の促進や継続ができる機能訓練の提供
 - (イ) 介護予防として嚥下の運動と口腔機能向上加算（Ⅱ）の取得
 - (ウ) モニタリングのフィードバックや運動メニューの可視化による理解の向上
 - (エ) ACP の共有を行い気付きの場の提供
 - (オ) 他機関と連携・協同し、医療から継続性のある機能訓練の提供
2. 専門職の質の向上
 - (ア) 相談員の専門性を高める研修会を実施する
 - (イ) 交換研修など、体感をテーマに介護のケアに繋がる気付きの場を作る
 - (ウ) 所長・相談員が、法人外の職員と意見交換ができる場をつくる
 - (エ) 個別機能訓練の質の向上を目的として、利用者、家族に可視化した実施メニューを考案・提供できるシステムの導入を目指す

3. 地域における公益的取り組み

(ア) 施設設備を開放し、地域住民が機能訓練を体験できる場をつくる

(イ) 地域活動に参加し場所・人員の提供等に協力する

【数値指標】

介護給付			予防給付		単価		サービス 活動収益 (千円)	職員数 (常勤 換算)
平均利 用者数	月間利 用件数	年間 利用者数	月間 利用者	年間 利用者	介護 (日)	予防 (月)		
18.4 人	470.7 件	5,648.1 件	72.3 人	867.7 人	6,600 円	31,600 円	65,129 円	10.7 名

聖隷コミュニティケアセンター宝塚店

2025 年度は施設理念に立ち返り、聖隷福祉事業団の他事業所等との連携の強みを活かして「利用者の納得と安心」が得られるような事業運営を目指す。そのために比較的利用契約者数が多い逆瀬川、花屋敷の2地区の事業所との連携を大切にし、運営方法を見直すことで、業務の効率化を図り、利用者からの要望にタイムリーに応えることのできる体制を構築する。

【施設理念】

地域の方のいのちと尊厳を守る為、福祉用具の専門性をもってサポートを行う

【経営方針】

1. 専門職との連携に努め、聖隷福祉事業団の強みを活かす
2. 活動地域の選択と集中、運営方法の見直しによるコストパフォーマンスの向上
3. 新規開設の障がい者就労支援事業所との連携の提案
4. 地域における公益的取り組み

【事業・運営計画】

1. 専門職との連携に努め、聖隷福祉事業団の強みを活かす
 - (ア) 福祉用具貸与を事業の軸に置き、付帯して住環境を整えるよう住宅改修工事や福祉用具販売を行う。「利用者の納得と安心を得る」ことを目的に多職種連携に努める
 - (イ) 支援困難ケースではサービス担当者会議の要請に応えるなど連携を意識した取り組みをする
2. 活動地域の選択と集中、運営方法の見直しによるコストパフォーマンスの向上
 - (ア) 逆瀬川、花屋敷の地域包括支援センターや居宅介護支援事業所との連携を大切にする
 - (イ) 職員同士が協同して業務遂行できる運営体制を作る
3. 新規開設の障がい者就労支援事業所との連携の提案
 - (ア) レンタル卸業者へ協力を要請し、新たな福祉用具の消毒作業を提案する
4. 地域における公益的取り組み
 - (ア) 地域住民向けのイベントに参加し、福祉用具の無料相談会を開催する

【数値指標】

年 間 貸与件数	年 間 貸与収益	年 間 販売収益	年 間 住宅改修収益	サービス 活動収益	職員数 (常勤換算)
9,049 件	99,538 千円	64,700 千円	14,000 千円	178,238 千円	10.9 人

花屋敷せいのりの里

特別養護老人ホーム花屋敷栄光園
花屋敷デイサービスセンター
聖隷訪問看護ステーション山本
花屋敷地域包括支援センター
聖隷ケアプランセンター花屋敷
障害者相談支援事業所聖隷はぐくみ花屋敷
宝塚市障害者相談支援事業所聖隷はぐくみ花屋敷

2025年度は、人件費・物価高騰の中いかに安定した経営が継続できるかを求められる。そのためには ICT 機器を活用し、必要などころに人材を集中しスマートな運営を目指す。また新たな価値観を見出すサービスを追求し、職員にとってもやりがいと魅力ある職場につなげる。

2024年4月に設立25周年を迎えた花屋敷栄光園は、入居者・家族・地域・職員その他多くの方に支えられ、在宅事業含め地域福祉に対して多角的な貢献を行った。2025年度はそれぞれの価値観の多様化が加速する中で、花屋敷せいのりの里の総合力を発揮し地域福祉に大きく貢献し続ける1年とする。

【施設理念】

互いに愛し合いなさい

【経営方針】

1. サービス機能を活かした繋がりある支援体制の構築と充実
2. 「安心して暮らせる」質の高いサービスを提供する
3. 専門職としての成長と活躍できる環境づくり
4. 運営安定化の推進
5. 地域における公益的な取り組み

【事業・運営計画】

1. 「安心して暮らせる」サービス機能を生かした繋がりある支援と定着
 - (ア) 地域ニーズの把握に努め、必要なサービスを創造する
 - (イ) 短期入所生活介護は緊急や医療ニーズの高い利用者の積極的な受入れを継続する
 - (ウ) 中山台地区の拠点を活用し、聖隷の総合力で地域福祉に貢献する
2. 「安心して暮らせる」質の高いサービスを提供する
 - (ア) ACP の考え方を共有し、入居・ショートステイでの看取り対応を実践する
 - (イ) 多職種連携により、体調変化の早期発見と迅速な対応により状態悪化を抑制する
 - (ウ) ノーリフトケアに取り組み、安心・安全の定着を図る
 - (エ) 入居と在宅事業が連携し最高の質のサービスを提供する
3. 専門職としての成長と活躍できる環境づくり

- (ア) 目標参画や各種ラダーに基づいたキャリア支援を行い、モチベーションの向上を図る
- (イ) 他法人と意見交換会等の場を開催し、役職者の知見を広げ育成を図る
- (ウ) ICT を活用し労働環境の更なる向上を目指し、引き続き職員の定着を図る

4. 運営安定化の推進

- (ア) 長期的施設運営のための設備修繕と更新を計画的に実施する
- (イ) BCP(事業継続計画)を見直し職員間で共通理解を深め、より実践的に訓練する
- (ウ) 職員の健康管理等を引き続き実施し、健全な経営を継続する

5. 地域における公益的な取組み

- (ア) 近隣の小・中学校等を対象に講演や福祉体験等を通し、福祉に対する理解促進に努める
- (イ) 継続した地域コミュニティへの参画と地域とともに防犯・防災活動に取り組む

【数値指標】 高齢者入居・短期入所・通所関係事業・相談支援事業

		特養入所 ユニット型		短期入所 ユニット型空床型		通所介護				
						通常		予防		
利 用 者 定 員		108 名		12 名		35 名				
利 用 延 数		38,349 名		4,240 名		7,500 名		927 名		
一日平均利用者数		105.1 名		11.6 名		24.3 名		3 名		
稼 動 率 (%)		97.3%		96.8%		77.9%				
稼 動 延 日 数		365 日		365 日		309 日				
平 均 介 護 度		4.0		3.0		2.0				
単 価 (一 人 一 日)		15,800 円		16,762 円		55,970 円				
サｰビス活動収益(千円)		606,392 千円		71,072 千円		95,178 千円				
職 員 数 (常 勤 換 算)		70.5 名		9.7 名		11.7 名				
		地域包括支援事業 (花屋敷地域包括支援センター)		障害者相談支援事業 (聖隷はぐくみ花屋敷)		障害児相談支援事業 (聖隷はぐくみ花屋敷)		宝塚市相談支援事業 (聖隷はぐくみ花屋敷)		
宝塚市受託収入(千円)		37,886 千円		—		—		14,915 千円		
年 間 請 求 件 数		予防ﾌﾟﾗﾝ 請求件数	2,340 件	620 件		503 件		—		
		予防ﾌﾟﾗﾝ 委託件数	360 件							
平 均 単 価		予防ﾌﾟﾗﾝ 単価(円)	4,840 円	19,350 円		21,420 円		—		
サｰビス活動収益(千円)		64,274 千円		14,083 千円		10,772 千円		13,559 千円		
職 員 数 (常 勤 換 算)		11.3 名		5.8 名						
	聖隷訪問看護ステーション						聖隷ケアプランセンター			
	平均 利用者数	月訪問 件数	年訪問 件数	単価(円)	サービス 活動収益 (千円)	職員数 (常勤換 算)	年訪問 件数	単価(円)	サービス 活動収益 (千円)	職員数 (常勤換算)
医療	53 人	373 件	4,479 件	10,800 円	128,018 千円	16.9 名	—	—	—	—
介護	114 人	569 件	6,829 件	9,600 円			3,822 件	19,000 円	7,334 千円	10.1 名
予防	36 人	109 件	1,307 件	9,300 円			204 件	3,900 円		

花屋敷せいのりの里

ケアハウス花屋敷

2024年度に必要なサービスが増えていく入居者に対して、安心して暮らして頂くために聖隷ヘルパーステーション宝塚との連携システムを構築した。必要なサービスは介護保険で対応し、それ以外を有償サービスで幅広く支えていく。

2025年度も継続的に入居待機者を確保し、安定した健康経営を維持するとともに、「安心・安全なケアハウス花屋敷」を目指し、身体機能が変化する中で様々なニーズにも対応できるよう、支援する形を調整しながら花屋敷せいのりの里全体で支えていく。

【施設理念】

高齢者や障害者を含むすべての人々が、自立し、尊厳をもって暮らせる地域社会の実現を目指します。

【経営方針】

1. いのちと尊厳を守ります。
2. よりよいサービスを提供します。
3. 地域社会と共に歩みます。

【事業・運営計画】

1. 自立した生活が困難となった時に希望される方が最期まで花屋敷せいのりの里内で過ごせるように、ケアハウス花屋敷での対応を強化し花屋敷栄光園、在宅事業との連携強化を図る
 - (ア) 状態が変わる入居者への対応力の強化を図る
 - ①1年に1回以上の入居者モニタリングを行い、サービス必要性の有無を確認するとともに、人生の最終段階にどのように過ごしたいか意思の確認を行っていく
 - ②受診介助など外出援助について積極的に関わっていく
 - (イ) 職員の対応力を向上するため、年間で計画した研修に職員が参加し、スタッフ全員で共有する
 - ①ACP、BLSは定例研修として1年に1回開催する
 - ②コミュニケーションスキル、介護保険制度の研修を実施する
 - (ウ) 入居者の状態が変化し、回復が望めない場合の継続支援会議を定着させ、ケアハウス花屋敷で対応できる支援の幅を広げる
 - ①ケアハウス職員だけでなく多職種の参加を促し、会議を実施していく
 - ②会議の中から、必要なサービスを模索していく
 - (エ) 家族との連携を強化するため、定期的に家族へ情報を発信するシステムを構築する
 - ①入居者自身の考えや思いを定期的に確認するとともに、日常の様子や言動から入居者個々の考え方・希望を把握し、記録しておく。担当者会議などで家族も含めて皆が本人

の思いを共有できる場を持つなど、具体的に活動していく

2. 生活の中で楽しむこと、心地よく過ごせる環境を入居者のアイデアや入居者との協働により創っていく

(ア) 各居室の LED 化を進めていくとともに、今後の入居者の IT 環境を整えるために無料 wi-fi を施設内に設置していく

(イ) レクリエーションの充実をはかり、楽しみを持っていただくとともに入居者間のコミュニケーションを促進する

①1 年に 1 回以上の長時間外出レクリエーションを開催する

②1 週間に 1 回、朝の散歩を定期開催し、運動習慣を作っていく

(ウ) 入居者が社会に貢献できるようボランティア活動ができる仕組みを作る

①入居者企画のレクリエーションを開催する

②定期に開催している喫茶を地域に向けて開放する

3. 人材確保と定着を図るための職場環境改善をはかる

(ア) 職員のやりがいにつながるよう一人一人が企画したレクリエーションなどを実施していく

(イ) ケアハウス花屋敷の認知度をあげるために、花屋敷せいの里内外で地域に向けたイベントを開催し施設の周知を図る

4. 地域における公益的な取組み

(ア) 近隣の小・中学校等を対象に講演や福祉体験等を通し、福祉に対する理解促進に努める

(イ) 継続した地域コミュニティへの参画と地域とともに防犯・防災活動に取り組む

【数値指標】

利用者定員	100 人
利用者延べ数	36, 135 人
稼働率 (%)	99%
単価 (一人一日)	4, 418 円
サービス活動収益 (千円)	162, 073 千円
職員数(介護:常勤換算)	5.5 人
(相談員:常勤換算)	1.0 人
(管理栄養士:常勤換算)	0 人
(宿直員:人数)	4.0 人

北神戸地区在宅複合事業

聖隷訪問看護ステーション北神戸
聖隷ケアプランセンター北神戸

【事業・運営計画】

1. 専門性を強化し利用者のニーズに応じた質の高いサービスを提供する

(ア) 対応できる人材を育成し利用者が望む在宅生活を支援する

- ① 小児病棟、小児訪問看護研修に参加し医療依存度の高い小児看護の対応力向上を図る
- ② 心不全療養者の再発重症化予防、精神訪問看護、血液悪性疾患の病態看護理解を深める
研修に参加し適切な全身管理、精神的支援の知識を深め、さらなるケアの質向上を目指す
- ③ アドバンスケアプランニング（ACP）に取り組み、意思決定を支援し、暮らしたい場所で
生き抜くことを支援する
- ④ 聖隷訪問看護ステーション北神戸、聖隷ケアプランセンター北神戸の合同研修、合同カ
ンファレンスを実施し連携支援体制の強化を図る

2. 各機関との連携を強化し、地域ニーズの解決に取り組む

- (ア) ICT を活用し在宅医師を含む関係機関と連携し、タイムリーな情報共有を図り適切な対応
ができる
- (イ) 退院時や発症直後の早期介入、密な多職種連携で要介護状態の改善や悪化予防に取り組む

3. 地域における公益的な取組

- (ア) 神戸市北区認知症初期集中支援チーム員として派遣し初期対応に取り組み、その後の支援
についても自施設での訪問看護利用移行につなげる
- (イ) 神戸市委託事業介護予防講座の講師として派遣し地域住民の運動、社会参加に協働する
- (ウ) 神戸市看護大学生実習の受け入れ、及び神戸市看護大学臨床教授、臨床講師を務める

【数値指標】

訪問看護事業（聖隷訪問看護ステーション北神戸）

年間件数		平均単価		サービス 活動収益	職員数 (常勤換算)
医療	介護・予防	医療	介護・予防		
6,404 件	5,461 件	9,978 円	9,137 円	113,814 千円	16.3 人

居宅介護支援事業（聖隷ケアプランセンター北神戸）

年間請求件数		平均単価		サービス 活動収益	職員数 (常勤換算)
介護	予防	介護	予防		
1,551 件	492 件	17,201 円	3,297 円	28,302 千円	4.8 人

介護老人福祉施設 聖隷カーネーションホーム

特別養護老人ホーム聖隷カーネーションホーム

聖隷カーネーションホームデイサービスセンター

聖隷カーネーションホームデイサービスセンターうっこ

聖隷在宅介護支援センター淡路

2025年度の聖隷カーネーションホームは、厳しい社会情勢が続き、介護人材確保が困難な中でも ICT 機器の活用とノーリフトケアの推進により、安定した質の高いサービスを提供できる職場改革を目指す。北淡路エリアでの医療と福祉の連携強化と地域交流活動の充実に取り組み、利用者満足・職員満足・地域満足を高めていく。また、理念に基づくケアの提供が実践できる組織作り・人材育成を継続して利用者も職員も「ここに来てよかった」と感じられる施設風土を育んでいきたい。こうした取り組みを通じ、淡路北部における総合福祉拠点としての役割を利用者に「安心と楽しみのある暮らし」を、職員に「働きやすい職場環境とやりがいのある仕事」を提供し、利用者と職員の双方の幸福を実現できる、魅力ある福祉施設を目指していく。

【施設理念】

人と地域と未来のために『ともに咲き続ける』ことのできる事業所となる

～『ともに咲き続ける』ために私たちは、～

1. ご利用者、ご家族のみならず地域に信頼され続けるサービスを提供します
2. 現在だけではなく、過去を活かし未来を見据えたサービスを提供します
3. 私たちだからこそできる専門的で先駆的な質の高いサービスを提供します

【経営方針】

1. 利用者満足の向上のために、より安心・安全で質の高いサービスを追求する
2. 職員の働き甲斐や資質の向上のために、多様な人材の発掘・育成と、職員が成長・活躍できる環境づくりを促進する
3. 安定経営を継続していくために、サービス品質の改善と生産性向上の両立を推進する
4. 安心して暮らせる地域づくりに貢献するために、公益的な取り組みの継続と新たなニーズの開拓に取り組む

【事業・運営計画】

1. より安心・安全で質の高いサービスの追求
 - (ア) 利用者や家族の意向を踏まえ、安心して楽しみのあるサービスを提供するとともに、障害・高医療・重度認知症など困難ケースの受け入れにも積極的に取り組む
 - (イ) 安全・安心・安楽な生活環境を構築するために、ミスト浴やリフト等の機器導入を計画的に進めていく
 - (ウ) 利用者の QOL 向上のため、地域に向けた施設内行事の実施と地域行事への参加を企画し、社会性維持、地域交流の充実を図る

2. 多様な人材の発掘・育成と、職員が成長・活躍できる環境づくりの促進

- (ア) 理念や事業計画と連動した目標管理に取り組み、各職場や職員一人一人の目標達成を支援するとともに、次世代リーダー候補者の発掘・抜擢・育成を行う
- (イ) 職員の安全確保及び身体的負荷軽減のために、ノーリフトケアの推進と機器更新に向けた検討と継続し、より長く働きやすい介護環境を整備する
- (ウ) 地域での福祉人材発掘と雇用を促進するため、職員紹介制度の活用、医療福祉系学校への訪問を行い継続的な人材確保ができるスキームを確立する

3. サービス品質向上と生産性向上の両立による経営改善

- (ア) エリア内施設での給食業者を統一することで安定した食事提供と物価高騰の影響を最小限に止め、食事サービスの品質維持と提供ラインの生産性向上の両立を図る
- (イ) 適切な加算管理・稼働率管理と聖隷淡路病院も含む合理的な人員配置を随時行い、より多くの利用者に対して付加価値の高いサービスを提供し、経営の安定化を図る
- (ウ) 災害・感染症・事故の影響を最小限に抑え安心して生活できるよう、BCPに基づく訓練を計画的に実施し、リスク管理体制の強化を継続する

4. 公益的な取り組みの継続と新たなニーズの開拓

- (ア) 在宅介護支援センター淡路を中心に「淡路市高齢者住宅安心確保事業」の実施を継続し、地域における潜在的な福祉ニーズを発掘する
- (イ) 東浦地区における福祉避難所としての役割を意識し、防災・防犯を含む地域活動・交流を計画的に実施し、近隣地域との繋がりを深めていく
- (ウ) 淡路地域全体の福祉の向上のため、施設間での相互支援、聖隷淡路病院との医療・福祉間連携、行政機関・他法人施設との連絡・連携を強化する

【数値指標】

	特養入所	短期入所	通所介護		
	従来型	従来型	一般型	総合事業	認知症対応型
利用者定員	54 名	18 名	30 名		12 名
利用者延べ人数	19, 178 名	6, 393 名	6, 065 名	720 名	2, 827 名
一日平均利用者数	52. 5 名	17. 5 名	23. 6 名	2. 8 名	9. 1 名
稼動率（％）	97. 3％	97. 3％	88. 0％		76％
稼動日数（延べ）	365 日	365 日	257 日		310 日
平均介護度	3. 9	3. 2	2. 2		2. 9
単価（1 人 1 日当り）	12, 887 円	11, 933 円	10, 459 円	5, 801 円	11, 863 円
サービス活動収益（千円）	247, 164 千円	76, 290 千円	67, 607 千円		33, 538 千円
職員数（常勤換算）	33. 8 名	7. 5 名	10. 3 名		3. 2 名
	聖隷在宅介護支援センター淡路				
サービス活動収益（千円）	5, 254 千円				
職員数（常勤換算）	0. 9 名				

淡路栄光園

特別養護老人ホーム淡路栄光園
淡路栄光園デイサービスセンター

2025年度の淡路栄光園は「生活の質向上」に重点をおき、利用者が安心して快適に暮らせる生活支援を実践に注力する。そのためにもテクノロジーの活用、地域連携、職員のスキル向上といった要素を強化し、利用者の満足度と職員の働きやすさを高めるための取り組みを進めていく。

近年ニーズが高まっている看取り・高医療・重度認知症など社会の変化に対応しながら、地域に根ざした福祉サービスを提供し、本計画の達成に向け邁進していく。

【施設理念】

「家族の心とまなざしでむかえる」

【経営方針】

1. 愛情と思いやりのあるサービスの実践
2. 地域の方々に信頼され、喜ばれ、選ばれるサービスの実践
3. 利用者の尊厳を守り、その人らしく安心して生活できるサービスの実践

【事業・運営計画】

1. 利用者、家族の期待に応えるサービスの提供
 - (ア) 利用者・家族意向に寄り添い、健康と安全をまもるケアを実践する
 - (イ) 医療機関と連携し、医療的ケアを必要とされている利用者の受け入れを拡大する
 - (ウ) 利用者の生活の質を高められるよう、介護・看護の専門スキルを向上させる
 - (エ) 日々の活動に加え、入居者が社会参加できるよう余暇活動を充実させる
2. 働きやすい職場環境の構築
 - (ア) 職員研修を計画的に実施し、OJTやOFF-JT、視察研修で効果的な人材育成を図る
 - (イ) 介護負担の軽減につながる介護機器導入案を策定する
 - (ウ) 夜勤業務をはじめとする慣例的業務を見直し、業務効率化をはかる
 - (エ) 老朽化した設備の修繕を計画的に実施し、快適な生活環境を提供する
3. 生産性向上につながるICT機器の活用
 - (ア) 導入済みICT機器の効果検証を実施する
 - (イ) 利用者・家族への書類送付方法を見直し、電子交付開始案を策定する
 - (ウ) 利用者のバイタルサインを機器で検知し、タイムリーな看取り介護を実践する
 - (エ) 入所申込みのインターネット受付の利便性を広報し、インターネット申込み件数を増やす

4. 住み慣れた地域での暮らしを支えられる在宅サービスの提供

- (ア) 通所介護と短期入所の連携を強化し、包括的なサービス提供を実践する
- (イ) 「介護サービスを利用しても地元に戻ることができる」利用者が地域活動に参加できるよう図る
- (ウ) 地域行事、サロン等の活動参加を通じ、地域の方々と顔の見える関係性を構築する
- (エ) 地域防災の意識が向上するように、防災訓練を実践する

5. 地域における公益的な取り組み

- (ア) 兵庫県認定地域サポート施設として、岩屋地域の高齢者見守り活動を実施する
- (イ) 地域ケア会議、民生委員協議会の参加を通じ、地域課題解決に向け関係機関と協働する
- (ウ) デイサービス営業時間内に移動販売を誘致し、買い物を通じて社会参加を支援する

【数値指標】

	特養入所	短期入所	地域密着型通所介護	
	従来型		一般	総合事業
利用者定員	60 名	19 名	18 名	
利用者延べ数	21,352 人	6,796 人	3,810 人	430 人
一日平均利用者数	58.5 人	18.6 人	12.3 人	1.4 人
稼働率	97.5%	98.0%	76.0%	
稼働日数（延べ）	365 日	365 日	310 日	
単価（一人一日当り）	12,514 円	11,944 円	9,922 円	5,793 円
サービス活動収益	267,203 千円	81,176 千円	40,297 千円	
職員数（常勤換算）	38.0 人	7.1 人	6.1 人	

聖隷ケアセンター津名

聖隷訪問看護ステーション淡路

聖隷ケアプランセンター淡路

聖隷ヘルパーステーション淡路

聖隷ライフサポート津名

2025年度聖隷ケアセンター津名は、センター内事業所間の連携力を強化することで各経営の安定化に努める。また各職種が専門性を伸ばすことでサービスの充実を図り利用者に信頼され、選ばれる事業所となるようにしたい。そしてこれまでの淡路エリア内の組織力を活かした医療福祉連携の更なる充実を図ることで利用者の安心に繋げ、その人らしい生活ができるようにする。

【施設理念】

聖隷ケアセンター津名の全事業所および全職員は利用者様の「その人らしい暮らし」が継続できるよう、お一人おひとりの価値観や意向に寄り添いながら、専門職チームでプロのケアを提供する。

【事業計画】

1. サービスの質の維持向上に資する人材育成と人材確保に努める
 - (ア) 各事業所の事業方針を職員が正しく理解共有し、目標を持ちながら運営に携わることができる
 - (イ) 各職種の専門性を伸ばせるよう、勉強会、研修会を企画実施する
 - (ウ) センター内事業所および淡路エリア内施設間での事例検討会やカンファレンスを充実させ新たな気づきや発展に繋げる
 - (エ) 地域の方に必要とされるサービスが継続できるように人材確保に努める
2. 働きやすい職場をつくる
 - (ア) 皆が働きやすい職場について考える機会を持つことでより良い職場を一緒に作っていく
 - (イ) 時間外勤務の削減、有給や長期休暇取得を推進する
 - (ウ) 職員が交流する機会や場づくりを行う
 - (エ) 職場内の機器や環境を整えることで業務がスムーズに進むようにする
3. 経営の安定化を図る
 - (ア) 各事業所が収入を意識した運営を行う
 - (イ) ケアセンター内での連携を図ることで加算要件取得を推進する
 - (ウ) 通所介護は利用者のニーズに応えるために6月に定員を30名に変更する
 - (エ) 在宅での安定した生活をサポートするためにも、聖隷淡路病院との連携を強化（レスパイト入院、診療訪問部門との連携）する

4. 地域における公益的な取り組みを図る

- (ア) 2026 年 2 月にケアセンター祭りを開催し地域住民と交流を図る
- (イ) 地域のボランティア活動等へ積極的に参加する
- (ウ) 地域住民などに対する情報提供や相談、人材育成のための研修の実施を行う

【数値指標】

訪問看護事業（聖隷訪問看護ステーション淡路）

医療事業		介護給付		予防給付	
月訪問数	単価	月訪問数	単価	月訪問数	単価
324 件	11,600 円	846 件	8,720 円	43 件	8,000 円
サービス活動収益		138,160 千円	職員数（常勤換算）		21.4 名

居宅介護支援事業（聖隷ケアプランセンター淡路）

月間請求件数		平均単価		訪問調査 月件数	サービス 活動収益	職員数 （常勤換算）
介護	予防	介護	予防			
270 件	38 件	11,600 円	4,500 円	3 件	55,900 千円	8.9 名

訪問介護事業（聖隷ヘルパーステーション淡路）

介護給付		予防給付		障害（自立支援）		障害（移動支援）	
月訪問数	単価	月訪問数	単価	月訪問数	単価	月訪問数	単価
940 件	4,190 円	78 件	3,030 円	199 件	4,150 円	12 件	4,350 円
サービス活動収益		64,190 千円		職員数（常勤換算）		6.8 名	

通所介護事業（聖隷ライフサポート津名）

	介護給付		予防給付	
利用定員	延べ利用者数	6,089 名	延べ利用者数	2,466 名
25 名	1 日平均数	23.7 名	1 日平均数	9.6 名
営業日数	単価（1 人 1 日）	6,880 円	単価（1 人 1 日）	5,150 円
257 日	サービス活動収益	54,660 千円	職員数（常勤換算）	10.4 名

聖隷こども園夢舞台

園児の減少は進む一方だが、育休の早期復帰など女性の就業率が上昇したことを受け、2024年度の入園数は、さほど落ち込みはなかった。地域の傾向として、途中入園の希望が多いため、ニーズに応じていけるこども園を目指す。

選ばれる園となり、長く在園してもらうには、職員が高い専門性やスキルを身に着け、さらなる質の向上が大事なポイントとなる。また、優秀な人材を確保し、働きやすい職場環境を整えていく。

独自のオリジナリティを出すことを目的に、2023年に閣議決定された「こども未来戦略」において「誰一人取り残さない」社会を実現する観点と、多様な社会参加への支援に向け、2026年4月を目標に園の空きスペースを利用して療育事業の開設に取り組む、他園との差別化を図りたい。

【施設理念】

「隣人を自分のように愛しなさい」（マタイによる福音書 22:39）

キリスト教の精神を基本理念とし、児童福祉法、児童憲章、幼保連携型認定こども園教育・保育要領、キリスト教保育指針に基づいて、心身ともに豊かな子どもを育てる

【経営方針】

1. 愛されて愛する心を知り、お互いが大切な存在であることを知る
2. 一人ひとりの違いに気づき、お互いを認め合いながら共に主体的に生活をする
3. 自己発揮できる環境の中で創造性を育てる
4. 在園、地域の子育て家庭が、心豊かな環境で子育てできるように支援する

【事業・運営計画】

1. 高い専門性と理念に基づいたサービスの実践
 - (ア) 幼保連携型認定こども園教育・保育要領に基づいた保育計画を立案し、個々の子どもの興味や関心に寄り添いながら、遊びを通して主体性を引き出し、そこから行事へと繋げていくように、計画性のある見通しを持った保育実践を行う
 - (イ) 園児の成長発達にあった玩具や環境を整え、園児一人ひとりが安心して自己発揮できる関わりに努める
 - (ウ) 近年子どもの発達過程において怪我や、集中力の低下などが目立つため、体幹やボディイメージなどが育つ活動を意識的に取り入れていく
 - (エ) 子どもたちに絵本の読み聞かせや遊び、実験などを通して SDGs に取り組み、園全体で考えるきっかけをつくる
2. 信頼され、選ばれ続ける園となる
 - (ア) 園だより・クラスだよりなどで、保育に対する理念、願い、感謝を伝え、園の方向性を示していく
 - (イ) 園行事の様子や子どもたちの日常をドキュメンテーションや映像で保護者に発信していく

(ウ) BCP を活用し南海トラフ地震、その他の災害などの非常時に、円滑に子どもの安全を確保し、業務を継続できるように備える

3. 地域における公益的な取組を継続実施する

(ア) 人材の確保と育成

- ① 中学生・高校生の職場体験やボランティアを積極的に受け入れ、次世代育成に貢献する
- ② 大学生・専門実習生の受け入れを積極的に行い、雇用へ結び付けられるようにしていく
- ③ 職員のスキルアップとモチベーションを上げるため、積極的な外部研修の提供と、参加しやすい環境の調整をする

(イ) 地域や他機関との連携

- ① 市の巡回相談や各種団体等と情報共有を図り、地域の安心・信頼できる居場所となれるように相談等にも応えていく
- ② 就学後もケース会議や参観日などを通して継続的に子どもたちの成長を見守る
- ③ 地域の子育て家庭の支援のひとつとして、必要な時に病後児保育事業が利用できるように地域に向けて利用方法等の案内をしていく
- ④ 子育て支援事業で来園される親子に対し、専門職として積極的に関わることで支援に努める。また、給食試食会・ベビーヨガなど子育てイベントの充実を図り、毎週の園庭開放により、孤立する母の交流スペースを確保する
- ⑤ 法人内の介護福祉施設や病院と連携をとり、利用者と園児との交流を図る

4. 社会変化に対する新たなチャレンジ

(ア) 淡路市と協議しながら、療育事業が開設できるよう調整していく

(イ) 淡路市から委託され、市内で初めての「誰でも通園制度」に取り組み地域に貢献する。

5. 健康経営

(ア) 精神衛生を守り、業務の生産性を高めるため、連続5日以上 of 休暇を推奨する

(イ) 職員の業務負担軽減ができるようにクラスの編成や、コドモンでの ICT 化を進め、ワークバランスが保てる働きやすい環境を構築する

(ウ) 年度末には保護者に一年間を振り返り（アンケート）評価してもらい、開示する

【数値指標】

	0 歳児	1 歳児	2 歳児	3 歳児	4 歳児	5 歳児	合計
利用定員 (2・3 号)	5 名	5 名	15 名	21 名	22 名	22 名	90 名
利用定員 (1 号)	—	—	—	5 名	5 名	5 名	15 名
利用定員合計	5 名	5 名	15 名	26 名	27 名	27 名	105 名
一日平均入所者数	5 名	12.6 名	18 名	21 名	20.5 名	36 名	112.5 名
年間入所延人数	60 名	151 名	216 名	252 名	246 名	432 名	1357 名
入所率	100%	251.6%	120%	80.8%	75.9%	133.3%	107.7%
開所日数 (延べ)	292 日 (教育週数 49 週)						
サービス活動収益	174,053 千円						
職員数 (常勤換算)	25.1 名						

【実施事業】 延長保育、障がい児保育、一時預かり保育、病後児保育

野上あゆみ保育園

野上あゆみ保育園・のがみっこくらぶ・ にじっこくらぶ

価値観が多様化していく中、子どもも大人も「変化する状況に対応できる力」を育む必要性を感じる。そのためには先ず職員が主体的に考え行動できる機会を増やしていく。

少子化が加速し、質の高い保育が増々求められていくため、専門性や高いスキルを身に付けていけるよう、外部研修や園内研修を積極的に取り入れ学びを深め、ゆとりを持って保育に向かえるよう、チーム保育を推進し ICT を有効活用しながら業務改善を進め、働きやすい職場作りを目指す。

また、在園児の家庭だけでなく、地域の子育て家庭にとっても身近な居場所として頼りにされる園でありたい。

【施設理念】

「あなたがたも愛によってあゆみなさい」 ―エフェソ 5-2―

【経営方針】

1. 私たちが神様に愛されて生かされるように、子どもたちに愛をもって接し、愛をもって子どもたちの心と身体を守る
2. 職員と保護者が、良い関わりをもち、子どもたちの成長を共に喜び合う
3. 地域の中でたくさんの人が集い、交わることのできる保育園とする

【事業・運営計画】

1. 保育の質の向上への取り組み

(ア) 職員が保育理念・キリスト教保育を根底とした保育方針を理解し、子どもたちの主体性を大切にひとりひとりの声や思いを保育実践に繋げていく。子どもや保護者の些細な違和感から早期アプローチを心がける。園の理念や思いを保護者に伝えていくことを意識する

(イ) 異年齢児や小学生との交流を通して、子どもの視野や社会性を広げる。また、自ら活動する中で SDGs を意識して取り入れられる環境を整えていく

(ウ) 子どもたちの姿や育ちについて保護者に伝える場として行事や定期的な懇談会を実施し、有意義な時間を共有できるようにする。子どもの個々の特性を職員間で共有し対応を考えていく。必要に応じて保護者へ園の様子や対応を伝えていく

(エ) 野菜を栽培し生長にかかわることで収穫することを喜び、日々の食に興味を持ったり料理に対して感謝したりする気持ちが育つよう年齢に応じた食育を展開する

(オ) 2 つの放課後児童クラブ同士や小学校との情報交換、共有する機会を作っていく。子ども達の安心できる生活の場となることを心掛け、保護者と共に考える姿勢を大事にし、子どもの育ちを支えていく

(カ) 保育園と児童館、放課後児童クラブが連携をとり、地域の子育て家庭へ協力してできることを検討する

(キ) 会議の内容を検討し、個々の思いや考えを積極的に伝え合えるような方法を取り入れていく。また非常勤職員とも保育や園の理念について語り合う機会を増やしていく

2. 施設の防災力の強化

- (ア) 職員全体が防災意識を高めて取り組むことができるよう、防災委員会、の中で避難訓練の方法を検討していく
- (イ) 災害時引き渡し訓練への参加を通して、保護者の防災意識を高めていく
- (ウ) 危機管理委員会の内容を検討し、外部で起きた事例をもとに園内での危険な場所等の見直しを行う

3 地区施設との連携

- (ア) 同法人事業（聖隷逆瀬川デイサービスセンター・結いデイサービスセンター）との交流を持つことを意識する
- (イ) 隣接している他法人高齢者施設と様々な形で交流を持ち、地域との関わりを大切にする

4 「人づくり」への取り組み

- (ア) 研修への参加
 - ①教育アドバイザーからポイントを教わりつつ、実践を伴った研修への積極的な参加
 - ②聖隷保育学会・階層別研修・あゆみ合同研修・キャリアアップ研修に参加
 - ③逆瀬川あゆみ保育園の4歳児受け入れに向けての交流・引継ぎを実施
 - ④園内研修で興味のある事に取り組み、自主性や積極性を養い、保育の質の向上を目指す
 - ⑤保育職ラダーや目標参画、自己評価の活用により目的意識の明確化を図る
- (イ) 次世代育成
 - ①トライやる・ウィーク（職業体験）や宝塚西高等学校の実習、大学生ボランティアを受け入れる。実習生や学生アルバイトを積極的に受け入れ、採用へ繋げる

5 地域における公益的な取り組み

- (ア) 安全な環境のもと、積み木遊び、足育講座、伝承音楽遊び、観劇などを計画する
- (イ) 地域のニーズを探り、子育て支援プログラムの充実化を図る
- (ウ) 子育て支援担当者による相談事業の充実

【数値指標】

	0歳児	1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児	合計
利用定員（2・3号）	9名	10名	12名	14名	22名	23名	90名
一日平均入所者数	9名	15名	14名	14名	27名	28名	107名
年間入所延人数	108名	180名	168名	168名	324名	336名	1,284名
入所率	100%	150%	116.6%	100%	122.7%	121.7%	118.9%
開所日数（延べ）	293日						
サービス活動収益	187,348千円						
職員数（常勤換算）	26.9名						

【提供事業】

一時保育事業、延長保育事業、障がい児保育、子育て支援事業、放課後健全育成事業

野上児童館

次世代を担う子どもたちの健全育成と子育て支援を常に意識しながら、地域に根ざした魅力ある児童館活動を目指していく。子どもの居場所作りを行う上では、現状、利用が多い乳幼児や小学生だけでなく、高校生世代までの多様な年齢層に適した環境作りを進めていく。その上で、社会情勢の変化にあわせ、児童館の機能・役割を職員間で再確認し、利用するすべての人が安心して過ごせる居場所を提供していきたい。

配慮を必要とする家庭への支援については早期対応を心がけ、また専門機関とスムーズな連携を取り、共有や対応に努めていきたい。

【施設理念】 地域の中で信頼され、愛される児童館を目指す

【経営方針】

1. 来館者と職員が関わる中で、互いの信頼を築き、遊びの楽しさ、おもしろさを感じてもらいながら、いつでも気軽に相談ができるようなあたたかい雰囲気作りに努める
2. 地域のもつニーズを把握し、それに合ったプログラムを企画推進する。そして、子どもや子育てに不安を抱える保護者にとって、心やすらぐ児童館として地域の子育て支援の拠点を目指す
3. 関連する地域の諸機関との協力、連携により、子どもをとりまく様々な課題解決を図るためにコミュニティワークを進める

【事業・運営計画】

1. サービスの質の向上

- (ア) ニーズに合わせて乳幼児や小学生等への様々な活動を企画する
- (イ) 育てた食材を使って、年齢に応じた食育を提供していく
- (ウ) 「ホールで遊ぼう」の内容を充実し、プログラムを実施していく
- (エ) 玩具やゲーム等、安心安全で遊べる環境作りを目指す
- (オ) 放課後子ども教室等、地域の方の活動に協力できる体制を整えていく
- (カ) 児童館と保育園、学童保育が協力して行うことができる活動を検討する
- (キ) 中高生の居場所作りとして行っている開館延長の周知方法を考え、参加を促していく

2. 地域との連帯の強化

- (ア) 小学校、中学校、自治会、まちづくり協議会などとの関わりを深め、情報の共有を行い子育て力の向上を目指す
- (イ) 出前児童館事業は、場所、時間帯を再考し地域の協力を得ながらニーズに見合った実施を進め定着させる
- (ウ) 学校や地域とのつながりを意識し、行事等に児童館ができることを検討する
- (エ) 来館者の悩みや思いに寄り添いつつ、利用者に必要な支援方法を模索する

3. 職員の資質向上

- (ア) 宝塚市児童館交流研修等へ積極的に参加をする
- (イ) 専門性を高めるため子育て支援研修等に参加をする

逆瀬川あゆみ保育園

少子化は、園にとって大きな課題であり、数年先を見越した運営を考える時期にきていると感じており、様々な条件を踏まえた検討を行う。子どもも大人も尊重し合い、つながりを意識した組織を作ることが、保育の質の基礎となり、質の向上へと繋がっていくと考える。そのために、職員間で子どもの姿をベースに語り合う風土が今以上に浸透していけるよう、会議の中に少人数でのグループワークを導入していく。また、個々の職員が自分の目標を意識し、保育の振り返りに繋がるように短時間面談などを実施していく。

【施設理念】 キリスト教保育 「愛によって歩みなさい」

【経営方針】

1. 愛されて愛する心を知り、ひとりひとりが大切な存在であることを知る
2. ひとりひとりの違いに気づき、認め合い共に生活する
3. 楽しい環境の中で主体性、創造性を育む

【事業・運営計画】

1. 保育の質の向上

(ア) 保育の基本方針について職員理解の統一を図る

- ① 保育理念、施設目標を念頭に「目の前の子どもにとって」という意識を常に持ち保育を行う
- ② 適切な声の大きさや丁寧な言葉使い、穏やかな関わりなどを保育者が実践し、主体的に行動する。また、子どもへのかかわり方を振り返る機会を持つ
- ③ 子どもの興味・関心があることに目を向け、時期を逃さず環境を整える

(イ) 保育者として基本に立ち返る

- ① 子どもひとり一人の違いをよく観て知ろうとし、気持ちを受け止め、適切な関わりと援助を行う
- ② キリスト教保育指針を学び、聖隷の保育士として日々を大切に過ごす
- ③ わらべうたやリズム遊びを積極的に保育に取り入れ、楽しみながら体の使い方や体幹を育てることを意識する

(ウ) 保育者研修の充実・人材育成

- ① あゆみ合同研修や年度末研修、保育学会、その他研修を通して、専門生を高める
- ② 職員自ら興味を持った外部研修（リモート研修含む）を積極的に受講する
- ③ 保育の中での気づきを掘り下げて研究し、学会などで主体的に発表する
- ④ キリスト教保育冊子を使った毎月の学びや、グループディスカッションを多く取り入れ、コミュニケーションをとりながら学びを深める

2. 保護者との交流

(ア) 保育参観や保育参加・懇談会・個別面談・コドモンによるおたより・連絡ノート・ドキ

メンターを通して活動の様子を知らせる

(イ) コドモンに頼りすぎることなく、出来るだけ保護者との対面コミュニケーションを大切に
にする

3. 野上あゆみ保育園・御殿山あゆみ保育園との3園連携

(ア) 合同研修や学会を通して職員同士も保育の情報交換ができる機会を作る。また、研修委員は「自分達で学会や合同研修を組み立てていく」という意識を持ち、委員会を進めていく

(イ) 野上あゆみ保育園の3歳児との交流や園庭活動を日常の活動の中に取り入れ、3歳児の不安を軽減できるようにする

4. 地域における公益的な取り組み

(ア) 育児孤立を防ぐため、担当職員が、保護者との信頼関係の構築を目指し、安心できる場所、人となれるよう丁寧にかかわっていく。園庭開放、室内開放（看護師相談・足育・運動遊びなど）を通して保護者同士の繋がりを育てる

(イ) 中学生のトライやる・ウィーク（職業体験）や高校生ボランティア、保育実習生、子育て支援員見学実習などの受け入れを積極的に行う

(ウ) 一時保育に対する地域ニーズにタイムリーに応え、子育てに難しさを抱える保護者の支援を行う

(エ) 3歳児クラスの子どもは、近隣の公園のごみ拾いなどを経験させる

5. 食育

(ア) 簡単なクッキングを日常的に行い、香りや音など、五感で楽しめる機会を増やす。また、乳児クラスも植物の生長過程を感じとれるような環境設定を考える

(イ) 給食を通じて旬の食材の名前や味、食べることの楽しさを子ども達に伝えていく

6. 防災・防犯訓練

(ア) 毎月の防災訓練内容を職員が立案、実践していく。野上あゆみ保育までの避難訓練を年1回、実施する

【数値指標】

	0歳児	1歳児	2歳児	3歳児	合計
利用定員（2・3号）	6名	13名	13名	13名	45名
一日平均入所者数	5.5名	13名	13名	12.8名	44.3名
年間入所延人数	66名	156名	156名	154	532名
入所率	91.6%	100%	100%	98.7%	98.5%
開所日数（延べ）	292日				
サービス活動収益	140,192千円				
職員数（常勤換算）	20.0名				

御殿山あゆみ保育園

防災に対する職員ひとりひとりの気づきを取り入れられるよう、委員会を中心に広い視野を持って対策につなげ安全安心を心がけたい。また、全体的な計画などを意識し、保育の一貫性の大切さを職員全体で周知したい。計画が生きたものとなるようその都度見直し検討していく。保護者とのコミュニケーションでは、子どもの姿を ICT システム（コドモン）の活用や直接話すなどして真摯に向き合う姿勢を大事にしていきたい。子育てに悩んだり、つらさを感じたりしている家庭に対し園でできることを考え対応していく。求められることが多い中、業務改善を職員みなで検討することで、ゆとりを持って保育できる環境の充実を図る。

【施設理念】

「あなたがたも愛によって歩みなさい」 エフェソの信徒への手紙 5:2

【経営方針】

1. 愛されて愛する心を知り、一人ひとりが大切な存在であることを知る
2. 一人ひとりの違いに気づき、お互いに認め合いながら共に過ごす
3. 豊かな環境の中で自己発揮し、創造性を育てる

【事業・運営計画】

1. 事業団理念や施設理念、保育の基本方針の確認
 - (ア) 事業団理念をもとに保育目標の確認やキリスト教保育を理解し、園の理念や思いを保護者に伝えていくことを意識する
 - (イ) 研修や会議の場を通してグループワークの時を持ち、保育方針に沿いながら子どもひとりひとりにあった保育実践や保育環境を共に考える
 - (ウ) パート会議で保育の共有を意識化し、また職員が参加するなどして互いの理解に努める
2. 保育の質向上への取り組み
 - (ア) 愛着関係を基盤に、ありのままを受け止め認められる環境の中で、自己肯定感や他者に対する基本的な信頼感を育てる。ひとりひとりの声や気持ちに寄り添い子どもの「やってみよう」を大切にしながら、社会性、学びに向かう力等を培う
 - (イ) 異年齢で過ごす時間を自然に持てるよう考え、年齢の枠を超えた関わりを大切にする
 - (ウ) 父親同士が交流する機会を開くことで学年を超えたつながりを作り、父親の育児参加をサポートする
 - (エ) 子どもや保護者の些細な違和感を拾い上げ、個別対応が必要な子どもたちの理解を深めるため、専門機関と連携を取りながら定期的にケース会議を行う。また、各家庭に沿った対応を考え、必要な支援を心がける
3. 食育の推進
 - (ア) 保育士や法人管理栄養士、栄養士、調理師との連携による年間食育計画を作成実施する
 - (イ) 保護者、子どもに向けて食に関する様々な情報の発信や相互の関わりを持つ

- (ウ) 種や苗からの野菜の栽培、収穫の喜びを通して食への関心を持ち、感謝の気持ちを育む
4. 児童館と包括的な地域子育て支援の充実
- (ア) 児童館と連携しながら保育室開放や園庭開放などを実施する。子育て中の保護者の様々な思いに寄り添い、地域における子育て支援のニーズを知り応えていく
- (イ) 子育て講演会、給食（離乳食・乳幼児食）の試食会、子育て相談を実施する中で地域の社会資源となり、保護者の不安や悩みを知り受け止める
- (ウ) 保育士が専門性と自身の強みを活かした独自の子育て支援プログラムを計画し実施する
5. 職員研修の充実と人材育成
- (ア) 各自の課題に沿った外部研修に、主体的に参加する
- (イ) 聖隷保育学会や階層別研修、あゆみ合同研修、キャリアアップ研修への参加
- (ウ) 興味ある事柄を園内研修として取り組み、自主性や積極性を養い保育の質向上を目指す
- (エ) 保育職ラダーや自己評価、目標参画の活用により、自身の役割を考え、責任を持って仕事に従事する。また、目的意識の明確化を図る
- (オ) コドモンの配信内容を充実させ、保育を可視化し保護者理解につなげる
6. 他施設との連携
- (ア) 逆瀬川あゆみ保育園、野上あゆみ保育園との交流を図り、保育の質の向上につなげる
- (イ) 他法人高齢者施設との交流を積極的に行い、幅広い年齢層との関わりを大切にする
7. 防災対策の強化・充実（地域と共に）
- (ア) 防災委員の様々な観点から課題を見出し、職員と共に考えながら防災対策に取り組む
- (イ) 危機管理委員会での検証や外部の事例をもとに危険な場所の見直しを行う
- (ウ) 業務持続計画を実践に即したものとなるよう、内容を共有しその都度見直しを行う
- (エ) 引き渡し訓練を実施することで、保護者への防災意識を高める
8. 地域における公益的な取り組み
- (ア) 近隣の幼稚園や保育所、卒園児、小学校との交流
- (イ) 学生ボランティアや実習生の受け入れ

【数値指標】

	0 歳児	1 歳児	2 歳児	3 歳児	4 歳児	5 歳児	合計
利用定員（2・3 号）	9 名	21 名	22 名	22 名	23 名	23 名	120 名
一日平均入所者数	8.5 名	25.0 名	24.8 名	21.7 名	25.0 名	23.0 名	128 名
年間入所延人数	102 名	300 名	298 名	260 名	300 名	276 名	1,536 名
入所率	94.4%	119%	112.7%	92.1%	108.6%	100.0%	106.6%
開所日数（延べ）	293 日						
サービス活動収益	217,289 千円						
職員数（常勤換算）	32.9 名						

【実施事業】

一時保育事業、産休明け保育事業、延長保育事業、地域活動事業、特別支援保育事業

御殿山児童館

次世代を担う子どもたちの健全育成の推進を目的とし、地域に信頼される児童館であるために『地域子育て支援拠点ひろば型』事業として、子育て親子の交流を促進する場や機会の提供、相談・援助の実施や情報の提供、子育て講習の実施等、乳幼児親子への子育て支援の拡充に努める。また、小学生や中高生の余暇の居場所づくりの充実に加え、子ども間の様々な問題を保護者や地域、各関係機関と協議し、地域の実情と時代の風潮に合わせた事業展開を併設の保育園と連携をとりながら図っていく。また、虐待などの情報の収集、社会資源へ繋げるなど積極的に行いたい。

【施設理念】地域と関わりながら、ひとりひとりの居場所となる児童館を目指す

【経営方針】

1. 子どもや子育てに関わる大人からの声を大切にニーズに応えられるような環境づくりや、活動に遊び心を持って取り組む
2. 個々や集団での関わりを通して、感性を豊かにする活動を実施する
3. 地域や諸機関との連携を図りながら、コーディネーター的役割を担う

【事業・運営計画】

1. 児童館施設の利用児童の把握と支援
 - (ア) 日常的な児童館施設の開放と自由に安心して遊べる環境を整え、提供する
 - (イ) 利用児童の背景を把握することで必要な支援を的確に行う
2. 乳幼児親子支援
 - (ア) 発達年齢に応じた遊びや仲間作り活動を提供し「子育て」・「親育ち」を支援する
 - (イ) 保護者の子育てを支援し、保護者対象の講座を実施する
3. 小学生集団あそび及び支援
 - (ア) 運動遊びや自然体験活動・創作活動や視聴覚活動を通して仲間作りを支援する
4. 中高生居場所づくり
 - (ア) 自由に集える場の確保と多様な人とふれあう体験を通じて「心の自立」を支援する
5. 出前児童館
 - (ア) 児童館の事業と機能を地域に出向いて実施し、環境の整備と居場所作り、プログラムなどを提供し支援する
6. 地域組織活動の育成及び関係機関との連携・社会資源の活用
 - (ア) 地域における子育て支援の拠点として、的確な社会資源の活用、家庭や学校、関係機関との連携・協力を図る
7. 児童館運営委員会の実施
 - (ア) 適正な運営を展開・維持するため、運営委員会で広く意見を求め運営に活かす
8. 職員の資質向上
 - (ア) 児童館運営に関する共通の認識を持ち、コミュニケーションを活発に行う
 - (イ) コーディネーター機能の強化のため、職場内研修を行う
 - (ウ) 子育て支援に必要な内部研修を行う（発達、保育、障がい等）
9. 感染症対策
 - (ア) 利用者名簿を作成、館内の環境整備や消毒を行い、感染拡大防止の対策を講ずる

在宅・福祉奄美ブロック

奄美ブロックは事業部の再編により、各施設長が速やかに権限行使を行うよう努め、徐々に管理機能は強化されている。その一方長年に渡り奄美地区を支えてきた職員が定年退職を迎え、世代交代を進める時期となっており、新しいマネジャーの輩出、育成はブロックの共通課題であり、経営の安定とマネジャーの育成の両立を達成する必要がある。

2025 年度も、人材確保の困難、物価高騰、自然災害、利用者減等、社会環境の変化は継続することを前提として、ICT 機器やロボット活用を更に進め、職員の生産性の向上と心理的安全性を高める。また報酬改定の 2 年目であることを踏まえ、3 年間で取得すべき報酬・加算を定め計画的に算定することでサービスの質を高めていく

2024 年度掲げた、奄美佳南園在宅事業、春日保育所の再編成については引き続き遂行していく。また共通業務の集約、効率化について、事務業務、食事サービス部門の統合を検討していく。

2024 年度、法人が理念浸透調査を行った。奄美地区の理念浸透率は最も高く、聖隷の模範となるものであった。社会保障制度の進展により当初 2 つであった福祉施設も 4 施設となった。4 施設になって、視点が分化するのではなく、同じ聖隷の理念のもと、総合化力を高める年としたい。

【ブロック理念】

地域への感謝と貢献 私たちは必要とされることを待つことなく、自ら出向き、共に生きる

【中期事業計画における奄美ブロック目標】

私たちの仕事は自動化される

Society5.0 時代を見据えて全てが繋がり、共有され、新たな価値が生まれる

【2025 年度ブロック目標】

先人の事業精神を継承しつつ、今後もサービスを維持、向上できるよう総合化力を高める

【2025 年度重点目標】

1. ICT 機器、ロボットの更なる利用を推進し、生産性向上と、働きやすさ、サービスの向上を行う
2. サービスの質を高めることを目的に専門資格職や常勤職員の確保、支援体制を強化する
3. 奄美佳南園の在宅事業の再編、春日保育園の修繕計画を進める
4. 業務を共有化し職員の心理的安全性を高めるため事務・給食業務の統合を進める
5. 新たな加算取得の計画化、気候や感染症があっても稼働率の安定化するよう努める

(事業における主な取り組み)

【奄美佳南園】

- ① ICT 機器を利用し業務を削減すると共に（具体的目標）、サービスの質の向上の為、新たな加算の取得に努める
- ② 自然災害や感染症がまん延しても揺るがない安定稼働を目的とし、新規入所手続きの共有化や看護師と協力医療機関との連携をすすめる
- ③ 利用実態に合せ訪問入浴事業の廃止(9月予定)並びに、在宅事業（通所介護、居宅介護支援、訪問介護）の連携を高め利用者獲得に努める
- ④ 在宅事業の拡大、強化の為訪事業の実施を検討する
- ⑤ 聖隷チャレンジ工房のサービス向上の為、就労移行支援事業の就職定着率 30%を達成
就労継続支援 B 型においては、工賃向上を目指し、新たな作業品目を開発する
- ⑥ 聖隷国際人材センターと連携し外国人材の確保について検討を開始する

【春日保育園】

- ① 110 名の定員変更に伴う職員体制でも着実な利用者の受入れを達成する
- ② 新たに ICT システムコドモンの導入をし、早期の稼働開始と、利用者の利便向上に努め、また若手職員の積極的な参加を進め、やりがいを醸成する
- ③ リーダー育成の為主任、副主任、分野別リーダーの役割を明確化し、権限移譲を進める
- ④ 障害児を園に受入れるだけでなく、並行通園や、家族支援、専門職による専門的な支援を強化しのぞみ園との運営の連携を強化する
- ⑤ 奄美市と、大規模修繕に関し令和 8 年度の事業化を継続協議する

【のぞみ園】

- ① 児童福祉の中核施設として更なる、他機関との連携を深める
- ② 聖隷こども家庭総合支援センターと連携して、サービス利用に至れていない利用者やその家族支援を広げる
- ③ 臨床心理士、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士等の専門職の採用を進め、他職種連携を通じ、サービスの質の向上を目指す
- ④ 放課後等デイサービス（定員 10 名）の新たな拠点の計画の年度内に策定する

【聖隷かがやき】

- ①～③ のぞみ園と同様
- ④ 人材獲得に努め、稼働率を向上させ、地域のニーズに応える

【共通】

- ① 新採用人材を獲得する為、昨年同様福岡県など新たな学校先や求人先を開拓する
- ② ブロック全体で未収金管理方法を確立する
- ③ 事務集約拠点（奄美佳南園）の機能見直しと人事給与システムの見直しを通じ、事務ローテーションについて検討し、本部機能の強化を図る
- ④ 管理栄養士を含む食事サービス部門の一体的な運営を検討し、児童福祉施設の発注献立業務の統一や、奄美佳南園での完調品の導入、直営化を検討する

奄美佳南園

特別養護老人ホーム奄美佳南園・デイサービス・ホームヘルプ事業所
訪問入浴事業所・在宅介護支援センター・聖隷チャレンジ工房カナン

2024 年度介護・障害福祉サービス報酬改定、人口減少に伴う人材確保、物価高騰、自然災害等の対応において、全職員が協力し地域の高齢者や障害者へのサービス提供の継続、地域共生社会の実現に向け事業継続ができたことは、職員の努力の賜物である。

開園 50 周年記念式典を開催し、これまでの地域への感謝と先人達の弛まぬ努力への敬意を振り返り、既存する福祉事業の強化を図り地域にとって欠かすことのできない福祉拠点としての更なる価値を高めることを宣言した。

また、奄美佳南園デイサービスと春日デイサービスの統合、職員の業務効率化に向けた介護等記録方法の電子化、見守りシステム・インカムシステムの活用や、利用者の機能訓練の維持向上に向けた理学療法士の配置により、安全で快適な支援の実践、サービスの質の向上に努めた。

2025 年度は聖隷の理念と先人たちの実践を継承し、職員のつながり大切にし、利用者の自立支援に向け整備した ICT 機器の更なる活用やノーリフト化を推進した科学的介護の実践に共感する人材を確保・育成し、利用者の安全並びにさらなる業務の効率化やサービスの改革、職員のやりがいの向上に努めるとともに、経営基盤の強化のために在宅サービスの再編、奄美ブロック内の事務・給食等の共通業務の集約・効率化に向けた体制の整備に向けて検討・着手する。

【施設理念】

「夕暮れになっても光がある」

～私たちを必要として下さる方々を支え、このことを通じて

私たち自身も共に幸せになれる奄美佳南園になる～

【経営方針】

1. 利用者満足向上のために、高齢者・障害者複合サービス拠点としての機能を高める
2. 職員満足向上のために、福祉人材の育成と働き甲斐のある施設づくりを迫及する
3. 健全経営推進のために、既存事業の質・生産性の向上、需要の発掘・事業化に取り組む
4. 地域社会貢献のために、公益的な事業活動に積極的に尽力する

【事業・運営計画】

1. 利用者満足向上のための取組

- (ア) 自然災害や感染症がまん延しても揺るがないサービスの実施・継続できる体制づくりに向け、多職種による協力医療機関との連携をすすめるサービスの維持・継続に努める
- (イ) 利用者の尊厳を大切にし、職員の知識・技術向上のために研修等を活用し、サービスの質の向上へと取り組む利用者の安全な生活環境を高めるために、整備した機器等を活用し、事故予防や身体機能維持、嚥下調整食の提供や口腔機能の管理、誤嚥性肺炎等による入院予防、最後までその人らしく生活できるよう看取りケアの促進、利用者の個性・

- ニーズに合わせた個別支援計画を作成し、利用者の生きがいに沿った支援に取り組む
- (ウ) 重度化した在宅にお住いの利用者減少に伴い訪問入浴介護の利用者が大幅減少、年度内の事業廃止と訪問介護事業への自宅内入浴サービスを移行するとともに、訪問看護事業開設に向けた検討を実施し、重度化した利用者が在宅生活を継続できるよう体制を整備する
- (エ) 就労移行支援、就労継続支援B型の利用状況を踏まえ、地域の特産品等を生かした作業品目を開発し、利用者の工賃向上に努める

2. 職員満足向上のための取組

- (ア) 導入した ICT 機器のさらなる活用を推進し、生産性向上委員会を中心に間接業務を直接介護業務へ3%移行に向けた業務効率化に取り組む
- (イ) 職員採用に取り組むプリセプター制度の強化など新任職員、中堅職員の支援を強化し、福祉サービスの質の向上と離職率の防止に努める
- (ウ) 奄美大島内の急速な人口減少による働き手不足への対策として、聖隷国際人材センターと連携し外国人材の確保を検討する

3. 事業の成長と安定した経営基盤の構築

- (ア) 多職種による入所待機者の早期入所、医療機関への入院者フォローによる長期入院の削減（平均入院期間14日以内）を実施し、高稼働へと取り組む
- (イ) 離島の医師体制が持続に向けた体制づくりの実施による利用者の健康・生活機能維持に向けた加算取得（看取り、褥瘡ケア）に向け、進捗管理を徹底するとともに、医療的ケアの対応強化に取り組み加算取得を目指す
- (ウ) 利用者が在宅生活を維持することができるよう、身体介護を中心とした訪問系サービス（身体介護中心のサービス75%以上）を提供する
- (エ) 就労移行支援事業から利用者2名以上の就職及び6カ月以上の定着支援を実施する
- (オ) 奄美ブロックにおいての食事提供の一体的な運営方法を検討する
- (カ) 在宅・福祉奄美ブロックの事務業務の機能強化を図ることを目的とした事務機能の継続可能な体制づくりを検討するとともに、ブロック全体の未収金管理方法を確立する

4. 地域における公益的な取組

- (ア) 福祉拠点施設の経験や機能を活かし、地域支えあい活動及び介護者教室等を開催する
- (イ) 地域の社会福祉法人与連携し、地域における災害時支援・感染症対策支援・生活困窮等への支援に関する課題の解決に向け実践する
- (ウ) 生活困窮・社会と交流ができない青年期・高齢等自信を無くした方々へのアプローチや職場体験を実施し、就労意欲の向上・自信回復等に向けた機会を提供する

【数値指標】

	特養入所		短期入所		在宅介護支援センター
	従来型	ユニット型	従来型	障害	
利用者定員	50 名	30 名	10 名		
利用者延べ人数	17,520 名	10,622 名	3,186 名	99 名	1,200 名
一日平均利用者数	48.0 名	29.1 名	8.73 名	0.27 名	
稼働率	96.0%	97.0%	87.3%	0.27%	
稼働日数（延べ）	365 日	365 日	365 日	365 日	257 日
単価 （一人一日当り）	14,435 円	15,502 円	13,403 円	13,242 円	
サービス活動収益	252,909 千円	164,658 千円	42,708 千円	1,305 千円	5,760 千円
職員数（常勤換算）	36.2 名	22.2 名	4.2 名		1.1 名
	奄美佳南園デイサービス			就労支援	
	通所介護	総合事業	生活介護	移行支援	継続B
利用者定員	30 名			6 名	14 名
利用者延べ人数	5,012 名	2,082 名	231 名	769 名	3,879 名
一日平均利用者数	19.5 名	8.1 名	0.9 名	2.99 名	12.59 名
稼働率	65.0%	27.0%	3.0%	49.87%	89.95%
稼働日数（延べ）	257 日	257 日	257 日	257 日	308 日
単価 （一人一日当り）	11,403 円	6,012 円	8,335 円	10,562 円	13,036 円
サービス活動収益	57,144 千円	12,516 千円	1,928 千円	8,122 千円	50,563 千円
職員数（常勤換算）	11.2 名			8.3 名	
	訪問入浴介護		ホームヘルプ		居宅介護支援
	介護	障害	介護	障害	介護 予防
利用者延べ人数	173 名	67 名	4,840 名	739 名	780 名 120 名
一日平均利用者数	1.8 名	0.7 名	13.26 名	2.02 名	
稼働日数（延べ）	96 日	96 日	365 日	365 日	257 日 257 日
単価 （一人一日当り）	17,465 円	12,500 円	5,859 円	5,411 円	13,892 円 4,100 円
サービス活動収益	3,018 千円	840 千円	28,361 千円	3,999 千円	10,836 千円 492 千円
職員数（常勤換算）	1.0 名		7.2 名		2.3 名

春日保育園

保育の人材不足解消や労働環境の改善を目的に奄美市が官民一体となり連携を図る取り組みを始めた。働き手不足が深刻な中、保育士確保も難しい現状と今後進む少子化を踏まえ、2025年度は利用定員を減らし、新たな加算取得を目指し事業を継続する。また、保育システム（コドモン）の導入により、保育を可視化、保護者との連絡ツール構築など園の魅力を保護者や地域へ積極的に発信し、ICTを最大限に活用した取り組みを進める。さらには、業務の効率化、省力化を図り職員の働く環境を引き続き整え、心の安定が保育の質の安定につながるよう努めていく。保育の振り返りや職員同士の対話を大切にしながら、組織体制づくりの見直しに力を入れる。「こどもにとって今大切な事は何か」を常に考えながら、職員もこどもたちもみんなが居心地の良い保育園を目指す。

【施設理念】

「今の時を喜びと感謝をもって生きる」

～こどもたちの心身の成長を私たちが幸せと受けとめ共に育つ春日保育園でありたい～

【経営方針】

1. 専門性の向上と経営の安定化
2. 働きやすい職場環境作りとリーダー人材育成への取り組み
3. 地域交流と地域貢献を積極的に行う

【事業・運営計画】

1. 専門性の向上と経営の安定化

(ア) 保育の質向上への取り組み

- ① 職員一人ひとりが施設理念、保育目標をもとに、こどもの育ちを支え「こどもにとって今大切なことは何か」を念頭におき保育を行う
- ② 適切な声の大きさや丁寧な言葉使い、穏やかな関わりなどを保育者が実践し、主体的に行動する
- ③ 保育の振り返りや意見交換の時間を多く取り入れ、こどもへの視点、学びを深める
- ④ こども一人ひとりの違いに気づきお互いが大切な存在であることを知り、認めあいながら、豊かな経験を重ね創造性や意欲を育てる
- ⑤ 保育システムを活用し、園での様子を可視化、子育て情報等保護者へ積極的に発信し相互理解を深めると共に保護者に寄り添った支援に力を入れる
- ⑥ 親子教室の開催を継続的に行い、親子支援と共に保護者同士のコミュニケーションやつながりを大切にする
- ⑦ 併行通園児関係機関と情報共有や連携などを積極的に行い、丁寧な支援に務める

(イ) 経営の安定化

- ① 奄美ブロックにおける専門的支援の連携と運営面の協力体制を強化する
(専門職との連携・給食提供体制・事務・人材育成等)
- ② 各種加算の取得と待機児対応などを通して経営の安定化に取り組む
- ③ 奄美市と大規模修繕に関し令和 8 年度の事業化を継続協議する

2. 働きやすい職場環境作りとリーダー人材育成への取り組み

(ア) 働きやすい職場環境作り

- ① ICT を最大限に活用し、業務省力化、超過勤務削減に取り組む
- ② 休憩時間を活用した「睡眠タイム (15 分)」を取り入れ、心身の安定やパフォーマンス向上につなげる

(イ) リーダー人材育成への取り組み

- ① 組織体制の構築を図り、リーダーとしての役割 (主任・副主任・分野別リーダー) を明確化する
- ② キャリアアップ研修参加や資格取得講習受講などを促進する
- ③ 奄美ブロック内で先を見据えた職員交流の機会、働きかけに取り組む

3. 地域における公益的な取り組み

- (ア) 地域の高齢者や子育て家庭の憩いの場となるよう園庭開放を実施し交流を図る
- (イ) 中学・高校生の職場体験やボランティア、施設見学を積極的に受け入れ次世代育成に貢献する

【数値指標】

定員 110 名	0 歳児	1 歳児	2 歳児	3 歳児	4 歳児	5 歳児	計
入所数 4/1 現在	4 名	18 名	20 名	22 名	22 名	22 名	108 名
一日平均入所者数	6 名	18 名	20 名	22 名	22 名	22 名	110 名
年間入所延人数	72 名	216 名	240 名	264 名	264 名	264 名	1320 名
入所率	83.0%	83.3%	82.9%	83.3%	83.3%	83.3%	83.3%
開所日数 (延べ)	292 日						
サービス活動収益	138,824 千円						
職員数 (常勤換算)	27.8 名						

【提供事業】

延長保育事業 一時預かり事業

のぞみ園

児童発達支援センター、保育所等訪問支援、放課後等デイサービス、相談支援

2024 年度は、障害福祉サービスの報酬改定が行われると同時に児童発達支援センターの具体的役割を示すスタートアップマニュアルがこども家庭庁より示され、「離島における発達支援の取組みの事例」としてのぞみ園の取組みが紹介された。このことは、1996 年の開設から親子の願いに真摯に向き合い地域と共に発達支援に取り組んできた一つの成果でもあった。しかし、その一方で、社会環境の変化への対応や専門職を含めた人材確保、世代交代を背景とした管理体制の見直しなど取り組まなければならない課題も多い。

2025 年度は、2024 年度の目標として掲げた「チームビルディング」を引き続き推し進めていくと同時に、人材確保や育成、共通業務の集約化など奄美ブロック各施設との連携体制を強化していく。この取組みを通して、継続的に発生するであろう社会環境の変化への対応力を高め、より安定した経営基盤を構築し、聖隷の理念のもと「人の心に響く仕事」「地域への感謝と貢献」を職員と共に実践していく。

【施設理念】

「今の時を喜びと感謝を持って生きる」

～こどもたち一人ひとりの育ちと親子の願いに寄り添う支援～

【経営方針】

1. 事業所としての機能強化と経営の安定化
2. 専門職としての成長と活躍できる環境作り
3. 地域交流と地域貢献（公益的な事業活動への取り組み）

【事業・運営計画】

1. 事業所としての機能強化と経営の安定化

ア) 児童発達支援事業

- ① 臨床心理士の採用と関係機関との連携を通してこどもの発達段階や困り感を正確に把握し、個別や集団支援を通してこどもの成長、発達をサポートする
- ② のぞみ園通園を希望する待機者に対して、利用開始前に継続的にサポートできる機会を提供し、親子が安心して支援につながるための環境作りを行う
- ③ 保護者が気軽に相談しやすい機会作りを行う（親子登園・個別面談・保護者勉強会等）

イ) 放課後等デイサービス事業

- ① 年齢・発達状況を踏まえながら、本人の意思決定支援と将来の自立に向けた体験型支援や聖隷チャレンジ工房カナンとの交流、地域移行支援を実践する
- ② 放課後等デイサービス（定員 10 名）の新たな拠点の計画を具体化する

ウ) 保育所等訪問支援事業

オンラインでの情報共有や訪問支援を通して、通園児の支援に関わる様々な関係機関との連携を深め、地域支援のバックアップと地域のインクルージョン推進に取り組む

エ) 相談支援事業

相談支援がつなぎ役となり他機関や多職種と協同して、利用者本人や家族の多様な相談（きょうだい児支援含む）に対応できる体制作りに取り組む

オ) 経営の安定化

① 奄美ブロックにおける専門的支援の連携と運営面の協力体制を強化する（専門職との連携・給食提供体制・事務・人材育成等）

② 報酬改定に対応した各種加算の適正な取得と待機者対応などを通して経営の安定化に取り組む

③ ホームページの活用など広報活動の実践

2. 専門職としての成長と活躍できる環境作り

ア) 専門職として地域で活躍できる人材の育成（ICTを活用して法人内外の人材との交流や専門研修への参加を計画的に行う）

イ) 利用者の利便性向上と業務の効率化を目的に新たな ICT システムの導入を検討する

ウ) 新規・中途採用者の獲得に向けた求人活動の実践

3. 地域交流と地域貢献

ア) 地域向け親子教室や公開療育、園庭開放などを通して子育て支援、保護者の交流促進、療育施設を知ってもらう取り組みを行う（公益的な取り組み）

イ) 地域の視察研修・福祉体験・実習受け入れや関係機関との情報交換会を行い、療育支援についての理解を広める活動を行う

ウ) 市町村の親子教室や発育・発達クリニックに職員を派遣し、地域の保健師と連携し保護者の「気づき」へのアプローチや乳幼児期の早期支援へのつなぎに関与する

エ) 発達障害児とその家族の災害時における避難場所として活用できるように、災害対策用備蓄品の整備と環境整備に取り組む

【数値目標】

	児童発達支援	保育所等 訪問支援	放課後等 デイサービス	相談支援	障害児 相談支援
利用者定員	25 名		20 名		
利用者延べ人数	5,977 名	61 名	4,089 名	21 名	560 名
一日平均利用者	25.43 名	0.26 名	17.40 名	0.09 名	2.38 名
稼働率	100.52%		84.90%		
稼働日数（延べ）	235 日	235 日	235 日	235 日	235 日
単価（一人1日当り）	16,183 円	17,836 円	8,838 円	21,333 円	23,818 円
サービス活動収益	96,726 千円	1,088 千円	36,140 千円	448 千円	13,338 千円
職員数	19.2 名	0.8 名	8.1 名	3.2 名	

聖隷かがやき

児童発達支援センター 保育所等訪問支援 放課後等デイサービス 相談支援

2024年度は児童福祉法による改正で児童発達支援センターの中核的役割が明確化された。多職種連携など「こども、家族」を真ん中に高度で専門的な支援の提供も必要とされ、体制的な整備を求められている。聖隷かがやきにおける中核的役割としては通所支援に加え事業所単独の親子教室、行政と連携した親子遊びなどを通して地域支援を実践しているが、離島地域における専門職の人材確保は大きな課題となっている。

2025年度はこれらの課題に対して地域での幅広い福祉ニーズや利用される個々のニーズに応えるために専門的人材確保に努めていく。また、聖隷の理念のもと、奄美エリアでの連携を深め職員の資質向上を図り、地域で必要とされる施設として邁進していく。

【施設理念】

「今の時を喜びと感謝を持って生きる」

～障害や成長の発達につまずきのあるこどもの支援～

【経営方針】

1. 療育施設としての機能の強化と経営の安定化
2. 職員の働きやすい職場環境作りとリーダー人材育成への取り組み
3. 地域における公益的な取り組み

【事業・運営計画】

1. 療育施設としての機能の強化と経営の安定化

(ア) 療育の質向上への取り組み

- ① 年齢や発達特性に即した個別支援計画を作成し、丁寧な個別、集団支援を基本とした療育を行い、多職種連携での支援を実施する
- ② 5領域における総合的な支援において、一人ひとりのこどもの状態に合わせた課題を抽出して、保護者と共に共有し支援する
- ③ 家庭・保育所・学校と支援の共有化を図り、インクルージョンの推進に努める

(イ) 家族支援への取り組み

- ① きょうだいや親子関係なども視野に入れたアセスメントを行い、心理面のサポートの取り組みや保護者同士の仲間作り、子育て支援を目的に、年1回のペアレントプログラムを実施する
- ② 保護者会活動での勉強会や、放課後等デイサービスの成長した先輩達との交流機会などを通して、子育ての見通しが持てる支援を実施する

(ウ) 地域支援への取り組み

- ① 保育所、幼稚園向けの公開療育や施設見学の受け入れ、地域向けの勉強会などの開

催などを通して、地域と顔の見える関係性を構築する

- ② 地域の子育て相談窓口として「遊びの広場」を行政と連携し実施する

(エ) 経営の安定化

- ① 職員体制を整え適正な加算取得に努める
 ② サービス利用に至れていない親子支援を目的に聖隷子ども家庭総合支援センターとの連携を模索する
 ③ 専門職の人材獲得に努め稼働率を向上させる

2. 働きやすい職場環境作りと人材育成への取り組み

- (ア) 保護者との連絡ツールを ICT 化することで保護者の利便性向上と業務の効率化を図り職員の超過勤務削減に取り組む
 (イ) 職員の資格取得推進、サービス向上の為の勉強会、研修参加を促進する
 (ウ) 役割分担表、職務権限表を作成し職員 1 人ひとりが主体性を持って業務に取り組める環境作りを行う

3. 地域における公益的な取り組み

- (ア) 施設開放による子育て相談窓口の設置や親子あそびの場の提供を行い療育施設の理解を広げる
 (イ) 災害時、非常時における自治体との相互支援体制を構築する
 (ウ) 福祉体験学習や専門学校等の実習受け入れを通して、将来の福祉人材として次世代の育成に寄与する

【数値目標】

	児童発達 支援	保育所等 訪問支援	放課後等 デイサービス	障害児 相談支援	特定 相談支援
利 用 者 定 員	20 名		10 名		
利 用 者 延 べ 人 数	4,561 名	45 名	2,464 名	207 名	168 名
一 日 平 均 利 用 者 数	18.9 名	0.19 名	10.2 名		
稼 働 率	94.5%		102%		
稼 働 日 数 (延 べ)	241 日	241 日	241 日		
単価 (一人一日当たり)	15,263 円	14,000 円	10,756 円	18,517 円	16,390 円
サービス活動収益	69,615 千円	630 千円	26,504 千円	3,833 千円	2,753 千円
職員数	11.9 名	0.1 名	7.0 名	0.8 名	0.2 名